

令和3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業

地域における効果的な薬剤師確保の
取組に関する調査研究

令和3年度 総括研究年度終了報告書

研究代表者 安原 真人

令和3（2022）年 3月

目 次

I. 総括研究年度終了報告	1
地域における効果的な薬剤師確保の取組に関する調査研究	
安原 真人（帝京大学薬学部 特任教授）	
(資料 1) 薬科大学・薬学部アンケート調査結果	9
(資料 2) 薬学 5・6 年生 Web アンケート調査結果	31
(資料 3) シンポジウム講演スライド	86
(資料 4) シンポジウム事後アンケート調査結果	164
II. 研究成果の刊行に関する一覧表	176
III. 研究成果の刊行物・別刷	176

I. 総括研究年度終了報告

地域における効果的な薬剤師確保の取組に関する調査研究

研究代表者 安原 真人 帝京大学薬学部 特任教授

研究要旨

令和3年6月30日に公表された「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会 とりまとめ」では、薬剤師の従事先には業態の偏在や地域偏在があり、偏在を解消するための薬剤師確保の取組が必要であり、特に病院薬剤師の確保は喫緊の課題であることが指摘されている。本研究班では、地域における効果的な薬剤師確保を目指して、薬剤師の偏在に関係する主に薬剤師教育側の要因を探るために、5・6年生が在籍する全国74の薬科大学・薬学部を対象にアンケート調査を行った。併せて、在籍する5・6年の薬学生を対象としたWebアンケート調査を実施した。

大学向けアンケートには65校から回答が寄せられた。平成30～令和2年度の卒業生7462～6958人の業態別就職率は、ドラッグストアが増加傾向を示し、3年間の平均値は、病院24%、薬局35%、ドラッグストア21%、製薬企業・卸売業7%、行政3%、大学院3%であった。薬剤師不足県・地域や薬剤師不足の病院・薬局への就業を促す取組や地域医療に関する教育を行っていますかとの問には、44%の大学が「はい」と回答し、このうち地方部の大学が占める割合は71%であった。卒業生の離職状況を把握している大学は5校であった。学生向けWebアンケートには2302人から回答が寄せられ、5・6年生がほぼ同数を占め、回答者の35%は奨学金を利用していた。既に就職活動を終了した学生が1072人で、就職先は病院32%、保険薬局35%、ドラッグストア19%、製薬企業・卸売業7%、行政4%、大学院2%であった。就職先決定の決め手は、1位：勤務内容・やりがい、2位：勤務予定地、3位：給与水準であった。初年度の給与水準は300～400万円が53%で、300万円未満が16%であり、300万円未満を業種別に見ると病院が63%であった。実務実習前後で就職希望先が変化した学生は37%であった。全回答者の84%は薬剤師の地域偏在問題を知っており、30%は薬剤師不足地域の薬局や病院に卒業後直ちに就職する意向ありと回答した。回答者の80%は病院薬剤師不足の問題を知っており、卒業後直ちに病院に就職することを希望しない理由の第1位は給与水準であった。令和4年2月27日に公開シンポジウムを開催し、アンケート結果を公表し、関係団体の取組状況を紹介いただいた。問題解決に向けた課題として、薬剤師の待遇改善、奨学金返済補助、業務改革（ICT、ロボット、非薬剤師の活用）、医療計画における医療従事者の確保、就業・復職支援、地域医療介護総合確保基金の活用、薬剤師のキャリア形成プログラムの整備等が明らかとなった。

最終年度は、薬剤師のキャリア形成プログラムのとりまとめ、その他、地域の自治体、大学、医療機関・薬局等が連携して行う薬剤師確保に関する取組の提言を目指す。

研究協力者

安藤 崇仁 帝京大学薬学部 講師
栗原 健 大阪医科薬科大学薬学部
特任教授
崔 吉道 金沢大学附属病院 教授・
薬剤部長

豊見 敦 日本薬剤師会 常務理事
中村 明弘 昭和大学薬学部 教授・
薬学部長
長谷川洋一 名城大学 教授

A. 研究目的

我が国の薬剤師は、現在約 32 万人（令和 2 年医師・歯科医師・薬剤師統計）いるが、平成 30 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金で実施された「薬剤師の需給動向の予測および薬剤師の専門性確保に必要な研修内容等に関する研究」（分担研究者：長谷川洋一・名城大学薬学部教授）の報告によると、地域での偏在も考えられるため、今後の人口減少社会における薬剤師の需要の変化も踏まえつつ、詳細な需給動向も今後検討すべきとされている。

その一方で、全国知事会等 10 団体の要望書（令和 2 年 11 月）によると、病院等においては、チーム医療の推進や病棟薬剤業務の展開、さらには高齢化社会に伴う在宅医療患者への薬剤管理指導など、薬剤師の需要が拡大しているが、特に地方の自治体病院においては薬剤師の確保が厳しい状況であることなどが指摘されている。

厚生労働省医薬・生活衛生局が設置した「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」において、薬剤師の需給に関する事項が検討項目となり、さらに厚生労働省の令和 2 年度予算事業で薬剤師需給動向把握事業が実施された。令和 3 年 6 月 30 日に公表された「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会 とりまとめ」では、将来的

に薬剤師が過剰となると予想される一方で、薬剤師の従事先には業態の偏在や地域偏在があり、偏在を解消するための薬剤師確保の取組が必要であり、特に病院薬剤師の確保は喫緊の課題であることが指摘されている。

また、平成 30 年度厚生労働科学研究費補助金「病院における薬剤師の働き方の実態を踏まえた生産性の向上と薬剤師業務のあり方に関する研究」（代表研究者：武田泰生 鹿児島大学附属病院教授）の報告によると、薬学生の就職希望先については、実習、奨学金返済の有無、給与などが要因として影響を与えていることが示唆されており、薬学生の奨学金貸与の実態を調べところ、約 40%の学生が貸与を受けている実態などが明らかとなっている。

医師においては、医療法及び医師法の一部を改正する法律(平成 30 年法律第 79 号)の一部の施行に伴い、地域医療対策協議会において協議の上、都道府県が「キャリア形成プログラム運用指針」を策定することが医療法に規定されており、都道府県が修学資金を貸与した地域枠医師等に対し、キャリア形成プログラムが適用され、都道府県等における医師確保施策に資するものとなっている。

本研究においては、こうした現状を踏ま

え、薬剤師確保のための行政機関や関係団体の対応の現状を把握するとともに、魅力のある薬剤師のキャリア形成プログラムの検討等を通して、効果的な薬剤師確保に資する取組について調査等を2年間の計画で行う。研究初年度は、薬剤師の地域偏在と病院薬剤師不足について、主に薬剤師教育側から現状把握と要因分析を行った。

B. 研究方法

1. 薬科大学・薬学部アンケート調査：5・6年生が在籍する全国74の薬科大学・薬学部宛に、薬学生の進路の業種と地域性、業態別求人状況と地域性、実務実習地域との関係、大学の就職支援策（特に薬剤師偏在解消への取組）等を尋ねるアンケート調査票を令和3年11月22日に郵便と電子メールにて送付し、令和4年1月21日までに電子ファイルもしくはFAXで寄せられた回答を集計した。

2. 薬学5・6年生Webアンケート調査：上述の薬科大学・薬学部アンケート調査と同時に、各薬科大学長・薬学部長宛に在籍する5・6年生を対象とするWebアンケート調査への協力を依頼した。実施に協力する大学から該当学年の学生に通知されたQRコードもしくはURLを用いて、学生が任意にMicrosoft Formsのアンケートサイトにアクセスし、就職（希望）先やその選択基準、奨学金の利用状況等について回答した。Webアンケート調査期間は令和3年11月25日から12月31日までとした。なお、本アンケートの実施に際して、事前に帝京大学医学系研究倫理委員会の審査を受け承認を受

けた（帝倫21-157号）。

3. 公開シンポジウムの開催と事後アンケート調査

：日本医療薬学会、日本薬学教育学会、日本病院薬剤師会、日本薬剤師会の後援を受けて、令和4年2月27日（日）13時～16時、ステーションカンファレンス東京会場とWeb会場のハイブリッド様式にて公開シンポジウムを開催した。参加は事前登録制とし、事前登録者には当日の映像を令和4年3月1日から1か月間オンデマンド配信した。また、シンポジウム参加者には、シンポジウム終了後にMicrosoft Formsによる事後アンケートへの協力を依頼し、シンポジウムの感想や研究班の活動に関する意見を求めた。アンケート調査の回答期限は令和4年3月31日とした。

C. 研究結果

1. 薬科大学・薬学部アンケート調査（資料1）

大学向けアンケート調査には65校から回答が寄せられ、回収率は88%であった。回答大学の地域別数は、北海道・東北7校、関東21校、中部7校、近畿13校、中国・四国9校、九州8校であった。回答時点の6年生の人数は11人～462人であった。

実務実習の実施状況について、大半の大学が第I期から第IV期までの実習期間すべてを利用しており、病院実習の受け入れ医療機関数は1件～243件と、大学により著しい差が認められた。薬局実習の受け入れ施設数は3件～290件と、やはり大学間で著しい差が認められた。実習受け入れ施設

が大学所在地のある都道府県の内か外かで分類すると、地方部にある大学の方が病院実習・薬局実習ともに自県内で実施する割合が高い傾向を示した。また、附属病院や附属薬局を有する大学では自県内での受け入れ割合が高いことが確認された。

平成30年から令和2年までの卒業生の進路状況について、55大学から回答された。55大学の卒業生数合計は、平成30年度7462人、令和元年度7249人、令和2年度6958人であった。卒業生数合計に対する各業態への就職者数の割合は、3年間でドラッグストアが増加傾向、病院が若干の減少傾向を示した。3年間の平均値として、病院23.7%、保険薬局34.9%、ドラッグストア21.1%、製薬企業・卸売業6.6%、行政2.7%、大学院2.7%、その他8.2%であった。

各業態への就職者総数は、大学院進学を除いて大学所在地県外の方が県内よりも多かった。都市部・地方部で区別した卒業生の進路状況については、51校より回答された。ここで、都市部とは、①首都圏整備法の「既成市街地」あるいは「近郊整備地帯」、②近畿圏整備法の「既成都市区域」あるいは「近郊整備区域」、③中部圏開発整備法の「都市整備区域」のいずれかの地域であり、地方部とは、それ以外の地域である。ドラッグストアと製薬企業においては、都市部への就職者数が地方部の約3倍から10倍と都市に集中していた。一方、大学院進学については、地方部が都市部の約1.5倍から2倍と多かった。他の業態では都市部と地方部への就職者数は概ね拮抗し、著しい相違は見られなかった。

求人情報の取扱いは大学によって異なり、

回答不能、求人件数が多いため調査不可、求人件数ではなく求人件数として回答など、一括処理することが困難であった。各大学の回答を経年的に見ても、特段の共通した増減傾向は見られなかった。求人支援への取組としては、求人情報の公開 63校、インターンシップ情報の公開・募集 61校、就職相談 60校、面接指導 58校、キャリアに関する講演・講座 58校、学内合同説明会(病院が参加するもの) 57校、学内合同説明会(企業が参加するもの) 57校、学内合同説明会(薬局・店舗販売業が参加するもの) 54校、OB・OG紹介 36校と、大半の大学で取組がなされていた。

県内又は県外の薬剤師不足県・地域や薬剤師不足の病院・薬局への就業を促す取組や地域医療に関する教育を行っていますかとの間に、28校(44%)が「はい」と回答した。「はい」と回答した28校中、所在地が地方部にある大学が20校(71%)であった。就職説明会・相談会の開催(薬剤師不足の県・地域・病院・薬局が参加)、薬剤師不足の県・地域・病院・薬局からの求人とのマッチングの取組、奨学金・奨学金返済サポート、薬剤師不足県・地域(県内/県外)における実務実習、自治体等との薬剤師確保に係る協定の締結、地域医療に関する教育(講義、実務実習等)等の取組が行われていた。

一方、薬学部卒業生の離職率については、5校(8%)の大学が把握していると回答した。

これらの結果より、求人情報や卒業生の就職状況のフォローアップに関して、大学間で大きな相違がある状況が窺われた。薬

剤師の地域偏在や就業先業態の偏在に関する取組については、地方部の大学を中心に問題意識の高まりが感じられるが必ずしも十分とは言えず、大学間相互の情報共有や系統的な取組の必要性が示唆された。

2. 薬学5・6年生 Web アンケート調査 (資料2)

調査期間中にアンケートサイトに 2345 件のアクセスがあり、アンケートの趣旨説明を理解し自らの自由意思でアンケートに回答することに同意した 2302 件を有効回答とした。

回答した学生の学年は、5 年 1185 人、6 年 1117 人であり、出身地は全国 47 都道府県全てに分布していた。

回答者の中で奨学金を利用している学生は 805 人 (35%) で、返済総額を回答した 545 人の平均は 650 万円であり、200~400 万円が最も多く 146 人 (27%) であった。また、143 人 (26%) は 1000 万円以上と回答した。

アンケート回答時までに就職活動を終了した学生が 1072 人で、就職先は病院 32%、保険薬局 35%、ドラッグストア 19%、製薬企業・卸売業 7%、行政 4%、大学院 2%であった。就職先決定の決め手第 1 位は、勤務内容・やりがい 33%、勤務予定地 13%、給与水準 12%、福利厚生 10%の順であった。内定先の初年度の給与水準は 300 万円未満 16%、300~400 万円が 52%、400~500 万円 24%、500 万円以上 8%であった。初任給 300 万円未満の内定者 158 人を業種別に見ると、病院 63%、保険薬局 16%、行政 7%、ドラッグストア 2%、製薬企業 2%の順であった。

就職活動が終了した学生の 43%は、内定した勤務地が出身地であった。内定時期は、6 年生前期が大半を占め、次いで 5 年生後期であった。実務実習前後で就職希望先が変化した学生は 37%であった。

現在就職活動中もしくは活動前の学生 1230 人の就職希望先の第 1 位は、病院 38%、保険薬局 34%、ドラッグストア 13%、製薬企業・卸売業 7%、行政 3%、大学院 3%の順であった。就職活動終了者の就職先と比較すると、病院の割合が 6%高く、ドラッグストアの割合が 6%低かった。就職希望先の選定理由の第 1 位は、業務内容・やりがい 44%、給与水準 13%、勤務予定地 9%、福利厚生 9%の順となった。就職活動終了者の就職先決定要因と比較すると、第 1 位の業務内容・やりがいを理由に挙げる割合が 11%増加し、2 位 3 位の順序が異なった。就職活動中もしくは活動前の学生において、実務実習の前後で就職希望先が変化した学生が 30%を占めた。

薬剤師の勤務地に偏在があることについて、全回答者 2302 人の 84%は「よく知っている・まあ知っている」と回答した。690 人 (30%) は、薬剤師不足地域の薬局や病院に卒業後直ちに就職する意向があると回答した。卒直後に薬剤師不足の地域に就職する意向がないと回答した学生に、都市部で一定の業務経験の後、将来的に地方の薬局や病院で勤務する意向を尋ねたところ、回答者 1293 人の内 46%は意向ありと回答した。さらに、将来的にも地方部での就職を希望しない学生 702 人に理由を尋ねたところ、67%はその他（地元が都市部、都市部に居住したい、交通の利便性等）を第 1 位の

理由にあげ、次いで業務内容・やりがい 9%、給与水準 5%、勤務時間の長さ 3%、研究・学習環境 3%、キャリアパス 3%、等があがった。

薬剤師が不足している病院があることについて、回答者 1983 人の 80%は「よく知っている・まあ知っている」と回答した。卒業後直ちに病院に就職することを希望しない人を対象にその理由の第 1 位を尋ねると、回答者 1266 人の 48%が給与水準をあげ、次いで業務内容・やりがい 15%、夜勤の有無や条件 12%、勤務時間の長さ 6%の順であった。一方、現在、高度急性期病院や急性期病院への就職を希望（内定）している人を対象に、将来、回復期病院や慢性期病院へ行って地域医療に貢献したいと考えるかと問うと、回答者 272 人中 76%は「考える」と回答した。将来も回復期病院や慢性期病院への就職を考えないと回答した 66 人中 44 人は、業務内容・やりがいを希望しない理由にあげた。

以上の学生 Web アンケートの結果から、薬学 5・6 年生の卒後の進路選択に関する次のような現状が窺われる。

- 就職先の選定には、業務内容・やりがい が最重要、次いで給与水準、勤務予定地、福利厚生などが重視される。
- 回答者の 1/3 は奨学金を利用しており、奨学金の返済が就職先の決定に少なからず影響している。
- 実務実習は学生の就職希望先の選択に大きな影響力を持ち、学生の 1/3 は実習前後で希望先が変化している。
- 薬剤師の勤務地の偏在問題を多くの学生は知っており、薬剤師不足の地域に

就職する意向の学生が 30%を占める。

- 薬剤師が不足している病院の存在についても大半の学生は知っており、給与水準が病院就職の最大の障害となっている。
- 卒業直後は都市部に就職を希望する学生の内、46%は将来的に地方で勤務する意向を示し、卒業直後は高度急性期や急性期病院に就職を希望する学生の内、76%は将来的には回復期や慢性期病院に行くことを考えるなど、学生は十分に柔軟な将来展望を持つ。

3. 公開シンポジウムの開催と事後アンケート調査（資料 3、4）

令和 4 年 2 月 27 日（日）に研究班が主催する公開シンポジウム「地域における効果的な薬剤師確保の取組に関する調査研究」を対面講演と Zoom によるウェビナーのハイブリッド形式で開催した。事前登録者は 339 人で、内訳は病院 145 人、大学 104 人、行政 41 人、薬局 16 人、企業 4 人、学生 16 人、その他 13 人であった。資料 3 にシンポジウムのプログラムと各講演スライドを掲載した。

研究代表者の趣旨説明では、地域における効果的な薬剤師確保に向けて、医療計画における医療従事者の確保、地域医療介護総合確保基金の活用、薬剤師の待遇改善（給与、勤務時間、夜勤）、業務改革（ICT、ロボット、非薬剤師の活用）、就業支援・復職支援、求人情報の整備、奨学金補助、実務実習のあり方、入学選抜における地域枠、薬剤師のキャリア形成プログラムの 10 の課題が挙げられた。日本薬剤師会の安部好弘

副会長は薬局薬剤師の就労や病院薬剤師の処遇改善への薬剤師会の取組を解説され、都道府県が策定する医療計画への位置づけと地域医療介護総合確保基金等を紹介された。日本病院薬剤師会の和泉啓司郎専務理事は、行政、薬剤師会と連携した地域医療介護総合確保基金の有効活用など、病院薬剤師会の取組を解説された。神戸市立医療センター中央市民病院の室井延之薬剤部長は、全国自治体病院協議会薬剤部会会長の立場から自治体病院における薬剤師の地域偏在の実態を紹介され、薬剤師確保に向けた取組として、詳細な現状調査による客観的データの蓄積、自治体病院議員連盟、社会保障審議会医療部会、日本病院団体協議会、総務省、厚生労働省等への薬剤師確保と処遇改善の要望、ロボット、IoT活用による薬剤業務の質向上、医療の多様化に対応できる人材育成の5点を挙げられた。和歌山県立医科大学の太田茂薬学部長は、令和2年10月に薬学部の設置が認可され令和3年度の入学試験から地域枠が導入された和歌山県立医科大学の状況を紹介された。研究協力者の帝京大学安藤崇仁講師は、研究班が実施した薬科大学・薬学部のアンケート調査と薬学5・6年生のWebアンケート調査の結果を報告した。特別講演では、厚生労働省の磯崎正季子国際審査情報分析官より、最近の薬剤師関連の動向について薬剤師確保への取組も含めて解説された。総合討論では、会場およびリモートのメッセージにより多数の質問が寄せられ、予定の時間を超える質疑を通して、和歌山県立医科大学薬学部の地域枠の卒後研修の見通しをはじめ薬剤師偏在問題への取組について理

解を深めることができた。

シンポジウム終了後に、オンデマンドで録画を視聴した事前登録者を含めて、シンポジウムの事後アンケートを実施した。82件の回答が寄せられ、99%の回答者は今回のシンポジウムが「非常に参考担った・やや参考になった」と回答した。薬剤師の地域偏在の解消に有効と思う取組としては（複数選択可）、薬剤師の待遇改善77%、奨学金返済補助50%、医療計画における医療従事者の確保49%、地域医療介護総合確保基金の活用40%、業務改革（ICT、ロボット、非薬剤師の活用）40%、就業支援・復職支援39%、入学選抜における地域枠設定37%、薬剤師のキャリア形成プログラムの整備34%、求人情報の整備24%、実務実習の活用18%の順であった。病院薬剤師の不足解消に有効と思う取組としては（複数選択可）、薬剤師の待遇改善88%、奨学金返済補助56%、業務改革（ICT、ロボット、非薬剤師の活用）52%、医療計画における医療従事者の確保43%、就業支援・復職支援46%、地域医療介護総合確保基金の活用37%、薬剤師のキャリア形成プログラムの整備32%、求人情報の整備32%、入学選抜における地域枠設定23%、実務実習の活用12%の順であった。また、薬剤師の偏在問題や研究班の2年目の研究に向けて、多くの貴重なコメントが寄せられた。

令和3年度の研究成果を踏まえて、最終年度は、薬剤師のキャリア形成プログラムのとりまとめ、その他、地域の自治体、大学、医療機関・薬局等が連携して行う薬剤師確保に関する取組の提言を目指す予定である。

なし。

D. 健康危険情報

なし。

F. 知的財産権の出願・登録状況

なし。

E. 研究発表

薬科大学・薬学部アンケート調査結果

地域における効果的な薬剤師確保を目指して、薬剤師の偏在に係る薬剤師教育側の要因を探るために、5・6年生が在籍する全国74の薬科大学・薬学部を対象にアンケート調査を行った。アンケート調査への協力依頼状（別添1）とアンケート調査票（別添2）を令和3年11月22日に郵便と電子メールにて薬科大学長・薬学部長宛に送付し、令和4年1月21日までに電子ファイルもしくはFAXで寄せられた回答を集計した。

回答総数は65校で、回収率は88%であった。

問7. 貴大学の薬学部の実習時期はいつですか。すべて選んでください。

第1期：60、第Ⅱ期：64、第Ⅲ期：63、第Ⅳ期：51 (n=65)

問8. 病院実習の実習受け入れ先医療機関の件数を、貴大学の所在都道府県とそれ以外で教えてください。

病院実習の受け入れ医療機関数は1件～243件と、大学により著しい差が認められた。各大学の回答件数を合計した65校分の総数は表1となる。

表1. 大学の所在都道府県内外別の病院実習受け入れ施設数の65校総和

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
都道府県内	1,988件	1,895件	1,901件
都道府県外	2,048件	1,963件	1,820件

受け入れ施設数の大学所在地の都道府県内率（%）を大学ごとに算出し、65校の平均値を算出すると、表2となる。ここで、大学の附属病院1施設で全ての実習生を受け入れている場合、当該大学の県内率は100%となり、65校平均の県内率を上げる方向に寄与している。

表2. 病院実習受け入れ施設数の大学所在都道府県内率

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
65校平均	58.9%	59.5%	60.9%

さらに、大学所在地を都市部と地方部に分けて、受け入れ施設数の都道府県内率を算出すると、表3となり、地方にある大学の方が病院実習の受け入れ施設数の自県内の割合が高い

傾向がみられた。

表 3. 都市部・地方部別の病院実習受け入れ施設数の大学所在都道府県内率

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
都市部 (29 校平均)	50.4 %	51.2 %	52.3 %
地方部 (36 校平均)	65.8 %	66.2 %	67.8 %

表 4 には、附属病院の有無で大学を分類した場合の大学所在都道府県内率を示す。附属病院を有する大学では、病院実習受け入れ施設数の大学所在都道府県内率が高いことが確認された。

表 4. 附属病院の有無別の病院実習受け入れ施設数の大学所在都道府県内率

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
附属病院あり (27 大学)	73.1 %	71.5 %	76.5 %
附属病院なし (38 大学)	48.8 %	51.0 %	49.8 %

問 9. 病院実習の実習先医療機関の件数を、都市部・地方部で教えてください。

都市部：①首都圏整備法の「既成市街地」あるいは「近郊整備地帯」、②近畿圏整備法の「既成都市区域」あるいは「近郊整備区域」、③中部圏開発整備法の「都市整備区域」のいずれかの地域

病院実習受け入れ施設の所在地を都市部と地方部に二分した所在地別の受け入れ施設数は、62 大学から回答が寄せられた。62 校の回答件数を合計したものが表 5 となる。

表 5. 病院実習の受け入れ施設の所在地（都市・地方）別総数（62 校総和）

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
都市部	2,145 件	2,136 件	2,058 件
地方部	1,691 件	1,553 件	1,528 件

問 10. 薬局実習の実習受け入れ先機関の件数を、貴大学の所在都道府県とそれ以外で教えてください。

薬局実習受け入れ施設数は、3 件～290 件とやはり大学によって著しい差が認められた。

表 6 に 65 校から寄せられた薬局実習受け入れ施設数の総和を大学の所在都道府県内外別に示し、表 7 には薬局実習受け入れ施設数の大学所在都道府県内率の 65 校平均値、表 8 には大学所在地を都市部・地方部に二分し、大学の所在地別の薬局実習受け入れ施設数の大学所在都道府県内率を示す。薬局実習においても、地方にある大学の方が自県内にある施設で薬局実習を行う割合が高い傾向が認められた。表 9 には、附属薬局の有無で大学を分類した場合の大学所在都道府県内率を示す。附属薬局を有する大学では、薬局実習受け入れ施設数の大学所在都道府県内率が高いことが確認された。

表 6. 大学の所在都道府県内外別の薬局実習受け入れ施設数の 65 校総和

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
都道府県内	4,288 件	4,099 件	4,026 件
都道府県外	3,283 件	3,173 件	3,122 件

表 7. 薬局実習受け入れ施設数の大学所在都道府県内率

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
65 校平均	65.6 %	66.0 %	65.9 %

表 8. 都市部・地方部別の受け入れ施設数の大学所在都道府県内率

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
都市部 (29 校平均)	55.3 %	56.3 %	56.1 %
地方部 (36 校平均)	73.9 %	73.9 %	73.8 %

表 9. 附属薬局の有無別の薬局実習受け入れ施設数の大学所在都道府県内率

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
附属薬局あり (9 大学)	74.4 %	74.3 %	72.1 %
附属薬局なし (56 大学)	64.2 %	64.7 %	64.9 %

問 11. 薬局実習の実習先機関の件数を、都市部・地方部で教えてください。

都市部：①首都圏整備法の「既成市街地」あるいは「近郊整備地帯」、②近畿圏整備法の「既成都市区域」あるいは「近郊整備区域」、③中部圏開発整備法の「都市整備区域」のいずれかの地域

薬局実習受け入れ施設の所在地を都市部と地方部に二分した所在地別の受け入れ施設数は、62 大学から回答が寄せられた。62 校の回答件数を合計したものが表 10 となる。

表 10. 薬局実習の受け入れ施設の所在地（都市・地方）別総数（62 校総和）

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
都市部	4,380 件	4,355 件	4,264 件
地方部	2,826 件	2,610 件	2,603 件

問 12. 2018～2020 年度（平成 30 年度～令和 2 年度）の薬学部卒業生の進路状況を、貴大学の所在都道府県とそれ以外でお答えください。

問 12 に回答された 55 大学の卒業生数合計は、平成 30 年度 7462 人、令和元年度 7249 人、令和 2 年度 6958 人であった。卒業生数合計に対する各業態への就職者数の割合は、3 年間でドラッグストアが増加傾向、病院が若干の減少傾向を示した。3 年間の平均値として、病院 23.7%、保険薬局 34.9%、ドラッグストア 21.1%、製薬企業・卸売業 6.6%、行政 2.7%、大学院 2.7%、その他 8.2%であった。大学の所在都道府県内外別の卒業生の業態別就職者数について 55 校の合計人数を表 11 に示す。

表 11. 大学の所在都道府県内外別の卒業生進路状況（55 校総和）

		病院	保険薬局	ドラッグストア	卸売業界	製薬企業	行政機関	大学院進学	その他
平成 30 年度	県内	792	889	423	19	120	103	162	368
	県外	1032	1713	1067	24	333	113	33	271
令和元年度	県内	758	758	434	17	128	71	170	379
	県外	958	1742	1036	40	336	117	43	262
令和 2 年度	県内	717	797	416	15	129	79	164	314
	県外	891	1663	1175	16	262	109	24	187

表 11 によれば、大学院進学を除いて各業態への就職者総数は、大学所在地県外の方が県

内よりも多かった。

問 13. 2018～2020 年度（平成 30～令和 2 年度）の薬学部卒業生の進路状況を、都市部・地方部でお答えください。

都市部：①首都圏整備法の「既成市街地」あるいは「近郊整備地帯」、②近畿圏整備法の「既成都市区域」あるいは「近郊整備区域」、③中部圏開発整備法の「都市整備区域」のいずれかの地域

地方部：それ以外の地域

51 校より回答された都市部・地方部で区別した卒業生の進路状況を積算して表 12 に示す。ドラッグストアと製薬企業においては、都市部への就職者数が地方部の約 3 倍から 10 倍と都市に集中していた。一方、大学院進学については、地方部が都市部の約 1.5 倍から 2 倍と多かった。他の業態では都市部と地方部への就職者数は概ね拮抗し、著しい相違は見られなかった。

表 12. 都市部・地方部別の卒業生の進路状況（51 校総和）

		病院	保 険 薬 局	ド ラ グ ス ト ア	卸 売 業 界	製 薬 企 業	行 政 機 関	大 学 進 学	そ の 他
平 成 30 年 度	都市部	776	1277	1036	32	372	109	83	441
	地方部	936	1195	312	8	35	91	124	182
令 和 元 年 度	都市部	764	1156	1069	41	365	85	78	446
	地方部	832	1205	306	15	47	94	139	186
令 和 2 年 度	都市部	807	1168	1118	16	314	102	67	341
	地方部	717	1155	341	14	29	71	142	155

問 14. 2018～2020 年度（平成 30～令和 2 年度）の求人状況（大学所在の都道府県内外）をお答えください。

問 15. 2018～2020 年度（平成 30～令和 2 年度）の求人状況を、都市部・地方部でお答えください。

問 14、15 については、求人情報の取扱いが大学によって異なり、回答不能、求人件数が多いため調査不可、求人人数ではなく求人件数として回答など、一括処理することが困難であった。各大学が回答された数値を経年的に見ても、特段の共通した増減傾向は見られなかった。そこで、今回は問 14 の回答から算出した求人数の県内率を表 13 に、問 15 の回答から算出した求人数の都市部率を表 14 に示す。

表 13. 求人数の大学所在の都道府県内率

	平成 30 年度 (n=35)	令和元年度 (n=36)	令和 2 年度 (n=36)
県内率	12.0 %	12.5 %	11.6 %

表 14. 求人数の都市部率

	平成 30 年度 (n=28)	令和元年度 (n=29)	令和 2 年度 (n=29)
都市部率	50.0 %	45.7 %	46.5 %

問 16. 貴大学において、最初に就職に関するガイダンスが行われるのはいつですか。

表 15. 就職に関する初回ガイダンスの実施時期 (n=59)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年生	8	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 年生	2	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0
3 年生	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
4 年生	6	1	2	0	0	1	0	0	0	4	12	0
5 年生	4	7	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0
6 年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

問 17. 貴大学において、就職支援として実施しているものをすべてお答えください。

- ・ 求人情報の公開 63 校、
- ・ インターンシップ情報の公開・募集 61 校、
- ・ 就職相談 60 校、
- ・ 面接指導 58 校、
- ・ OB・OG 紹介 36 校、
- ・ 学内合同説明会(企業が参加するもの) 57 校、
- ・ 学内合同説明会(薬局・店舗販売業が参加するもの) 54 校、

- ・学内合同説明会(病院が参加するもの) 57校、
- ・キャリアに関する講演・講座 58校、 ・その他 11校

問 18. 薬局・店舗販売業が参加する学内合同説明会を開催している場合、2020 年度卒業生に対して、最初に開催した時期はいつですか。

表 16. 2020 年度卒業生に対する薬局・店舗販売業が参加する学内合同説明会の初回開催時期 (n = 47)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
2年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4年生	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	3	3
5年生	0	1	0	0	0	0	0	7	3	1	7	16
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

問 19. 病院が参加する学内合同説明会を開催している場合、2020 年度卒業生に対して、最初に開催した時期はいつですか。

表 17. 2020 年卒業生に対する病院が参加する学内合同説明会の初回開催時期 (n = 50)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
2年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4年生	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	2
5年生	1	1	0	0	1	0	0	7	3	1	9	17
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

問 20. 貴大学において、県内又は県外の薬剤師不足県・地域や薬剤師不足の病院・薬局への就業を促す取組や地域医療に関する教育を行っていますか。

- ・はい 28校、
- ・いいえ 36校 (n = 64)

「はい」と回答した 28 校中、所在地が地方部にある大学が 20 校 (71%) であった。

問 21. 上記問で「はい」と回答された場合、貴大学が実施している取組についてお答えください。

問 21-1. 地域枠の設定。

・あり 3校、 ・なし 25校

上の質問で「あり」と回答した方にお聞きします。その効果はありましたか？

・あり 1校、 ・不明 2校

問 21-2. 就職説明会・相談会の開催（薬剤師不足の県・地域・病院・薬局が参加）。

・あり 21校、 ・なし 7校

上の質問で「あり」と回答した方にお聞きします。その効果はありましたか？

・あり 12校、 ・不明 7校、 ・未回答 2校

問 21-3. 薬剤師不足の県・地域・病院・薬局からの求人とのマッチングの取組。

・あり 11校、 ・なし 17校

上の質問で「あり」と回答した方にお聞きします。その効果はありましたか？

・あり 5校、 ・不明 6校

問 21-4. 奨学金・奨学金返済サポート。

・あり 12校、 ・なし 16校

上の質問で「あり」と回答した方にお聞きします。その効果はありましたか？

・あり 5校、 ・不明 7校

問 21-5. 薬剤師不足県・地域（県内/県外）における実務実習。

・あり 17校、 ・なし 10校 ・未回答 1校

上の質問で「あり」と回答した方にお聞きします。その効果はありましたか？

・あり 8校、 ・なし 1校、 ・不明 7校、 ・未回答 1校

問 21-6. 自治体等との薬剤師確保に係る協定の締結。

・あり 1校、 ・なし 27校

上の質問で「あり」と回答した方にお聞きします。その効果はありましたか？

・あり 1校

問 21-7. 地域医療に関する教育（講義、実務実習等）

・あり 25校、 ・なし 1校、 ・未回答 2校

上の質問で「あり」と回答した方にお聞きします。その効果はありましたか？

・あり 9校、 ・なし 1校、 ・不明 15校

問 21-8. その他の取組。

・あり 8校、 ・なし 17校、 ・未回答 3校

上の質問で「あり」と回答した方にお聞きします。その効果はありましたか？

・あり 5校、 ・不明 3校

長崎国際大学では、地域の期待に応える実践活動「薬剤師として働くことの魅力と地域で働くことについて考える」として、薬学部4年生全員を対象に地域で働く薬剤師(OB含む)の講演とその後にグループ別でSGDを行い、各グループ代表が発表を行っている。各グループにはタスクフォースとして地域の薬剤師とOBOGの地域の薬剤師、大学教員が加わる。

大学の OBOG、地域薬剤師会、行政の協力を得て行う本グループワークは毎年開催で既に 8 回の実績を重ね、グループワーク前後で比較すると参加した学生が勤務地として大学の所在地を希望する割合が増加する傾向も認められている。

問 22. 薬学部卒業生の離職率を把握していますか。

・はい 5 校、 ・いいえ 59 校 (n=64)

問 23. 6 年制薬学生の就職状況やキャリアパスについて、お気づきの点をお寄せください。

34 校から寄せられたご意見は以下の通りである (順不同)。

6 年制になって奨学金を借りる学生が増加傾向にある為か、年収や福利厚生が優先でここ 3・4 年は薬局 (特にドラッグストア) への就職率が高くなっている。また同時に M R や企業の採用枠が減少しているのも原因の 1 つだと思います。最近の傾向としては安定志向で福利厚生や勤務地などを重視している学生が増えている。

コロナ禍での現状や以降のキャリアパスを検討し採用状況や期間を鑑みて、例年よりも人気の高い企業にチャレンジするというよりは確実に採用してくれる企業を選択するという安定志向が見受けられた。

就職希望は病院が多いが、最終的な就職状況は例年よりも薬局・ドラッグが多く、病院就職がそれに続いた。

2020 年度は学生の就職先の業種に変化があったものの、内定率については大きな変化はなかった。

2021 年度についても内定率については大きな違いは無いが、採用側の状況は大きく変化しているようなので、今後の就職環境に注意する必要があると感じている。

同業種間、異業種間ともに安易に転職が出来なくなっている現状に鑑みると、就職後にも薬剤師として成長できる労働環境や各自の努力が一層必要になるため、それを踏まえた在学中のキャリア指導が必要になると考える。

本学の場合、県内や近隣に製薬企業や薬剤師を必要とする企業がほとんどないため、製薬企業を含めた一般企業への就職者が極めて少ない。

最近 5 年間の就職状況は、病院 (40-50%)、薬局 (20-30%)、行政 (~5%)、進学 (~5%)、その他 (~10%) である。薬局就職を希望する学生が上昇傾向にある。一方で、進学者が減少しているのは懸念事項である。キャリアパスとしては、進路支援担当教員が進路情報提供企業とも連携して、4 年時より学生への継続した情報提供に努めている。

<p>就職先の割合として、ドラッグストアが年々増えている。 H30 年度：9.0% R1 年度：17.4% R2 年度：20.0%</p> <p>就職先の割合として、病院の割合が減少している。 H30 年度：34.6% R1 年度：30.2% R2 年度：27.8%</p>
<p>地方出身者でも東京都内での就職を希望する学生が多く、一部の学生が地元に戻って就職することを希望している。</p> <p>全く縁のない地域への就職を考える学生はあまりおらず、奨学金目的の学生が数名いる程度。</p>
<p>(担当者私見) 大学入学時に薬剤師不足県からの入学生を優遇することが、偏在解消の一助になりはしないかと考える。</p>
<p>大手調剤薬局による活発なリクルート活動は続いており、薬学生は学業、研究活動、国家試験対策に忙しく、</p> <p>誘われるまま安易に調剤薬局に就職を決める場合が散見される。ただ近年では、大手調剤薬局では都市部の店舗への希望は通りにくくなっている。</p>
<p>本学では、毎年、卒後3年在籍調査を行っています。</p> <p>卒業生個人にもこちらから積極的に連絡をとり、近況を確認しています。毎年2月に、学部4年生を中心とした学生就職委員が主体となって行うイベント「OBOG 就職懇談会」があります。そのイベントに協力してくれる卒業生を探しつつ、現況を聞き取り、そこで卒業生の卒後キャリアパスについて知ることができています。</p> <p>上記より得られた情報・状況を就職委員である教員と共有します。在学生からの相談があった際は、適切に情報を伝え、場合によっては OBOG 紹介を行います。在学生は、先輩の事例を参考にしながら、具体的な行動と意思決定を行うことができています。</p> <p>今までは凝り固まった進路に縛られていた面もあるかと思いますが、より多くの情報を適切に収集し、OODA ループを意識して支援していきたいと考えています。</p>
<p>大部分は、薬局薬剤師あるいは病院薬剤師として就職する。その比率は学年によって異なり一定の傾向はない。</p>
<p>本学卒業生の過去3年の業界別就職割合は下記の通りです。多少の変動はあるものの、現状就職状況に大きな変化はないものと思われます。</p> <p>2018 年度卒業生 薬局 31.4%、ドラッグストア 33.1%、病院 20.8%</p> <p>2019 年度卒業生 薬局 32.5%、ドラッグストア 34.9%、病院 19.8%</p> <p>2020 年度卒業生 薬局 35.2%、ドラッグストア 34.2%、病院 24.6%</p>
<p>概ね希望通りの就職ができている。調剤薬局及びドラッグストアの選考時期が早く、給与も高いため、病院希望者及び就活中に志望を変更して調剤薬局等に就職するケースがある。病院の求人及び選考について改善が必要ではないかと考える。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・年々、薬局・ドラッグストアの就職割合が増え、病院の割合が減ってきている。 ・調剤を行うだけではない薬剤師の職について尋ねてくる学生が増えてきたように感じる。 ・コロナウイルス感染症の為、オンラインでの採用活動がかなり増えてきている。 ・本学でもキャリア・就職ガイダンスをほぼオンラインで実施、就職相談会もオンラインにて実施した。
<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、採用状況も厳しくなりつつあることを感じるようになりましたが、大半の学生は希望通りの就職先から内定をいただくことができおり、内定率もほぼ100%に近い状況です。主な就職先は、病院、調剤薬局、ドラッグストアで、中でも調剤薬局へ就職する学生が半数を占め、大手から中小薬局まで様々です。薬剤師としてのキャリアビジョンを描いて就職活動がスタートできるように、5年生の第1回就職ガイダンスでは、働き方や取り巻く社会情勢など「薬剤師とは」について問いかける講義を設け、目標を持って就職活動が行えるように取り組んでいます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤師として勤務することで業界や企業選びが安易になされるケースが見受けられる。選ぶ業界が絞られているからこそ企業を選んでいく力を養う必要があると考えます。 ・病院薬剤師というステータスだけでなく、地元であれば調剤薬局や、ドラッグストア併設の薬局等、その方向性の多様化が見受けられる。(就職状況) ・企業選定として、ただ給料が高いとか、福利厚生充実だけで選ぶ傾向は相変わらず強いと思います。
<p>数年前は病院薬局就職、調剤薬局就職の割合が半々であったが、近年は調剤薬局就職の希望が多い傾向にある。また、大手調剤薬局はインターンの経験を課すなど、条件が厳しくなっているように思える。学生が選ぶ時代から選ばれる時代になってきたことを実感している。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・薬局、ドラッグストアへの就職者が多数を占め、病院が少数である。 ・MRなど企業への希望者が少ない。 ・企業の、5年生くらいから就活を強いる方法が問題だと思う。
<p>大学が地方部に位置するため、地方部に進路を希望する学生が多い。(問13では、会社の本社住所を用いたため、正確に希望が反映されていない。)</p> <p>薬局・ドラッグストアを希望する学生が多い。</p> <p>地方部出身の学生は地元にもどることが多い。</p>
<p>病院の就職について、採用活動の時期として6年生4月以降に選考が開始することが多いため、病院希望であっても、既に内定しているドラッグストア・保険薬局に内定保留できず決定してしまう状況がある。</p>

<p>チェーン薬局志向、急性期病院志向の傾向がある。このため、県薬剤師会、県病院薬剤師会と連携し、地域医療に貢献する中小規模の薬局、病院の取組等を紹介する講演会を開催し、広い視野を持って就職活動を行うよう促している。</p>
<p>インターンシップ、見学等の就職活動する時期が早まりつつある。 キャリアパスとして、認定薬剤師、専門薬剤師を口にする学生が増えてきた。</p>
<p>入学時には病院薬剤師希望者が多いが、卒業時には薬局・ドラッグストア薬剤師が多くなる傾向にある。 薬局・ドラッグストア就職希望者は増加傾向にあるが、コロナ禍の影響で首都圏店舗での就職状況は厳しさを増している。一方で、薬局・ドラッグストアの採用活動は10月頃から始まり、11月には内定が出るなど昨年以上に採用活動の早期化・長期化が感じられる。6年制1期生以降、病院企業への就職が減少し、調剤薬局への就職が増加してきた。特に最近ではドラッグストアへの就職が増加している。コロナ禍2021年以降大手薬局・ドラッグストアの求人が減少し、東京埼玉神奈川の採用枠が減少している。一部薬局の早期選考・通年選考が見られる。</p>
<p>6年制薬学科の就職状況は、現状ではおおむね順調で、学生も卒業後の進路を自分自身でよく考え、概ね希望通りの進路に就いている。 キャリアパスとしては、大学院（4年制博士課程）への進学者がここ数年いないので、今後は就職のみならず、大学院進学ガイダンスの実施などを含めた幅広いキャリア支援体制を考えていきたい。</p>

・実務実習中にインターンシップなどを実施する製薬会社、薬局、ドラッグストアがあり、実習の妨げになる場合がある。また、実習時期によって不公平が生じてしまう。

・進級・卒業と国家試験に手一杯で、ぼんやりとでも、なりたい薬剤師像とそれに必要なキャリアパスを考えられている（見据えている）学生が極めて少ないと感じるので、将来を見据えたキャリアパスの必要性・重要性とそれを実現するために必要とされるスキルを、就職委員あるいは薬学部全体を通じて、学生に早めに認識させる必要があるのではないかと思います。

【情報公開】

求人票に書かれている初任給のわずかな違いで就職先を決める学生がいるのは、将来の給与等の情報が少ないせいもあると思います。

特に病院の情報が少ないように思います。5年後・10年後に都市部中小病院・地方部大病院などで給与がいくらになるのか、専門薬剤師等を取得した場合、役職等がついた場合どうなるのか、給与等の条件に関する情報を広く収集し公開されると学生がキャリアパスを考える上で有益になると思います。米国の学会が行っている Salary Survey なども参考になると思います。

【実務実習の多様化】

実務実習の経験は就職先を決める上で大きな影響を持っていると思われます。病院就職希望者が実習開始前は多いのに、実習終了後に減ってしまうのは実習を行った病院での経験が影響している可能性があると思います。

都市部大病院だけではなく、中小病院、地方部の病院、行政機関や製薬企業など多様な施設を学生の希望に合わせて選択できるような実務実習が望ましいと思います。米国で行われている6週間ずつ6施設で行う実務実習などが参考になると思います。

薬剤師取得者の博士進学率が期待するほど高くなっていない。

業態偏在については、病院のリクルート方法、基本的に欠員補充である点など、問題が山積していると考えます。6年制薬剤師を輩出して10期が経過しました。AI・ITの活用も含めた新たなキャリアパスと価値を創造し、所得や福利厚生についても6年制薬剤師に見合った内容へ変えて行くことが重要と考えます。また、薬局・病院・製薬企業といった業態の更なるボーダレス化が必要と考えます。

キャリア教育についても、新たな市場を開拓し、遠隔医療や医薬品のEC分野にも、薬剤師を輩出し、国民のニーズに応え、安全・適正な医療を提供することが重要と考えます。また、薬剤師の起業家も増えてきているので、大学と積極的に連携し、薬剤師の活躍できる新たなフィールドを創っていくことも、アカデミアの重要な役割と考えます。

病院（薬剤部）の規模によって研修制度などにバラつきがあり、キャリアパスの支援体制に差があると感じています。

早い段階で就職が決まっている学生が多い。一部、国家試験後に就活をする学生がいる。

<ul style="list-style-type: none"> ・現状は5年次生の5月から本格的な就職ガイダンスを行っているが、実務実習前の4年次生の内に、就職に関する意識を高めておく必要があり、時期を検討すべきである。 ・就職後のミスマッチを防ぐためにインターンシップや会社見学を推奨しているが、カリキュラムが過密であること並びに大学が地方に所在していることから、それについて課題が残っている。 ・薬学生の売り手市場が続かないことをどう学生に啓蒙していくか。その上での就職活動や就職への指導体制をどう構築するか。
<p>奨学金を借りている学生が多いせいか、見た目の給料が高い調剤薬局への就職を希望する学生が増えている。</p>
<p>大手企業の採用活動がはやいため、それにつられてしまう学生が多い。そのため、地元の中小的薬局が募集をしてもすでの内定が決まってしまうということが多く感じている。</p> <p>また、近年はCOVID-19の影響でオンラインでの採用活動を行う企業もあるが、そのようなノウハウのない薬局が採用活動で後れを取っている感じがする。</p> <p>学生が就職活動時に知りたい情報と、企業・薬局が採用活動時に学生に伝えない内容にズレはないのだろうか。</p> <p>卒業生を地元に着させるための、効果があった事例があれば是非教えてほしい。</p>
<p>就職活動の早期化により、早期に選考を行う企業から内定をもらうと、そこに進路決定する傾向が高まった。</p> <p>大手薬局、ドラッグストアについては、都市部での薬剤師が飽和しているとのことで、全国コース、広域コース等にエントリーすれば内定がやすく、逆に自宅通勤コースを選ぶと不合格となりやすい、という話を企業側から聞いている。広域コースで一定の薬剤師不足の地域で就業する場合の地域手当、奨学金返済サポートなど、企業側が手厚くしているのは承知している。自分から希望して遠隔地に赴任した者が学内の業界研究会等で説明をする場合があるが、そのような場に出てくるだけあって就業満足度は高いようである。千葉県は東京側と外房側では、病院薬剤師の充足度が違うが、柏、安孫子、市原、印西、野田等の都市部であっても、病院の人材確保は難しいようであり、就職センターでは病院側の要請を受け積極的に学生に周知している。</p>
<p>都会志向</p>

最後に、年末年始のご多忙な時期にあつて、研究班のアンケート調査依頼にご対応いただいた各薬科大学・薬学部の教職員の皆様に心よりお礼申し上げます。

<別添1：薬科大学・薬学部アンケート調査協力依頼状>

令和3年11月22日

薬科大学長・薬学部長 殿

令和3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)
地域における効果的な薬剤師確保の取組に関する調査研究
研究代表者 安原 真人

薬科大学・薬学部アンケート調査ご協力のお願い

拝啓

平素より薬学および薬学教育の充実・発展にご尽力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、去る6月30日に公表された「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」の取りまとめでは、薬剤師の従事先には業態の偏在や地域偏在があり、偏在を解消するための薬剤師確保の取組が必要であり、特に病院薬剤師の確保は喫緊の課題であることが指摘されています。

本研究班では、地域における効果的な薬剤師確保を目指して、薬剤師の偏在に関する薬剤師教育側の要因を探るために、薬学生の進路の業種と地域性、業態別求人状況と地域性、実務実習地域との関係、大学の就職支援策（特に薬剤師偏在解消への取組）等について、5・6年生が在籍する全国74の薬科大学・薬学部を対象に、アンケート調査を実施いたします。お忙しい中を恐縮ですが、何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本依頼状にアンケート調査票（別添1）を同封するとともに、別途電子メールにて調査票のExcelファイルをお届けします。ご回答は、令和3年12月31日までに下記の送付先に入力済みExcelファイルをメール添付にて返信、もしくは記入済み調査票のFAXにてお寄せください。

アンケートの集計結果は研究班の報告として学会・論文等で公表を予定していますが、原則として個別の大学名を挙げることはありません。アンケートの記載内容につき、さらに詳細をお尋ねすることがあるかもしれません。優れた取組事例については、大学のご了承を得た上で名前を挙げて研究班の報告で紹介させていただきたいと考えています。

なお、別添依頼状（別添2）の如く本アンケート調査と同時に行う薬学5・6年生を対象としたWebアンケート調査（別添4）についても、ご高配を賜りますようお願いいたします。末筆ながら、貴学の益々のご発展をお祈り申し上げます。

敬具

【問合せ・回答送付先】

〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1 帝京大学薬学部 安原真人

TEL:03-3964-8173、FAX:03-3964-8178、e-mail: yasuhara@pharm.teikyo-u.ac.jp

<別添2：薬科大学・薬学部アンケート調査票>

薬科大学・薬学部アンケート調査票

問1. 貴大学名をご記入ください。

問2. ご回答者のご所属の部署をお答えください。

問3. 貴大学では、附属病院を置いていますか。○をつけてください。

はい	いいえ
----	-----

問4. 貴大学では、附属薬局を置いていますか。○をつけてください。

はい	いいえ
----	-----

問5. 貴大学の薬学部の1学年の入学定員数をお答えください。

 人

問6. 貴大学の薬学部の現在の6年生の人数をお答えください。

 人

問7. 貴大学の薬学部の実務実習時期はいつですか。すべて選んでください。

<input type="checkbox"/> 第Ⅰ期
<input type="checkbox"/> 第Ⅱ期
<input type="checkbox"/> 第Ⅲ期
<input type="checkbox"/> 第Ⅳ期

問8. 病院実習の実習先医療機関の件数を、貴大学の所在都道府県とそれ以外で教えてください。

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
所在都道府県内	件	件	件
所在都道府県外	件	件	件

問9. 病院実習の実習先医療機関の件数を、都市部・地方部で教えてください。

- 都市部：①首都圏整備法の「既成市街地」あるいは「近郊整備地帯」、
 ②近畿圏整備法の「既成都市区域」あるいは「近郊整備区域」、
 ③中部圏開発整備法の「都市整備区域」のいずれかの地域

地方部：それ以外の地域

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
都市部	件	件	件
地方部	件	件	件

問10. 薬局実習の実習先機関の件数を、貴大学の所在都道府県とそれ以外で教えてください。

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
所在都道府県内	件	件	件
所在都道府県外	件	件	件

問11. 薬局実習の実習先機関の件数を、都市部・地方部で教えてください。

都市部：①首都圏整備法の「既成市街地」あるいは「近郊整備地帯」、
②近畿圏整備法の「既成都市区域」あるいは「近郊整備区域」、
③中部圏開発整備法の「都市整備区域」のいずれかの地域

地方部：それ以外の地域

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
都市部	件	件	件
地方部	件	件	件

<進路状況>

問12. 2018～2020年度（平成30～令和2年度）の薬学部卒業生の進路状況を、貴大学の所在都道府県とそれ以外でお答えください。

	平成30年度		令和元年度	
	貴学所在の都道府県内	貴学所在の都道府県外	貴学所在の都道府県内	貴学所在の都道府県外
病院（レジデント・研修生を含む）	人	人	人	人
保険薬局	人	人	人	人
ドラッグストア(薬局の併設を含む)	人	人	人	人
卸売業界	人	人	人	人
製薬企業	人	人	人	人
行政機関	人	人	人	人
大学院進学	人	人	人	人
その他	人	人	人	人

	令和2年度	
	貴学所在の都道府県内	貴学所在の都道府県外
病院（レジデント・研修生を含む）	人	人
保険薬局	人	人
ドラッグストア(薬局の併設を含む)	人	人
卸売業界	人	人
製薬企業	人	人
行政機関	人	人
大学院進学	人	人
その他	人	人

問13. 2018～2020年度（平成30～令和2年度）の薬学部卒業生の進路状況を、都市部・
地方部でお答えください。

都市部：①首都圏整備法の「既成市街地」あるいは「近郊整備地帯」、
②近畿圏整備法の「既成都市区域」あるいは「近郊整備区域」、
③中部圏開発整備法の「都市整備区域」のいずれかの地域

地方部：それ以外の地域

	平成30年度		令和元年度	
	都市部	地方部	都市部	地方部
病院（レジデント・研修生を含む）	人	人	人	人
保険薬局	人	人	人	人
ドラッグストア（薬局の併設を含む）	人	人	人	人
卸売業界	人	人	人	人
製薬企業	人	人	人	人
行政機関	人	人	人	人
大学院進学	人	人	人	人
その他	人	人	人	人

	令和2年度	
	都市部	地方部
病院（レジデント・研修生を含む）	人	人
保険薬局	人	人
ドラッグストア（薬局の併設を含む）	人	人
卸売業界	人	人
製薬企業	人	人
行政機関	人	人
大学院進学	人	人
その他	人	人

問14. 2018～2020年度（平成30～令和2年度）の求人状況をお答えください。

	平成30年度		令和元年度	
	貴学所在の都道府県内	貴学所在の都道府県外	貴学所在の都道府県内	貴学所在の都道府県外
病院（レジデント・研修生を含む）	人	人	人	人
保険薬局	人	人	人	人
ドラッグストア（薬局の併設を含む）	人	人	人	人
卸売業界	人	人	人	人
製薬企業	人	人	人	人
行政機関	人	人	人	人
大学院進学	人	人	人	人
その他	人	人	人	人

	令和2年度	
	貴学所在の都道府県内	貴学所在の都道府県外
病院（レジデント・研修生を含む）	人	人
保険薬局	人	人
ドラッグストア（薬局の併設を含む）	人	人
卸売業界	人	人
製薬企業	人	人
行政機関	人	人
大学院進学	人	人
その他	人	人

問15. 2018～2020年度（平成30～令和2年度）の求人状況を、都市部・地方部でお答えください。

- 都市部：①首都圏整備法の「既成市街地」あるいは「近郊整備地帯」、
 ②近畿圏整備法の「既成都市区域」あるいは「近郊整備区域」、
 ③中部圏開発整備法の「都市整備区域」のいずれかの地域

地方部：それ以外の地域

	平成30年度		令和元年度	
	都市部	地方部	都市部	地方部
病院（レジデント・研修生を含む）	人	人	人	人
保険薬局	人	人	人	人
ドラッグストア（薬局の併設を含む）	人	人	人	人
卸売業界	人	人	人	人
製薬企業	人	人	人	人
行政機関	人	人	人	人
大学院進学	人	人	人	人
その他	人	人	人	人

	令和2年度	
	都市部	地方部
病院（レジデント・研修生を含む）	人	人
保険薬局	人	人
ドラッグストア（薬局の併設を含む）	人	人
卸売業界	人	人
製薬企業	人	人
行政機関	人	人
大学院進学	人	人
その他	人	人

問16. 貴大学において、最初に就職に関するガイダンスが行われるのはいつですか。

年生	月
----	---

問17. 貴大学において、就職支援として実施しているものをすべてお答えください。

<input type="checkbox"/> 求人情報の公開
<input type="checkbox"/> インターンシップ情報の公開・募集
<input type="checkbox"/> 就職相談
<input type="checkbox"/> 面接指導
<input type="checkbox"/> OB・OG紹介
<input type="checkbox"/> 学内合同説明会（企業が参加するもの）
<input type="checkbox"/> 学内合同説明会（薬局・店舗販売業が参加するもの）
<input type="checkbox"/> 学内合同説明会（病院が参加するもの）
<input type="checkbox"/> キャリアに関する講演・講座
<input type="checkbox"/> その他（ ）

問18. 薬局・店舗販売業が参加する学内合同説明会を開催している場合、2020年度卒業生に対して、最初に開催した時期はいつですか。

年生	月
----	---

問19. 病院が参加する学内合同説明会を開催している場合、2020年度卒業生に対して、最初に開催した時期はいつですか。

年生	月
----	---

問20. 貴大学において、県内又は県外の薬剤師不足県・地域や薬剤師不足の病院・薬局への就業を促す取組や地域医療に関する教育を行っていますか。

はい	いいえ
----	-----

問21. 上記問で「はい」と回答された場合、貴大学が実施している取組についてお答えください。

問21-1. 地域枠の設定。

あり	なし
----	----

上の質問で「あり」と回答した方にお聞きします。その効果はありましたか？

あり	なし	不明
----	----	----

問21-2. 就職説明会・相談会の開催（薬剤師不足の県・地域・病院・薬局が参加）。

あり	なし
----	----

上の質問で「あり」と回答した方にお聞きします。その効果はありましたか？

あり	なし	不明
----	----	----

問21-3. 薬剤師不足の県・地域・病院・薬局からの求人とのマッチングの取組。

あり	なし
----	----

上の質問で「あり」と回答した方にお聞きします。その効果はありましたか？

あり	なし	不明
----	----	----

問21-4. 奨学金・奨学金返済サポート。

あり	なし
----	----

上の質問で「あり」と回答した方にお聞きします。その効果はありましたか？

あり	なし	不明
----	----	----

問21-5. 薬剤師不足県・地域（県内/県外）における実務実習。

あり	なし
----	----

上の質問で「あり」と回答した方にお聞きします。その効果はありましたか？

あり	なし
----	----

問21-6. 自治体等との薬剤師確保に係る協定の締結。

あり	なし
----	----

上の質問で「あり」と回答した方にお聞きします。その効果はありましたか？

あり	なし	不明
----	----	----

問21-7. 地域医療に関する教育（講義、実務実習等）。

あり	なし
----	----

上の質問で「あり」と回答した方にお聞きします。その効果はありましたか？

あり	なし	不明
----	----	----

問21-8. その他の取組。

あり	なし
----	----

上の質問で「あり」と回答した方にお聞きします。取組の内容をご説明ください。

具体的な取組内容

その効果はありましたか？

あり	なし	不明
----	----	----

< 離職率 >

問22. 薬学部卒業生の離職率を把握していますか。

はい	いいえ
----	-----

問22-1. 上記問で「はい」と回答された場合、貴大学の卒業生の離職率をお答えください。
(1年離職率、3年離職率等)

--

問23. 6年制薬学生の就職状況やキャリアパスについて、お気づきの点をお寄せください。

--

調査にご協力いただき、ありがとうございました。

次の①～③のいずれかの方法で、令和3年12月31日までにご回答をお寄せください。

- ①別途お送りしたExelファイルに入力してメール添付で送信、
- ②回答を記入した調査票をPDF化してメール添付で送信、
- ③回答を記入した調査票をFAX送信、

【問合せ・回答送付先】

令和3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金

(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)

地域における効果的な薬剤師確保の取組に関する調査研究

〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1 帝京大学薬学部 安原真人

TEL:03-3964-8173、FAX:03-3964-8178、

e-mail: yasuhara@pharm.teikyo-u.ac.jp

薬学5・6年生 Web アンケート調査結果

地域における効果的な薬剤師確保を目指して、薬剤師の偏在に係る薬剤師教育側の要因を探るために、全国の薬学5・6年生を対象に Web アンケート調査を行った。学生 Web アンケート調査への協力依頼状（別添1）を5・6年生が在籍する全国74の薬科大学長・薬学部長宛に令和3年11月22日に郵便と電子メールで送付した。協力依頼状には、「薬学生の就職希望/決定先とその決定要因に関する Web アンケート調査ご協力のお願い」と題する学生宛の協力依頼文書（別添2）と Web アンケートフォーム（別添3）を添付し、学長・学部長の承諾が得られた場合に大学から該当学年の学生に別添2の依頼文書を通じ、別添2に記載されているQRコードもしくはURLを用いて学生は任意にアンケートサイトにアクセスすることが可能とした。Microsoft Forms によるアンケートサイトは令和3年11月25日から12月31日までの期間アクセス可能となるよう設定した。なお、本 Web アンケート調査の実施に関しては、事前に帝京大学医学系研究倫理委員会の審査を受け承認を受けた（帝倫21-157号）。

調査期間中にアンケートサイトに2345件のアクセスがあり、アンケートの趣旨説明を理解し自らの自由意思でアンケートに回答することに同意した2302件を有効回答とした。回答学生は、5年1185人、6年1117人、国公立大生218人、私立大生2084人であった。回答者の性別を表1に、出身地（高校卒業時の居住都道府県）別回答者数を図1に示す。

表1. 学生 Web アンケート回答者性別

	5・6年	5年	6年
男性	662	331	331
女性	1615	839	776
不明	25	15	10

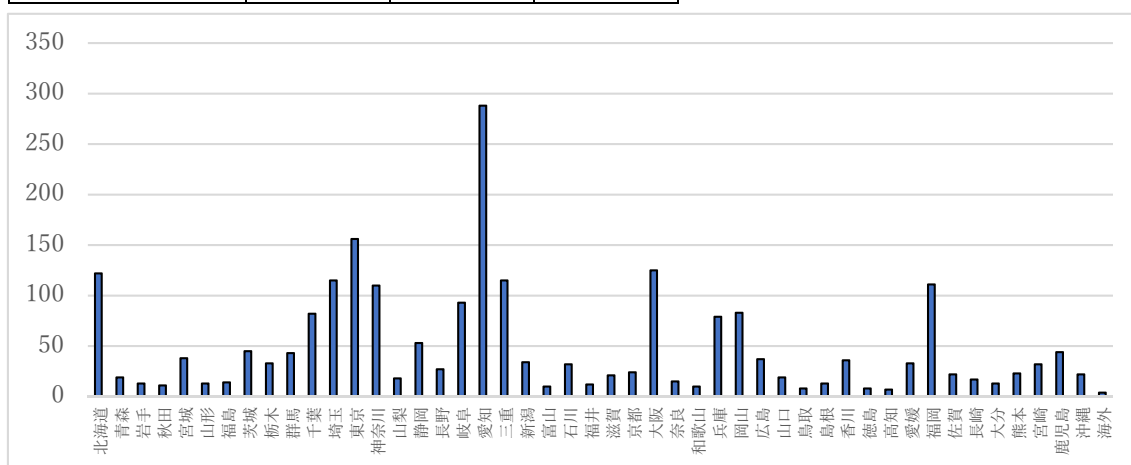


図1. アンケート回答者の高校卒業時居住都道府県別人数

問 14. 返済が必要な奨学金又はそれに類似する借入を受けていますか。

・はい 805 人、 ・いいえ 1497 人

奨学金借入者の大学種別は、国公立大学 59 人、私立大学 746 人であった。

問 15. 奨学金等の借入先を教えてください。

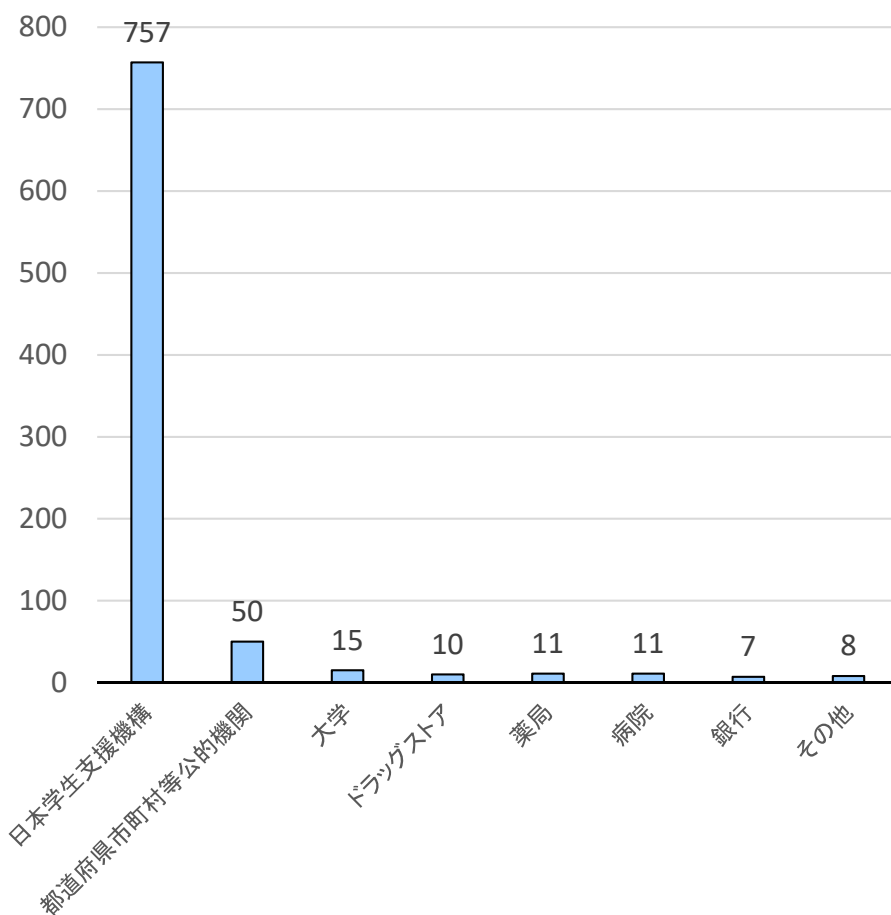


図 2. 奨学金等の借入先

問 16. 奨学金等の借入に際し、利用した制度をお答えください。(あてはまるもの全てに○)

表 2. 利用している奨学金制度

貸与（無利子）	424
貸与（有利子）	573
給付型	131

問 17. 返済予定金額（返済支援を受ける場合、その支援額を含む金額）について、総額（予定額）を記入してください（円）。

奨学金を利用していると答えた 805 人の内、545 人が返済予定金額総額を回答した。545 人の単純平均は 650 万円となったが、返済予定金額は広範に分布し（図 3）、143 人が総額 1000 万円以上であった。

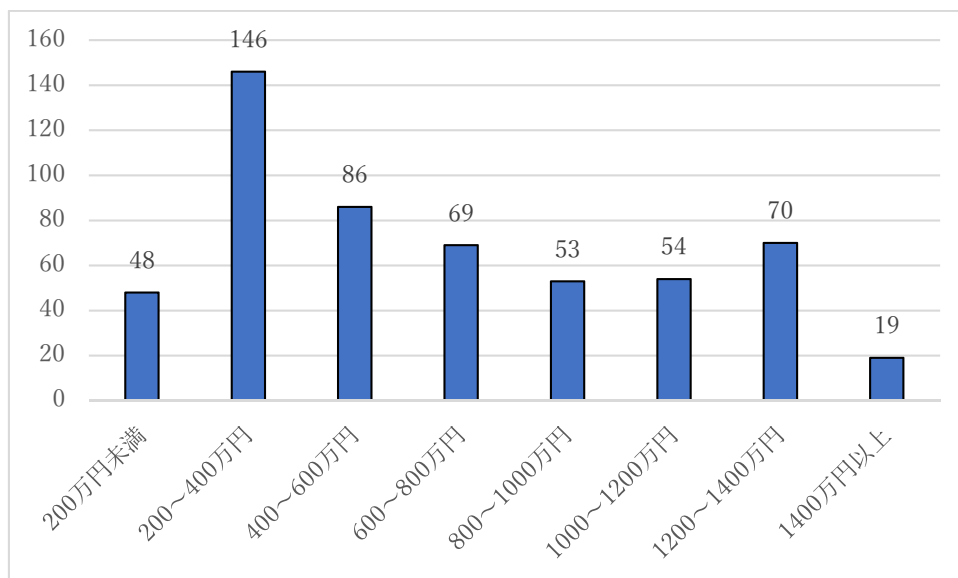


図 3. 奨学金等返済予定総額の分布 (n=545)

問 20. 奨学金等の返済への支援を受ける予定がある場合は、支援先を教えてください。

表 3. 奨学金等返済への支援を受ける支援先

返済支援制度のある公的機関（都道府縣市町村等）	30
病院	23
保険薬局	53
ドラッグストア（薬局の併設含む）	13
支援なし	677

問 21. 現在、就職活動を行っていますか。

表 4. アンケート回答者の就職活動状況

就職活動	5・6年	5年	6年
就職活動終了	1072	18	1054
就職活動中	788	764	24
未活動	442	403	39

問 22. 内定先をお答えください。(就職活動終了者 1072 人に対して)

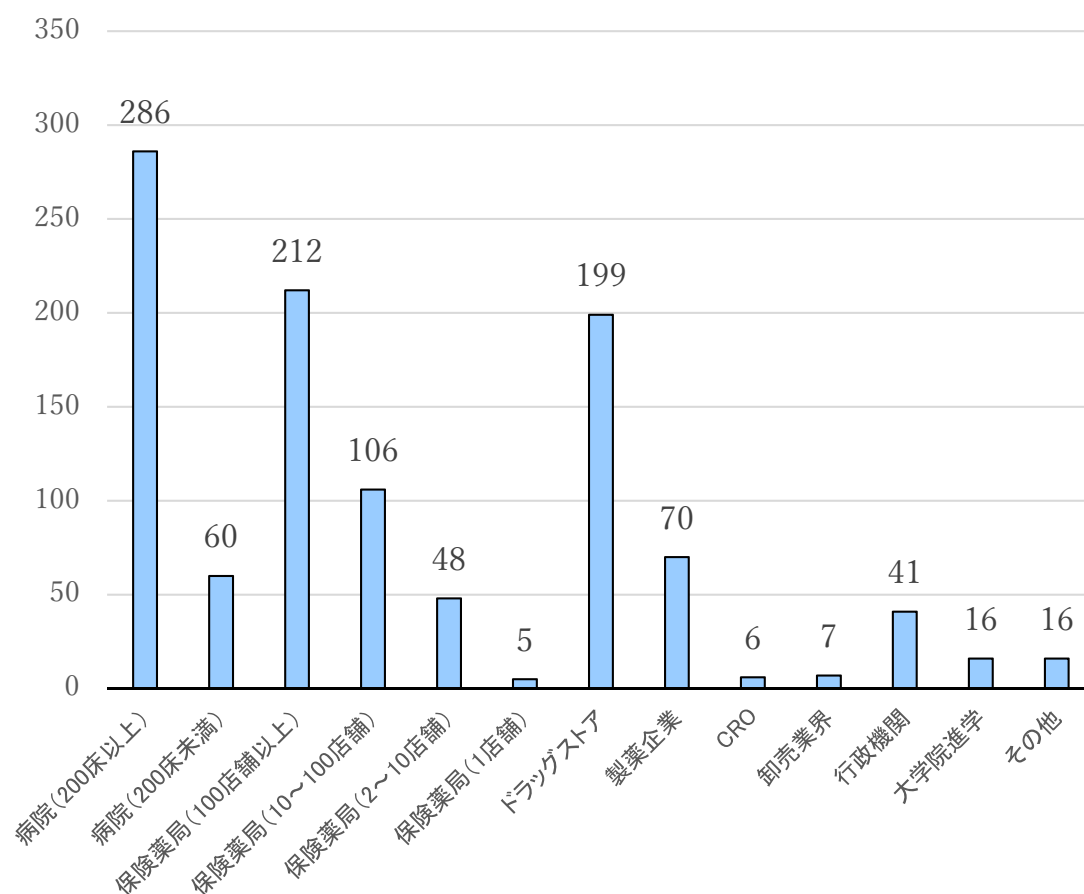


図 4. 就職活動終了者の就職先分類 (5・6 年生 1072 人)

就職活動終了者の就職先は、病院 32%、保険薬局 35%、ドラッグストア 19%、製薬企業・卸売業 7%、行政 4%、大学院 2%であった。就職先別に奨学金利用者数と奨学金返済支援の利用者数を表 5 に示す。就職活動終了者 1072 人の内 413 人 (39%) が奨学金を利用しており、保険薬局への就職者では奨学金利用者の割合が平均を上回り、限られた人数ではあるが奨学金返済支援制度を利用している頻度が高かった。

表 5. 就職活動終了者の就職先と奨学金利用状況

就職先	人数	奨学金利用数	返済支援利用数	備考
病院 (200 床以上)	286	98	16	病院 10、公的 4、親族 2
病院 (200 床未満)	60	29	4	病院 2、公的 2
保険薬局 (100 店舗以上)	212	86	21	保険薬局 19、公的 2
保険薬局 (10~100 店舗)	106	48	13	保険薬局 10、公的 3
保険薬局 (2~10 店舗)	48	28	7	保険薬局 7

保険薬局（1店舗）	5	3	3	保険薬局 3
ドラッグストア	199	82	11	ドラッグストア 8、公的 3
製薬企業	70	23	0	
行政機関	41	8	0	
CRO	6	0	0	
卸売業界	7	0	0	
大学院進学	16	5	0	
その他	16	3	0	

問 23. 内定した薬局/ドラッグストアの認定等の状況を分かる範囲でお答えください。

表 6. 就職先薬局/ドラッグストアの機能分類

地域連携薬局	295
専門医療機関連携薬局	131
健康サポート薬局	253
いずれにも該当しない	21
不明	174

（対象 570 人）

問 24. 内定した薬局/ドラッグストアは、あなたの実務実習先でしたか。

・実習先である 59 人 ・実習先でない 511 人

問 25. 内定した病院の医療機能分類をわかる範囲でお答えください。

表 7. 就職先病院の医療機能分類

高度急性期病院	92
急性期病院	168
回復期病院	11
慢性期病院	23
その他	8
不明	30

（回答者 332 人）

問 26. 内定した病院は、あなたの実務実習先でしたか。

・実習先である 68人 ・実習先でない 277人

問 27. 内定先の勤務地は、次のどの条件にあてはまりますか。

表 8. 就職先の勤務地

都市部（都区部、指令指定都市）	361
地方部	259
出身地	463
出身大学の所在地域	129
その他	93

問 28. 内定時期を教えてください。

表 9. 内定時期

5 年生前期	20
5 年生後期	150
6 年生前期	821
6 年生後期	70
その他	11

問 29. 現在までに、内定は得られていますか。（就職活動中の学生 788 人に対して）

・はい 12人 ・いいえ 776人

問 30. 現在までの内定先をお答えください。（問 29 で「はい」の回答者に対して）

表 10. 現在までの内定先

病院	0
保険薬局（100 店舗以上）	3
保険薬局（10 店舗以上）	2
保険薬局（2 店舗以上）	3
保険薬局（1 店舗）	0
ドラッグストア	3
医療機器	1

（対象 12 人）

問 31. 内定した薬局/ドラッグストアの認定等の状況を分かる範囲でお答えください。

表 11. 就職先薬局/ドラッグストアの機能分類

地域連携薬局	2
専門医療機関連携薬局	0
健康サポート薬局	4
いずれにも該当しない	2
不明	2

(対象 11 人)

問 32. 内定した薬局/ドラッグストアは、あなたの実務実習先でしたか。

・実習先である 1 人 ・実習先ではない 10 人

問 35. 内定時期を教えてください。

表 12. 内定時期

5 年生前期	1
5 年生後期	7
6 年生前期	4
6 年生後期	0
その他	0

問 36. 内定先の勤務地は、次のどの条件にあてはまりますか。

表 13. 就職先の勤務地

都市部（都区部、指令指定都市）	5
地方部	3
出身地	3
出身大学の所在地域	0
その他	1

問 37. 現在就職を検討している、あるいは今後検討する就職先の第 1 希望をお答えください。

問 38. 現在就職を検討している、あるいは今後検討する就職先の第 2 希望をお答えください。

問 39. 現在就職を検討している、あるいは今後検討する就職先の第3希望をお答えください。

表 14. 就職活動中/未活動の学生の就職希望先

	第1希望	第2希望	第3希望
病院（200床以上）	400	167	134
病院（200床未満）	71	258	82
保険薬局（100店舗以上）	223	246	221
保険薬局（10～100店舗）	112	213	236
保険薬局（2～10店舗）	57	62	115
保険薬局（1店舗）	24	26	44
ドラッグストア	160	144	245
製薬企業	80	33	54
CRO	5	6	0
卸売業界	5	11	20
行政機関	41	26	38
大学院進学	31	12	17
その他	21	26	24
合計	1230	1230	1230

問 40. 内定先に就職、進路決定済みの方にお尋ねします。実習（薬局実習・病院実習）の前後で、就職先の希望が変わりましたか。

・はい 392人 ・いいえ 680人

問 41. 「はい」と回答された方にお尋ねします。実習（薬局実習・病院実習）前に、希望していた就職先はどちらですか。

表 15. 実務実習前の就職希望先（対象 392人）

病院（200床以上）	144
病院（200床未満）	34
保険薬局（100店舗以上）	55
保険薬局（10～100店舗）	26
保険薬局（2～10店舗）	19
保険薬局（1店舗）	1
ドラッグストア	36

製薬企業	42
卸売業界	1
行政機関	13
大学院進学	7
その他	14

問 42. 就職活動中、もしくはまだ活動していない方にお尋ねします。実習（薬局実習・病院実習）の前後で、就職先の希望が変わりましたか。

・はい 372人 ・いいえ 858人

問 43. 「はい」と回答された方にお尋ねします。実習（薬局実習・病院実習）前に、希望していた就職先はどちらですか。

表 16. 実務実習前の就職希望先（対象 372 人）

病院（200 床以上）	111
病院（200 床未満）	25
保険薬局（100 店舗以上）	73
保険薬局（10～100 店舗）	41
保険薬局（2～10 店舗）	25
保険薬局（1 店舗）	8
ドラッグストア	31
製薬企業	26
卸売業界	1
行政機関	11
大学院進学	9
その他	11

問 44. 就職活動を終了した（内定先に就職、進路決定済み）と回答された方にお尋ねします。勤務先の決定、決め手となった第 1 位の要因は何ですか。

問 46. 就職活動を終了した（内定先に就職、進路決定済み）と回答された方にお尋ねします。勤務先の決定、決め手となった第 2 位の要因は何ですか。

問 48. 就職活動を終了した（内定先に就職、進路決定済み）と回答された方にお尋ねします。勤務先の決定、決め手となった第 3 位の要因は何ですか。

表 17. 就職活動終了者の勤務先決定の決め手となった要因（対象 1072 人）

	第 1 位	第 2 位	第 3 位
業務内容・やりがい	358	166	116
勤務予定地	142	175	163
給与水準	128	156	133
福利厚生	102	172	154
研修制度等スキルアップのための制度	87	77	94
採用活動の内容や担当者とのコミュニケーション	49	68	67
キャリアパス	39	56	59
研究・学習環境	38	35	41
奨学金・返済サポート制度	33	12	11
実務実習の実施・受入やその内容	16	15	16
昇給制度や給与カーブ	14	29	40
夜勤の有無や条件	9	11	22
勤務時間の柔軟さ	7	12	30
勤務時間の長さ	6	19	29
育休等の休業・休職制度	6	22	35
離職率	5	13	17
採用活動を実施している期間・時期	3	8	24
応募時に併願ができたこと	3	6	7
その他	27	20	14

問 50. 就職活動中、あるいはまだ就職活動をしていないと回答された方にお尋ねします。

現在の第 1 希望の就職先を選ぶ理由の第 1 位は何ですか。

問 52. 就職活動中、あるいはまだ就職活動をしていないと回答された方にお尋ねします。

現在の第 1 希望の就職先を選ぶ理由の第 2 位は何ですか。

問 54. 就職活動中、あるいはまだ就職活動をしていないと回答された方にお尋ねします。

現在の第 1 希望の就職先を選ぶ理由の第 3 位は何ですか。

表 18. 就活中/未活動の学生の就職希望先の選定理由（対象 1230 人）

	第 1 位	第 2 位	第 3 位
業務内容・やりがい	537	164	132
給与水準	161	224	187

勤務予定地	113	147	158
福利厚生	107	211	207
研修制度等スキルアップのための制度	90	117	104
キャリアパス	39	64	53
研究・学習環境	28	72	55
勤務時間の柔軟さ	23	27	44
採用活動の内容や担当者とのコミュニケーション	17	25	38
昇給制度や給与カーブ	16	46	54
夜勤の有無や条件	16	23	27
実務実習の実施・受入やその内容	16	21	20
勤務時間の長さ	14	40	38
奨学金・返済サポート制度	8	7	12
離職率	7	12	22
育休等の休業・休職制度	6	18	50
応募時に併願ができたこと	1	2	5
採用活動を実施している期間・時期	1	1	3
その他	30	9	21

問 56. 現在までに内定が得られている方にお尋ねします。就職活動にあたり、参加したプログラム等はどれですか（複数選択可）。

表 19. 就職活動にあたり参加したプログラム

外部で開催される合同説明会	667
大学内で開催される合同説明会	658
就職先が開催する個別説明会	684
インターンシップ	514
OB・OG 訪問	102
大学の就職相談	191
大学で公開された求人情報	140
大学で開催されたキャリアに関する講演・講座	220
その他	52
どれも参加していない	37

問 57. 内定先を初めて知るきっかけとなったプログラム等はどれですか。

表 20. 内定先を初めて知るきっかけとなったプログラム

外部で開催される合同説明会	246
大学内で開催される合同説明会	170
就職先が開催する個別説明会	163
インターンシップ	88
OB・OG 訪問	29
大学の就職相談	26
大学で公開された求人情報	40
大学で開催されたキャリアに関する講演・講座	19
実務実習	124
その他*	

* インターネット、マイナビ、アルバイト、
家族・友人の紹介、病院見学、等

問 58. 内定先の給与水準（就職初年度）をお答えください。

表 21. 内定先初年度給与水準

300 万円未満	158
300～ 400 万円	518
400～ 500 万円	235
500～ 600 万円	63
600～ 700 万円	9
700～ 800 万円	1
800～ 900 万円	2
900～1000 万円	0
1000 万円以上	1

(n = 987)

初年度給与が 300 万円未満の業種内訳は、病院 99 件、保険薬局 25 件、ドラッグストア 3 件、製薬企業 3 件、行政機関 11 件、その他 17 件であった

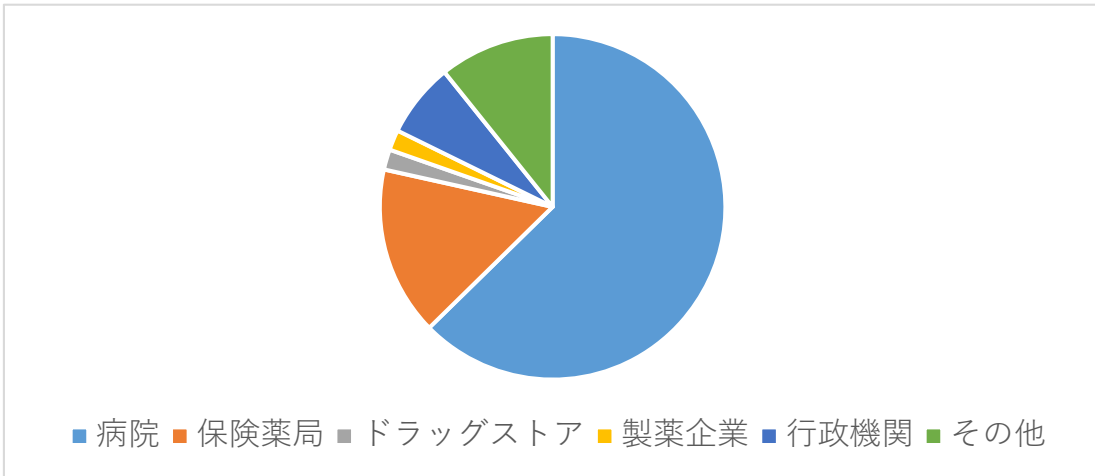


図5. 初年度給与 300万円未満の業種分類 (n = 158)

図6には、就職内定者の初年度給与を業種別に示した。病院では300万円未満の割合が高く、400万円を超える給与は限られており、他の業種に比し給与が低い傾向が認められた。一方、ドラッグストアでは400万円台の割合が最も高く、500万円台も20%を占めていた。

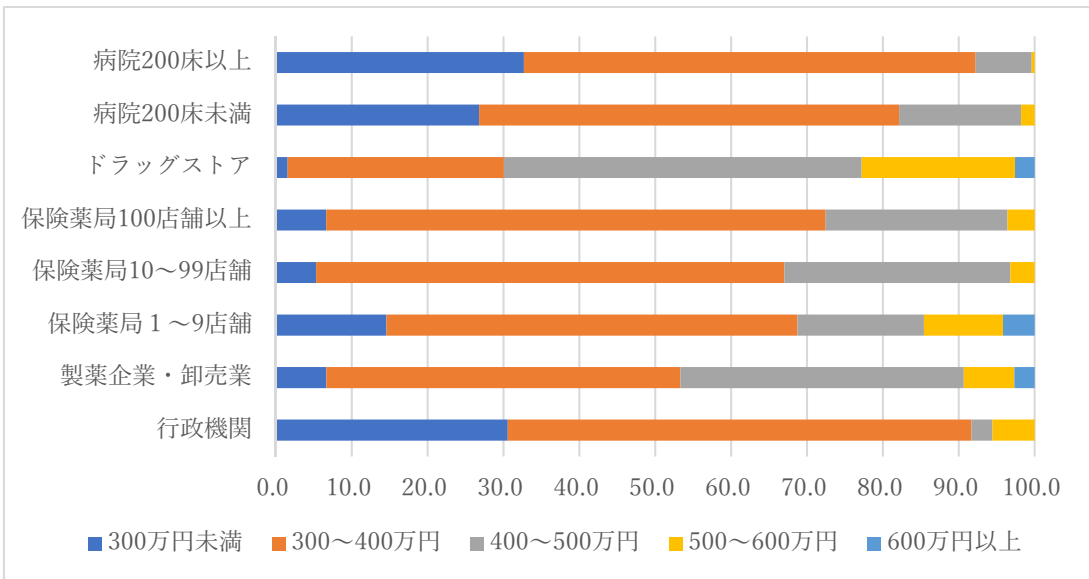


図6. 就職内定者の業種別初年度給与分布 (%)

問59. 薬剤師の勤務先に地域偏在（都市部に偏って存在すること）があることはご存知ですか。

- ・よく知ってる 812人
- ・まあ知ってる 1131人
- ・あまり知らない 312人
- ・全く知らない 47人

問 60. 薬剤師が不足する地域の薬局や病院に、卒後直ちに就職する意向はありますか。

・ある 690人 ・ない 1612人

問 60 より、回答者の 30%は薬剤師不足地域に就職する意向を有していることが示された。図 7 には、薬剤師不足地域に就職する意向を有する学生数の割合を学生の出身都道府県別に示した。東京都 15%、神奈川県 18%、愛知県 21%、大阪府 20%、京都府 21%と

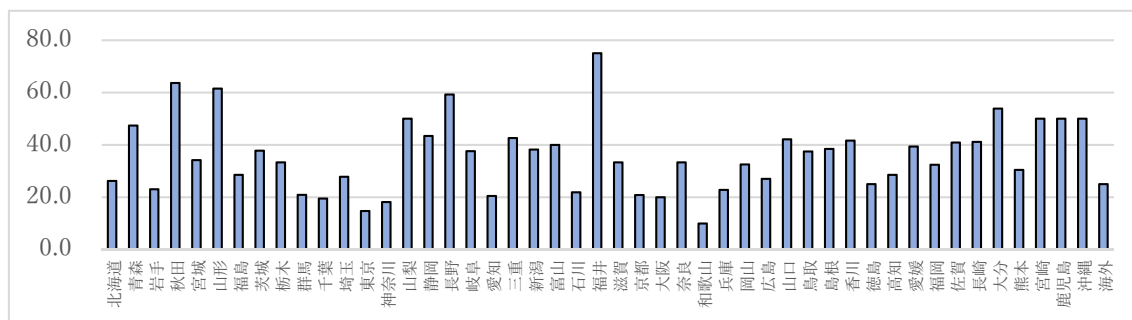


図 7. 学生の出身都道府県別の薬剤師不足地域就職意向率

大都市圏は低率であるのに対し、福井県 75%、秋田県 64%、山形県 62%、長野県 59%、大分県 54%、沖縄県 50%と、薬剤師不足が問題となっている地方出身の学生は高率を示す傾向があった。

問 61. 前問で「ない」と答えた方で、内定先が都市部と答えた方にお尋ねします。都市部での一定の業務経験の後、将来的に地方部の薬局や病院で勤務する意向はありますか。

・ある 591人 ・ない 702人

問 62. 前問で「ない」と答えた方にお尋ねします。地方部での就職を希望しない理由（懸念点）の第 1 位は何ですか。

問 64. 地方部での就職を希望しない理由（懸念点）の第 2 位は何ですか。

問 66. 地方部での就職を希望しない理由（懸念点）の第 3 位は何ですか。

表 22. 地方部での就職を希望しない理由（対象 702 人）

	第 1 位	第 2 位	第 3 位
業務内容・やりがい	65	124	84
給与水準	33	44	33
勤務時間の長さ	21	36	36
研究・学習環境	20	68	64
キャリアパス	19	65	73
勤務時間の柔軟さ	19	50	59

研修制度等スキルアップのための制度	15	44	52
福利厚生	14	41	50
育休等の休業・休職制度	9	26	46
夜勤の有無や条件	5	17	25
昇給制度や給与カーブ	5	17	18
奨学金・返済サポート制度	2	1	4
その他*	475	169	158

*地元が都市部、都市部に居住したい、交通の利便性、病院・教育などのインフラ、結婚

問 68. 薬剤師が不足している病院があることはご存知ですか。

- ・よく知ってる 684 人
- ・まあ知ってる 898 人
- ・あまり知らない 352 人
- ・全く知らない 49 人

問 69. 卒業後直ちに病院に就職することを希望していない人にお尋ねします。病院への就職を希望しない第 1 位の理由は何ですか。

問 71. 卒業後直ちに病院に就職することを希望していない人にお尋ねします。病院への就職を希望しない第 2 位の理由は何ですか。

問 73. 卒業後直ちに病院に就職することを希望していない人にお尋ねします。病院への就職を希望しない第 3 位の理由は何ですか。

表 23. 卒業後直ちに病院に就職することを希望していない人の理由

	第 1 位	第 2 位	第 3 位
給与水準	605	237	140
業務内容・やりがい	193	116	110
夜勤の有無や条件	146	211	164
勤務時間の長さ	82	163	114
福利厚生	26	96	99
勤務予定地	22	52	63
応募時に併願ができたこと	21	20	61
研修制度等スキルアップのための制度	15	10	23
勤務時間の柔軟さ	14	48	80
キャリアパス	14	35	42

昇給制度や給与カーブ	13	111	78
採用活動を実施している期間・時期	11	27	45
研究・学習環境	10	14	6
離職率	9	29	69
採用活動の内容や担当者とのコミュニケーション	9	9	29
実務実習の実施・受入やその内容	9	7	19
奨学金・返済サポート制度	7	12	16
育休等の休業・休職制度	3	17	31
その他	57	33	43
回答者に非該当	337		

問 75. 現在、高度急性期病院や急性期病院への就職を希望（内定）している方にお尋ねします。将来、回復期病院や慢性期病院へ行って地域医療に貢献したいと考えますか。

・考える 206 人 ・考えない 66 人 ・回答者に非該当 65 人

問 76. 前問で「考えない」と答えた方にお尋ねします。回復期病院や慢性期病院への就職を希望しない理由（懸念点）の第 1 位は何ですか。

問 78. 前問で「考えない」と答えた方にお尋ねします。回復期病院や慢性期病院への就職を希望しない理由（懸念点）の第 2 位は何ですか。

問 80. 前問で「考えない」と答えた方にお尋ねします。回復期病院や慢性期病院への就職を希望しない理由（懸念点）の第 3 位は何ですか。

表 24. 回復期病院や慢性期病院への就職を希望しない理由（対象 66 人）

	第 1 位	第 2 位	第 3 位
業務内容・やりがい	44	9	9
研究・学習環境	7	17	8
研修制度等スキルアップのための制度	3	14	13
キャリアパス	2	5	12
給与水準	2	4	3
勤務時間の長さ	2	3	1
夜勤の有無や条件	1	1	6
勤務時間の柔軟さ	1	1	1
昇給制度や給与カーブ	0	2	2
福利厚生	0	1	3

育休等の休業・休職制度	0	1	0
その他	4	8	8

問 82. アンケートにご回答ありがとうございました。最後に、薬学生の就職活動や進路決定のあり方についてご意見をお聞かせください。

問 82 に対して、324 人より具体的な意見が寄せられた。以下に、一部を掲載する。

- 医療の現場で働く薬剤師の地位の向上や一般の方への職務内容の周知を積極的に行うことが、薬剤師の就職状況の改善には必要ではないかと感じた（6 年女性）。
- 一概に薬局、病院という考えではなく、垣根を超えて柔軟に働くなど何かあればいいと思いました（6 年女性）。
- 全員が病院や薬局に就職したいと思っているわけではないので、もっと一般企業へ就職する学生向けの情報がほしい（5 年女性）。
- 6 年制薬学部は研究職に就きにくい現状に違和感を感じる（5 年女性）。
- オンラインによる合同説明会やインターンシップの開催をコロナが終息後も継続してほしいです。在住地から遠方へ気軽にインターンシップに参加することができ様々な特色を知ることができました（6 年女性）。

<奨学金>

- 奨学金を借りていると、病院薬剤師としてやりがいを取るか、薬局薬剤師として給与を取るかで悩む（5 年女性）。
- 病院志望でしたが、多額の奨学金と保険薬局の奨学金サポート制度に合格したため断念しました。似た境遇の方も多いのではないでしょうか（6 年男性）。
- 奨学金を多額に借りているため、給料が高い所を選ばざるを得ない（6 年男性）。

<病院薬剤師>

- 病院薬剤師が不足している第一の理由であり、最大の理由は給与です。医療法人とそうでない薬局との違いかもしれませんが、あまりにもやりがい搾取がすぎる（6 年男性）。
- 病院は併願が出来ない、薬局に比べ仕事がハード、募集枠が少ない、給与が低いなど薬局やドラッグストアに比べてデメリットが多すぎると思う。病院こそ優秀な人材が必要だと思うが、仕事に見合った給与が支給されないのは残念（6 年女性）。
- 自分の場合は大学病院のレジデントや病院薬剤師に興味がありましたが、病院に就職された先輩との関わりなどがなかなか無く、就活の情報収集が難しかったです。自分から連絡をとって動いてみることの大切さを痛感しました。就職先の決め手は病院見学の際の雰囲気だったのですが、コロナの流行のなかでもオンラインでなく実際に見学してその病院のスタッフの方との交流があったからこそ受験する気持ちになれました。

た。将来的には地方の小規模な病院などでも働きたいですが、一番最初に働くならば経験を積みたいと思い大学病院での就職を決めました（6年女性）。

- 私は来年度から CRO へ統計解析職として入職予定ですが、元々は病院薬剤師志望でした。しかし、生涯年収や夜勤を含めた激務などを考慮し病院で働くことは諦めました。せめて給与水準が薬局と同じ程度であればまだ病院薬剤師志望だったかもしれません。ただ、未練はもうないですし今後は私のように非臨床で働く薬剤師も増えるのではないかと思いますし、需要は増していくと思います（6年男性）。
- 病院での研修で、研修医制度のようなものがあったら良いと思いました。レジデントは給与が低いのでやりたくはありませんが…（5年男性）。
- 新卒で地方の薬剤師の足りない病院へ就職するのは学びの面でもかなり不安があります（5年女性）。
- 就職活動中、病院就職も検討したが中小規模の病院の多くはマイナビ等の就職サイトに掲載されておらず、1つ1つ比較するのが大変だった。そのため、うまくアプローチできないこともあった（6年男性）。
- 病院の募集要項や薬剤部の活動内容等の情報開示が病院によってまちまちであると感じ、選択しにくい（5年女性）。
- 病院の就活について公開されている情報が薬局などと比較すると少ないので、まとまった情報が得られる就活サイトなどがあると便利だと感じている（5年男性）。

<実務実習>

- 私の実務実習先は、ドラッグストア併設の調剤薬局でした。そこで実習した事がきっかけで、ドラッグストア併設の調剤薬局で働きたいと思いました。しかし私の地元では、ドラッグストア併設の調剤薬局の存在があまり浸透しておらず、店舗数も少なかったため、通っている大学のある地域に多く展開しているドラッグストアチェーン店に就職を決めました。私のように、地元では希望の就職先の選択肢が少なく、都市部で働く事を選ぶという学生も少なからずいるのではないかと思います（6年女性）。
- 実務実習が進路決定に与える影響は大きいと思う（6年男性）。
- 実務実習が4期のため、ほかの期間に実習している方より就職活動に遅れが出たり、就職活動が雑になってしまうのが不安（5年女性）。
- 製薬企業の就職活動を行う学生が非常に不利だと感じる。実習期間を選ぶことができず、人生を左右する就職活動に、時間的にも物理的にも影響が出ている。実習期間の希望を取るようにしてほしい（5年男性）。

<ライフスタイル>

- 仕事は仕事、生活は生活。やりがいは大事だが、仕事のための人生ではなく、いろいろなことを体験できる人生の方が楽しいと思うのでプライベートに使える時間とお金があることで幸福度が上がり、仕事にも励むことができると思う（5年女性）。

- 私にとって何処で働きたいかよりも誰と何処で暮らしたいかが一番重要です。田舎、都市部と分けられると違和感を覚えます（5年女性）。
- 地元を離れ就職することで、人として成長できることがあると思います。●●県では出会えないような機会や人と出会えるのではないかと。安定のために地元で勤務するという考えもありますが、様々な経験を積むために地元を離れる予定です。最後には、大好きな地元で勤務したいと思っています（5年女性）。

以上、令和3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金による「地域における効果的な薬剤師確保の取組に関する調査研究」研究班が実施した学生 Web アンケート調査の結果を記した。アンケート調査の実施にご高配を賜った全国の薬科大学長・薬学部長の先生方と調査の趣旨を理解し回答を寄せてくださった全国の薬学5・6年生の皆様へ感謝申し上げます。

<別添1>

令和3年11月22日

薬科大学長・薬学部長 殿

令和3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)
地域における効果的な薬剤師確保の取組に関する調査研究
研究代表者 安原 真人

学生 Web アンケート調査へのご協力をお願い

平素より薬学および薬学教育の充実・発展にご尽力を賜り、誠にありがとうございます。

去る6月30日に公表された「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」の取りまとめでは、薬剤師の従事先には業態の偏在や地域偏在があり、偏在を解消するための薬剤師確保の取組が必要であり、特に病院薬剤師の確保は喫緊の課題であると指摘されています。

本研究班では、全国の薬学生（5・6年生）を対象に、彼らの就職（希望）先や就職先の選択基準、奨学金の受給など別添の質問項目についてアンケート調査を行い、薬剤師の地域偏在や業態の偏りとの関係性を明らかにしたいと考えています

つきましては、貴学の5・6年生の学生の皆様に、令和3年12月31日までに下記のQRコードもしくはURLを用いてwebアンケート（別添4）に回答いただきたく、添付の学生宛協力依頼書（別添3）をご利用いただき周知方よろしくお願い申し上げます。



<https://forms.office.com/r/gphPjgzasd>

なお、本アンケート調査は帝京大学医学系研究倫理委員会の承認を得て実施しています。アンケートの集計結果は研究班の報告として学会・論文等で公表を予定していますが、アンケートは無記名であり、回答された方が特定されることはありません。アンケートに回答するか否かは、学生の皆様の自由意思により決めてください。不快に感じる質問などありましたら回答を途中で中止しても差し支えありません。気分不快等で万が一治療が必要になった場合の医療費は、学生の自己負担となります。アンケート調査への協力の有無は成績とは無関係であり、回答しないことで不利益を生じることはありません。ただし、一旦送信された回答については、匿名であるために後から回収・削除することはできないことをご確認ください。

【問合せ先】〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1 帝京大学薬学部 安原真人
TEL:03-3964-8173、FAX:03-3964-8178、e-mail: yasuhara@pharm.teikyo-u.ac.jp

<別添2>

薬学生（5・6年生）の皆様へ

薬学生の就職希望/決定先とその決定要因に関する Web アンケート調査ご協力をお願い

【研究の背景と目的】国内で働く薬剤師が都市部に偏っているという地域偏在の問題が指摘されています。また、病院の薬剤師が特に不足しており、薬剤師の従事先の業態の偏在も重要な問題です。これらの問題に対し、これから薬剤師として社会に出ようとしている薬学生の就職に関する現状を調査することで、偏在に結び付く要因を探り問題解決の糸口を見つけることが本研究の目的です。

【方法】Web アンケート調査は、全国の薬学生の5・6年生を対象とし、皆さんの就職（希望）先や就職先の選択基準、奨学金の受給などについてMS Formsを用いて回答いただきます。質問数は、回答内容により異なりますが約27～40件で、所要時間は5～10分を見込んでいます。下記のQRコードもしくはURLを用いてMS Formsにアクセスして回答をお願いします（回答締切 令和3年12月31日）。



<https://forms.office.com/r/gphPjgzasd>

本アンケート調査は帝京大学医学系研究倫理委員会の承認を得た上で、令和3年度厚生労働行政推進調査事業費により実施しています。アンケートの集計結果は研究班の報告として学会・論文等で公表を予定していますが、アンケートは無記名であり、回答された方が特定されることはありません。アンケートに回答するか否かは、学生の皆様の自由意思により決めてください。不快に感じる質問などありましたら回答を途中で中止しても差し支えありません。気分不快等で万が一治療が必要になった場合の医療費は、自己負担となります。アンケート調査への協力の有無は成績とは無関係であり、回答しないことで不利益を生じることはありません。ただし、一旦送信された回答については、匿名であるために後から回収・削除することはできないことをご了解ください。

令和3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）
地域における効果的な薬剤師確保の取組に関する調査研究
研究代表者 安原 真人

【問合せ先】〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1 帝京大学薬学部 安原真人
TEL:03-3964-8173、FAX:03-3964-8178、e-mail: yasuhara@pharm.teikyo-u.ac.jp

<別添3>

薬学生の就職希望/決定先とその決定 要因に関するWebアンケート調査

このアンケートは、令和3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金による「地域における効果的な薬剤師確保の取組に関する調査研究」（研究代表者 安原真人）の一環として、全国の薬学生（5年生、6年生）を対象に実施しています。薬剤師の地域偏在と従事先業態の偏在（病院薬剤師確保）の二つの課題について、学生側からの要因を調査することを目的としています。

アンケートの集計結果は研究班の報告書として公表を予定していますが、アンケートは無記名であり、回答された方が特定されることはありません。アンケートに回答するか否かは、学生の皆様の自由意思により決めてください。不快に感じる質問などありましたら、回答を途中で中止しても差し支えありません。気分不快等で万が一治療が必要になった場合の医療費は、自己負担となります。アンケート調査への協力の有無は成績とは無関係であり、回答しないことで不利益を生じることはありません。ただし、一旦送信された回答については、匿名であるために後から回収・削除することはできないことをご了解ください。

アンケートの質問数は、回答内容により異なりますが約27～40件で、所要時間は5～10分を見込んでいます。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

* 必須

1. アンケートの趣旨説明を理解し、自らの自由意思によりアンケートに回答することに同意されますか。 *

同意する

同意しない

2. 学年をお答えください。 *

5年生

6年生

3. 性別をお答えください（任意回答）。

- 男性
- 女性

4. 在籍している大学の所在する地域をお答えください。*

- 北海道・東北
- 関東（東京都内を除く）
- 東京都
- 東海・北陸
- 関西
- 中国・四国
- 九州

5. 在籍する大学名をお答えください（北海道・東北）。*

- 青森大学
- 医療創生大学
- 岩手医科大学
- 奥羽大学
- 東北大学
- 東北医科薬科大学
- 北海道大学
- 北海道医療大学
- 北海道科学大学

6. 在籍する大学名をお答えください（関東、東京都内を除く）。*

- 国際医療福祉大学
- 城西大学
- 城西国際大学
- 千葉大学
- 千葉科学大学
- 高崎健康福祉大学
- 東京理科大学
- 東邦大学
- 日本大学
- 日本薬科大学
- 横浜薬科大学

7. 在籍する大学名をお答えください（東京都内）。*

- 北里大学
- 慶應義塾大学
- 昭和大学
- 昭和薬科大学
- 帝京大学
- 帝京平成大学
- 東京大学
- 東京薬科大学
- 星薬科大学
- 武蔵野大学
- 明治薬科大学

8. 在籍する大学名をお答えください（東海・北陸）。*

- 愛知学院大学
- 金沢大学
- 岐阜薬科大学
- 金城学院大学
- 静岡県立大学
- 鈴鹿医療科学大学
- 富山大学
- 名古屋市立大学
- 新潟薬科大学
- 北陸大学
- 名城大学

9. 在籍する大学名をお答えください（関西）。*

- 大阪大学
- 大阪医科薬科大学
- 大阪大谷大学
- 京都大学
- 京都薬科大学
- 近畿大学
- 神戸学院大学
- 神戸薬科大学
- 摂南大学
- 同志社女子大学
- 姫路獨協大学
- 兵庫医療大学
- 武庫川女子大学
- 立命館大学

10. 在籍する大学名をお答えください（中国・四国）。*

- 岡山大学
- 就実大学
- 徳島大学
- 徳島文理大学
- 徳島文理大学香川菜学部
- 広島大学
- 広島国際大学
- 福山大学
- 松山大学
- 安田女子大学

11. 在籍する大学名をお答えください（九州）。*

- 九州大学
- 九州保健福祉大学
- 熊本大学
- 崇城大学
- 第一薬科大学
- 長崎大学
- 長崎国際大学
- 福岡大学

12. ご出身（高校卒業時に居住していた）都道府県名を入力してください。*

13. ご出身（高校卒業時に居住していた）市区町村名を入力してください。 *

14. 返済が必要な奨学金又はそれに類似する借入を受けていますか。 *

- はい
- いいえ

15. 奨学金等の借入先を教えてください。 *

- 日本学生支援機構
- 奨学金制度のある公的機関（例：都道府県市町村等）
- 病院
- 薬局（保険薬局）
- ドラッグストア（薬局の併設含む）

その他

16. 奨学金等の借入に際し、利用した制度をお答えください。（あてはまるもの全てに○） *

- 貸与（無利子）
- 貸与（有利子）
- 給付型

その他

17. 返済予定金額（返済支援を受ける場合、その支援額を含む金額）について、総額（予定額）を記入してください（円）。

18. 返済予定金額（返済支援を受ける場合、その支援額を含む金額）について、年返済予定額（おおよその平均額）を記入してください（円）。

19. 返済（予定）期間を記入してください（年）。

20. 奨学金等の返済への支援を受ける予定がある場合は、支援先を教えてください。*

返済支援制度のある公的機関（例：都道府県市町村等）

病院

保険薬局

ドラッグストア（薬局の併設含む）

支援なし

その他

21. 現在、就職活動を行っていますか。*

すでに就職活動を終了した（内定先に就職、進路決定済み）

就職活動中（内定の有無は問わない）

まだ就職活動をしていない

22.内定先をお答えください。 *

- 病院（200床未満、レジデント・研修生を含む）
- 病院（200床以上、レジデント・研修生を含む）
- 保険薬局（同一経営主体による薬局数1店舗）
- 保険薬局（2店舗以上10店舗未満）
- 保険薬局（10店舗以上100店舗未満）
- 保険薬局（100店舗以上）
- ドラッグストア（薬局の併設含む）
- 卸売業界
- 製薬企業
- 行政機関
- 大学院進学
- その他

23.内定した薬局/ドラッグストアの認定等の状況を分かる範囲でお答えください。

- 地域連携薬局
- 専門医療機関連携薬局
- 健康サポート薬局
- いずれにも該当しない
- 不明

24.内定した薬局/ドラッグストアは、あなたの実務実習先でしたか。 *

- 実習先である
- 実習先ではない

25. 内定した病院の医療機能別分類をわかる範囲でお答えください。

- 高度急性期病院
- 急性期病院
- 回復期病院
- 慢性期病院
- その他
- 不明

26. 内定した病院は、あなたの実務実習先でしたか。 *

- 実習先である
- 実習先ではない

27. 内定先の勤務地は、次のどの条件にあてはまりますか。 *

- 都市部（東京都区部、人口50万人以上の政令指定都市）
- 地方部
- 出身地（実家や親類の居住地に近い等）
- 出身大学の所在する地域
- その他

28. 内定時期を教えてください。 *

- 5年生前期
- 5年生後期
- 6年生前期
- 6年生後期
- その他

29. 現在までに、内定は得られていますか。 *

- はい
- いいえ

30. 現在までの内定先をお答えください。 *

- 病院（200床未満、レジデント・研修生を含む）
- 病院（200床以上、レジデント・研修生を含む）
- 保険薬局（同一経営主体による薬局数1店舗）
- 保険薬局（2店舗以上10店舗未満）
- 保険薬局（10店舗以上100店舗未満）
- 保険薬局（100店舗以上）
- ドラッグストア（薬局の併設含む）
- 卸売業界
- 製薬企業
- 行政機関
- 大学院進学

-
- その他

31. 内定した薬局/ドラッグストアの認定等の状況を分かる範囲でお答えください。

- 地域連携薬局
- 専門医療機関連携薬局
- 健康サポート薬局
- いずれにも該当しない
- 不明

32. 内定した薬局/ドラッグストアは、あなたの実務実習先でしたか。

- 実習先である
- 実習先ではない

33. 内定した病院の医療機能別分類を分かる範囲でお答えください。

- 高度急性期病院
- 急性期病院
- 回復期病院
- 慢性期病院
- その他
- 不明

34. 内定した病院は、あなたの実務実習先でしたか。

- 実習先である
- 実習先ではない

35. 内定時期を教えてください。 *

- 5年生前期
- 5年生後期
- 6年生前期
- 6年生後期
- その他

36. 内定先の勤務地は次のどの条件にあてはまりますか。*

都市部（東京都区部と人口50万人以上の政令指定都市）

地方部

出身地（実家や親類の居住地に近い等）

出身大学の所在する地域

その他

37. 現在就職を検討している、あるいは今後検討する就職先の**第1希望**をお答えください。*

病院（200床未満、レジデント・研修生を含む）

病院（200床以上、レジデント・研修生を含む）

保険薬局（同一経営主体による薬局数1店舗）

保険薬局（2店舗以上10店舗未満）

保険薬局（10店舗以上100店舗未満）

保険薬局（100店舗以上）

ドラッグストア（薬局の併設含む）

卸売業界

製薬企業

行政機関

大学院進学

その他

38. 現在就職を検討している、あるいは今後検討する就職先の**第2希望**をお答えください。*

- 病院（200床未満、レジデント・研修生を含む）
- 病院（200床以上、レジデント・研修生を含む）
- 保険薬局（同一経営主体による薬局数1店舗）
- 保険薬局（2店舗以上10店舗未満）
- 保険薬局（10店舗以上100店舗未満）
- 保険薬局（100店舗以上）
- ドラッグストア（薬局の併設含む）
- 卸売業界
- 製薬企業
- 行政機関
- 大学院進学

その他

39. 現在就職を検討している、あるいは今後検討する就職先の**第3希望**をお答えください。*

- 病院（200床未満、レジデント・研修生を含む）
- 病院（200床以上、レジデント・研修生を含む）
- 保険薬局（同一経営主体による薬局数1店舗）
- 保険薬局（2店舗以上10店舗未満）
- 保険薬局（10店舗以上100店舗未満）
- 保険薬局（100店舗以上）
- ドラッグストア（薬局の併設含む）
- 卸売業界
- 製薬企業
- 行政機関
- 大学院進学
- その他

40. 内定先に就職、進路決定済みの方にお尋ねします。

実習（薬局実習・病院実習）の前後で、就職先の希望が変わりましたか。*

- はい
- いいえ

41. 「はい」と回答された方にお尋ねします。実習（薬局実習・病院実習）前に、希望していた就職先はどちらですか。*

- 病院（200床未満、レジデント・研修生を含む）
- 病院（200床以上、レジデント・研修生を含む）
- 保険薬局（同一経営主体による薬局数1店舗）
- 保険薬局（2店舗以上10店舗未満）
- 保険薬局（10店舗以上100店舗未満）
- 保険薬局（100店舗以上）
- ドラッグストア（薬局の併設含む）
- 卸売業界
- 製薬企業
- 行政機関
- 大学院進学
- その他

42. 就職活動中、もしくははまだ活動していない方にお尋ねします。
実習（薬局実習・病院実習）の前後で、就職先の希望が変わりましたか。*

- はい
- いいえ

43. 「はい」と回答された方にお尋ねします。実習（薬局実習・病院実習）前に、希望していた就職先はどちらですか。*

- 病院（200床未満、レジデント・研修生を含む）
- 病院（200床以上、レジデント・研修生を含む）
- 保険薬局（同一経営主体による薬局数1店舗）
- 保険薬局（2店舗以上10店舗未満）
- 保険薬局（10店舗以上100店舗未満）
- 保険薬局（100店舗以上）
- ドラッグストア（薬局の併設含む）
- 卸売業界
- 製薬企業
- 行政機関
- 大学院進学
-
- その他

44. 就職活動を終了した（内定先に就職、進路決定済み）と回答された方にお尋ねします。

勤務先の決定、決め手となった**第1位**の要因は何ですか。*

- 給与水準
- 昇給制度や給与カーブ
- 福利厚生
- 勤務予定地
- 奨学金・返済サポート制度
- 業務内容・やりがい
- キャリアパス
- 研修制度等スキルアップのための制度
- 研究・学習環境（臨床研究ができる、特定の業務経験ができる等）
- 勤務時間の長さ
- 勤務時間の柔軟さ
- 夜勤の有無や条件
- 育休等の休業・休職制度
- 離職率
- 採用活動の内容や担当者とのコミュニケーション
- 採用活動を実施している期間・時期
- 実務実習の実施・受入やその内容
- 応募時に併願ができたこと
- その他

45. 「その他」の具体的な内容をお答えください。

46. 就職活動を終了した（内定先に就職、進路決定済み）と回答された方にお尋ねします。

勤務先の決定、決め手となった**第2位**の要因は何ですか。*

- 給与水準
- 昇給制度や給与カーブ
- 福利厚生
- 勤務予定地
- 奨学金・返済サポート制度
- 業務内容・やりがい
- キャリアパス
- 研修制度等スキルアップのための制度
- 研究・学習環境（臨床研究ができる、特定の業務経験ができる等）
- 勤務時間の長さ
- 勤務時間の柔軟さ
- 夜勤の有無や条件
- 育休等の休業・休職制度
- 離職率
- 採用活動の内容や担当者とのコミュニケーション
- 採用活動を実施している期間・時期
- 実務実習の実施・受入やその内容
- 応募時に併願ができたこと
- その他

47. 「その他」の具体的な内容をお答えください。

48. 就職活動を終了した（内定先に就職、進路決定済み）と回答された方にお尋ねします。

勤務先の決定、決め手となった**第3位**の要因は何ですか。*

- 給与水準
- 昇給制度や給与カーブ
- 福利厚生
- 勤務予定地
- 奨学金・返済サポート制度
- 業務内容・やりがい
- キャリアパス
- 研修制度等スキルアップのための制度
- 研究・学習環境（臨床研究ができる、特定の業務経験ができる等）
- 勤務時間の長さ
- 勤務時間の柔軟さ
- 夜勤の有無や条件
- 育休等の休業・休職制度
- 離職率
- 採用活動の内容や担当者とのコミュニケーション
- 採用活動を実施している期間・時期
- 実務実習の実施・受入やその内容
- 応募時に併願ができたこと
- その他

49. 「その他」の具体的な内容をお答えください。

50. 就職活動中、あるいはまだ就職活動をしていないと回答された方にお尋ねします。
現在の第1希望の就職先を選ぶ理由の第1位は何ですか。*

- 給与水準
- 昇給制度や給与カーブ
- 福利厚生
- 勤務予定地
- 奨学金・返済サポート制度
- 業務内容・やりがい
- キャリアパス
- 研修制度等スキルアップのための制度
- 研究・学習環境（臨床研究ができる、特定の業務経験ができる等）
- 勤務時間の長さ
- 勤務時間の柔軟さ
- 夜勤の有無や条件
- 育休等の休業・休職制度
- 離職率
- 採用活動の内容や担当者とのコミュニケーション
- 採用活動を実施している期間・時期
- 実務実習の実施・受入やその内容
- 応募時に併願ができたこと
- その他

51. 「その他」の具体的な内容をお答えください。

52. 就職活動中、あるいはまだ就職活動をしていないと回答された方にお尋ねします。
現在の第1希望の就職先を選ぶ理由の第2位は何ですか。*

- 給与水準
- 昇給制度や給与カーブ
- 福利厚生
- 勤務予定地
- 奨学金・返済サポート制度
- 業務内容・やりがい
- キャリアパス
- 研修制度等スキルアップのための制度
- 研究・学習環境（臨床研究ができる、特定の業務経験ができる等）
- 勤務時間の長さ
- 勤務時間の柔軟さ
- 夜勤の有無や条件
- 育休等の休業・休職制度
- 離職率
- 採用活動の内容や担当者とのコミュニケーション
- 採用活動を実施している期間・時期
- 実務実習の実施・受入やその内容
- 応募時に併願ができたこと
- その他

53. 「その他」の具体的な内容をお答えください。

54. 就職活動中、あるいはまだ就職活動をしていないと回答された方にお尋ねします。
現在の第1希望の就職先を選ぶ理由の第3位は何ですか。*

- 給与水準
- 昇給制度や給与カーブ
- 福利厚生
- 勤務予定地
- 奨学金・返済サポート制度
- 業務内容・やりがい
- キャリアパス
- 研修制度等スキルアップのための制度
- 研究・学習環境（臨床研究ができる、特定の業務経験ができる等）
- 勤務時間の長さ
- 勤務時間の柔軟さ
- 夜勤の有無や条件
- 育休等の休業・休職制度
- 離職率
- 採用活動の内容や担当者とのコミュニケーション
- 採用活動を実施している期間・時期
- 実務実習の実施・受入やその内容
- 応募時に併願ができたこと
- その他

55. 「その他」の具体的な内容をお答えください。

56. 現在までに内定が得られている方にお尋ねします。

就職活動にあたり、参加したプログラム等はどれですか（複数選択可）。 *

- 外部で開催される合同説明会
- 大学内で開催される合同説明会
- 就職先が開催する個別説明会
- インターンシップ
- OB・OG訪問
- 大学の就職相談
- 大学で公開された求人情報
- 大学で開催されたキャリアに関する講演・講座
- その他
- どれも参加していない

57. 内定先を初めて知るきっかけとなったプログラム等はどれですか。 *

- 外部で開催される合同説明会
- 大学内で開催される合同説明会
- 就職先が開催する個別説明会
- インターンシップ
- OB・OG訪問
- 大学の就職相談
- 大学で公開された求人情報
- 大学で開催されたキャリアに関する講演・講座
- 実務実習
-
- その他

58. 内定先の給与水準（就職初年度）をお答えください。

- 300万円未満
- 300～400万円
- 400～500万円
- 500～600万円
- 600～700万円
- 700～800万円
- 800～900万円
- 900～1000万円
- 1000万円以上

59. 薬剤師の勤務先に地域偏在（都市部に偏って存在すること）があることはご存知ですか。 *

- よく知っている
- まあ知っている
- あまり知らない
- 全く知らない

60. 薬剤師が不足する地域の薬局や病院に、卒業後直ちに就職する意向はありますか。 *

- ある
- ない

61.前問で「ない」と答えた方で、内定先が都市部と答えた方にお尋ねします。
都市部での一定の業務経験の後、将来的に地方部の薬局や病院で勤務する意向はありますか。

- ある
- ない

62.前問で「ない」と答えた方にお尋ねします。
地方部での就職を希望しない理由（懸念点）の**第1位**は何ですか。*

- 給与水準
- 昇給制度や給与カーブ
- 福利厚生
- 奨学金・返済サポート
- 業務内容・やりがい
- キャリアパス
- 研修制度等スキルアップのための制度
- 研究・学習環境（臨床研究ができる、特定の業務経験ができる等）
- 勤務時間の長さ
- 勤務時間の柔軟さ
- 夜勤の有無や条件
- 育休等の休業・退職制度
- その他（地元が都市部、都市部に居住したい等）

63.「その他」の具体的な内容をお答えください。

64. 地方部での就職を希望しない理由（懸念点）の第2位は何ですか。*

- 給与水準
- 昇給制度や給与カーブ
- 福利厚生
- 奨学金・返済サポート
- 業務内容・やりがい
- キャリアパス
- 研修制度等スキルアップのための制度
- 研究・学習環境（臨床研究ができる、特定の業務経験ができる等）
- 勤務時間の長さ
- 勤務時間の柔軟さ
- 夜勤の有無や条件
- 育休等の休業・退職制度
- その他（地元が都市部、都市部に居住したい等）

65. 「その他」の具体的な内容をお答えください。

66. 地方部での就職を希望しない理由（懸念点）の第3位は何ですか。 *

- 給与水準
- 昇給制度や給与カーブ
- 福利厚生
- 奨学金・返済サポート
- 業務内容・やりがい
- キャリアパス
- 研修制度等スキルアップのための制度
- 研究・学習環境（臨床研究ができる、特定の業務経験ができる等）
- 勤務時間の長さ
- 勤務時間の柔軟さ
- 夜勤の有無や条件
- 育休等の休業・休職制度
- その他（地元が都市部、都市部に居住したい等）

67. 「その他」の具体的な内容をお答えください。

68. 薬剤師が不足している病院があることはご存知ですか。 *

- よく知っている
- まあ知っている
- あまり知らない
- 全く知らない

69. 卒業後直ちに病院に就職することを希望していない人にお尋ねします。
病院への就職を希望しない**第1位**の理由は何ですか。

- 回答者に非該当（病院就職希望）
- 給与水準
- 昇給制度や給与カーブ
- 福利厚生
- 勤務予定地
- 奨学金・返済サポート制度
- 業務内容・やりがい
- キャリアパス
- 研修制度等スキルアップの制度
- 研究・学習環境（臨床研究ができる、特定の業務経験ができる等）
- 勤務時間の長さ
- 勤務時間の柔軟さ
- 夜勤の有無や条件
- 育休等の休業・休職制度
- 離職率
- 採用活動の内容や担当者とのコミュニケーション
- 採用活動を実施している期間・時期
- 実務実習の実施・受入やその内容
- 応募時に併願ができないこと
- その他

70. 「その他」の具体的な内容をお答えください。 *

71. 卒業後直ちに病院に就職することを希望していない人にお尋ねします。
病院への就職を希望しない**第2位**の理由は何ですか。

- 給与水準
- 昇給制度や給与カーブ
- 福利厚生
- 勤務予定地
- 奨学金・返済サポート制度
- 業務内容・やりがい
- キャリアパス
- 研修制度等スキルアップの制度
- 研究・学習環境（臨床研究ができる、特定の業務経験ができる等）
- 勤務時間の長さ
- 勤務時間の柔軟さ
- 夜勤の有無や条件
- 育休等の休業・休職制度
- 離職率
- 採用活動の内容や担当者とのコミュニケーション
- 採用活動を実施している期間・時期
- 実務実習の実施・受入やその内容
- 応募時に併願ができないこと
- その他

72. 「その他」の具体的な内容をお答えください。 *

73. 卒業後直ちに病院に就職することを希望していない人にお尋ねします。
病院への就職を希望しない**第3位**の理由は何ですか。

- 給与水準
- 昇給制度や給与カーブ
- 福利厚生
- 勤務予定地
- 奨学金・返済サポート制度
- 業務内容・やりがい
- キャリアパス
- 研修制度等スキルアップの制度
- 研究・学習環境（臨床研究ができる、特定の業務経験ができる等）
- 勤務時間の長さ
- 勤務時間の柔軟さ
- 夜勤の有無や条件
- 育休等の休業・休職制度
- 離職率
- 採用活動の内容や担当者とのコミュニケーション
- 採用活動を実施している期間・時期
- 実務実習の実施・受入やその内容
- 応募時に併願ができないこと
- その他

74. 「その他」の具体的な内容をお答えください。*

75. 現在、高度急性期病院や急性期病院への就職を希望（内定）している方にお尋ねします。

将来、回復期病院や慢性期病院へ行って地域医療に貢献したいと考えますか。*

- 考える
- 考えない
- 回答者に非該当（高度急性期・急性期病院への就職を希望していない）

76. 前問で「考えない」と答えた方にお尋ねします。

回復期病院や慢性期病院への就職を希望しない理由（懸念点）の第1位は何ですか。*

- 給与水準
- 昇給制度や給与カーブ
- 福利厚生
- 奨学金・返済サポート制度
- 業務内容・やりがい
- キャリアパス
- 研修制度等スキルアップのための制度
- 研究・学習環境（臨床研究ができる、特定の業務経験ができる等）
- 勤務時間の長さ
- 勤務時間の柔軟さ
- 夜勤の有無や条件
- 育休等の休業・休職制度
- 離職率
- その他

77. 「その他」の具体的な内容をお答えください。 *

78. 前問で「考えない」と答えた方にお尋ねします。

回復期病院や慢性期病院への就職を希望しない理由（懸念点）の第2位は何ですか。 *

- 給与水準
- 昇給制度や給与カーブ
- 福利厚生
- 奨学金・返済サポート制度
- 業務内容・やりがい
- キャリアパス
- 研修制度等スキルアップのための制度
- 研究・学習環境（臨床研究ができる、特定の業務経験ができる等）
- 勤務時間の長さ
- 勤務時間の柔軟さ
- 夜勤の有無や条件
- 育休等の休業・退職制度
- 離職率
- その他

79. 「その他」の具体的な内容をお答えください。 *

80. 前問で「考えない」と答えた方にお尋ねします。

回復期病院や慢性期病院への就職を希望しない理由（懸念点）の第3位は何ですか。*

- 給与水準
- 昇給制度や給与カーブ
- 福利厚生
- 奨学金・返済サポート制度
- 業務内容・やりがい
- キャリアパス
- 研修制度等スキルアップのための制度
- 研究・学習環境（臨床研究ができる、特定の業務経験ができる等）
- 勤務時間の長さ
- 勤務時間の柔軟さ
- 夜勤の有無や条件
- 育休等の休業・休職制度
- 離職率
- その他

81. 「その他」の具体的な内容をお答えください。*

82. アンケートにご回答ありがとうございました。最後に、薬学生の就職活動や進路決定のあり方についてご意見をお聞かせください。

令和3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金

(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)

公開シンポジウム「地域における効果的な薬剤師確保の取組に関する調査研究」

後援：日本医療薬学会、日本薬学教育学会、日本病院薬剤師会、日本薬剤師会

日時：令和4年2月27日（日）13時～16時

会場：ステーションカンファレンス東京（東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー5F）

Web会場

参加費：無料

プログラム

<座長：豊見 敦（日本薬剤師会）>

13:00 趣旨説明

帝京大学薬学部 安原真人

13:10 薬剤師の地域偏在に対する日本薬剤師会の取組

日本薬剤師会副会長 安部好弘

<座長：栗原 健（大阪医科薬科大学）>

13:30 日本病院薬剤師会の取組

日本病院薬剤師会専務理事 和泉啓司郎

13:50 自治体病院における薬剤師の地域偏在～薬剤管理実態調査結果より～

全国自治体病院協議会薬剤師部会長

神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部長 室井延之

<座長：長谷川 洋一（名城大学）>

14:10 和歌山県立医科大学における薬学部設置と入学試験地域枠の導入

和歌山県立医科大学薬学部長 太田 茂

14:30 薬科大学・薬学部および薬学5年・6年生に対するアンケート調査結果

帝京大学薬学部 安藤崇仁

<座長：崔 吉道（金沢大学病院）>

14:50 特別講演：最近の薬剤師関連の動向について

厚生労働省医薬・生活衛生局総務課 国際医薬審査情報分析官 磯崎正季子

<座長：中村 明弘（昭和大学）>

15:30 総合討論（30分）

令和3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)
地域における効果的な薬剤師確保の取組に関する調査研究

研究代表者：安原 真人 (帝京大学薬学部)
研究協力者：安藤 崇仁 (帝京大学薬学部)
栗原 健 (大阪医科薬科大学薬学部)
崔 吉道 (金沢大学病院薬剤部)
豊見 敦 (日本薬剤師会)
長谷川洋一 (名城大学薬学部)
中村 明弘 (昭和大学薬学部)

令和3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)
公開シンポジウム

地域における効果的な薬剤師 確保の取組に関する調査研究

帝京大学薬学部
安原 真人

2022年2月27日 (日)
ステーションカンファレンス東京/ Web会場

令和3～4年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)

地域における効果的な薬剤師 確保の取組に関する調査研究

研究代表者 安原 真人 (帝京大学)
研究協力者 安藤 崇仁 (帝京大学)
 栞原 健 (大阪医科薬科大学)
 崔 吉道 (金沢大学病院)
 豊見 敦 (日本薬剤師会)
 中村 明弘 (昭和大学)
 長谷川洋一 (名城大学)

〈研究の背景〉

薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会 とりまとめ
(令和3年6月30日)

(薬剤師確保)

全国の薬剤師総数に基づき薬剤師の養成数を考えるとともに、薬剤師の従事先には**業態の偏在**や**地域偏在**があり、偏在を解消するための薬剤師確保の取組が必要である。特に**病院薬剤師の確保は喫緊の課題**である。医療計画における医療従事者の確保の取組、地域医療介護総合確保基金の活用や自治体の予算による就職説明会への参加、就業支援、復職支援、奨学金の補助などの取組のほか、実務実習において学生の出身地で実習を受けるふるさと実習の取組などが実施されているが、取組の実態を調査するとともに、需要の地域差を踏まえ、これらの取組の更なる充実も含め、地域の実情に応じた効果的な取組を検討すべきである。

大学は、大学が設置されている自治体及び周辺の自治体等における薬剤師養成・確保についても、自治体とも連携のうえ取り組んでいく必要がある。なお、薬剤師の卒業した大学や出身地については、令和2年の医師・歯科医師・薬剤師統計から届出事項としており、今後はこのような情報の分析も可能であり、薬剤師確保のために活用すべきである。

令和3～4年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)

地域における効果的な薬剤師 確保の取組に関する調査研究

〈目的〉

薬剤師確保のための行政機関、大学、関係団体の対応の現状を把握するとともに、魅力ある薬剤師のキャリア形成プログラムの検討等をとおして、効果的な薬剤師確保に資する方策を提言する。

〈方法〉

- **大学アンケート**
薬科大学・薬学部74校に実務実習の実施状況、卒業生の進路、求人状況、就職支援策等の調査票送付
⇒ 65校より回答
- **薬学5・6年生Webアンケート**
74校の学長・学部長宛に学生Webアンケートへの協力依頼送付。調査に同意した5・6年生が就活状況、奨学金利用、地域偏在や病院薬剤師不足に対する認識等の質問にWeb回答 ⇒ 2,302人の有効回答
- **公開シンポジウム**

公開シンポジウム「地域における効果的な薬剤師確保の取組に関する調査研究」
後援：日本医療薬学会、日本薬学教育学会、日本病院薬剤師会、日本薬剤師会

〈プログラム〉

1. 趣旨説明（10分）
帝京大学薬学部 安原真人
2. 薬剤師の地域偏在に対する日本薬剤師会の取組（20分）
日本薬剤師会副会長 安部好弘
3. 日本病院薬剤師会の取組（20分）
日本病院薬剤師会専務理事 和泉啓司郎
4. 自治体病院における薬剤師の地域偏在～薬剤管理実態調査結果より～（20分）
全国自治体病院協議会薬剤師部会長
神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部長 室井延之
5. 和歌山県立医科大学における薬学部設置と入学試験地域枠の導入（20分）
和歌山県立医科大学薬学部長 太田 茂
6. 薬科大学・薬学部および薬学5年・6年生に対するアンケート調査結果（20分）
帝京大学薬学部 安藤崇仁
7. 特別講演：最近の薬剤師関連の動向について（40分）
厚生労働省医薬・生活衛生局総務課 国際医薬審査情報分析官 磯崎正季子
8. 総合討論（30分）

令和3年 地方分権改革に関する提案募集 提案事項

厚生労働省 最終的な調整結果

管理番号 52 提案区分 B 地方に対する規制緩和 提案分野 03_医療・福祉

提案事項(事項名)

薬剤師法に基づく調剤制限等の規制緩和

提案団体

津久見市

制度の所管・関係府省

厚生労働省

求める措置の具体的内容

へき地におけるオンライン診療において、一定の要件を満たした場合、診療所の薬を患者に提供できるよう規制を緩和する。

具体的な支障事例

当市の離島部の診療所については、診療所の院長、看護師などが週4日、本土より定期船で通い、島在住の看護師を含めた体制で診療を行っている。
荒天等において、医師が渡島できないときの診療体制を確保するため、令和2年10月より、本土の当市内の病院からオンライン診療が出来るよう、市が情報通信機器の整備を行い、当該診療所で運用を開始した。
しかしながら、医師が本土の当市内の病院からオンライン診療を実施することになるため、当該診療所に医師が不在となり、薬剤師法第19条(調剤)及び第22条(調剤の場所)による制限のため診療所内に在庫している薬剤を患者に提供できない事案が発生している。

令和3年の地方からの提案等に関する対応方針

令和3年12月21日
閣議決定

5 義務付け・枠付けの見直し等

【厚生労働省】

(35) 薬剤師法(昭35法146)

離島等の診療所において、荒天等により医師及び薬剤師が渡航できないことにより不在となる場合において、当該診療所に従事する医師が患者に対して遠隔でオンライン診療を行った場合の調剤については、当該医師又は薬剤師が、映像及び音声の送受信による方法で、当該診療所の看護師又は准看護師が行うPTPシート等で包装されたままの医薬品の取り揃えの状況等を確認することで、当該医薬品の提供を可能とするものの考え方や条件等について検討し、令和3年度中に結論を得る。その結果に基づいて必要な措置を講ずる。

偏在解消に向けた課題

- 医療計画における医療従事者の確保
- 地域医療介護総合確保基金の活用
- 薬剤師の待遇改善（給与、勤務時間、夜勤）
- 業務改革（ICT、ロボット、非薬剤師の活用）
- 就業支援、復職支援
- 求人情報の整備
- 奨学金補助
- 実務実習のあり方
- 入学選抜における地域枠
- 薬剤師のキャリア形成プログラム

提言

持続可能な医療を担う薬剤師の 職能と生涯研鑽



提言の内容

- (1) 地域医療への能動的関与
- (2) 薬学的管理に必要な患者情報の確保
- (3) 卒前教育と卒後教育の調和
- (4) 領域別認定・専門薬剤師制度の改革
- (5) 薬剤師レジデント制度の整備

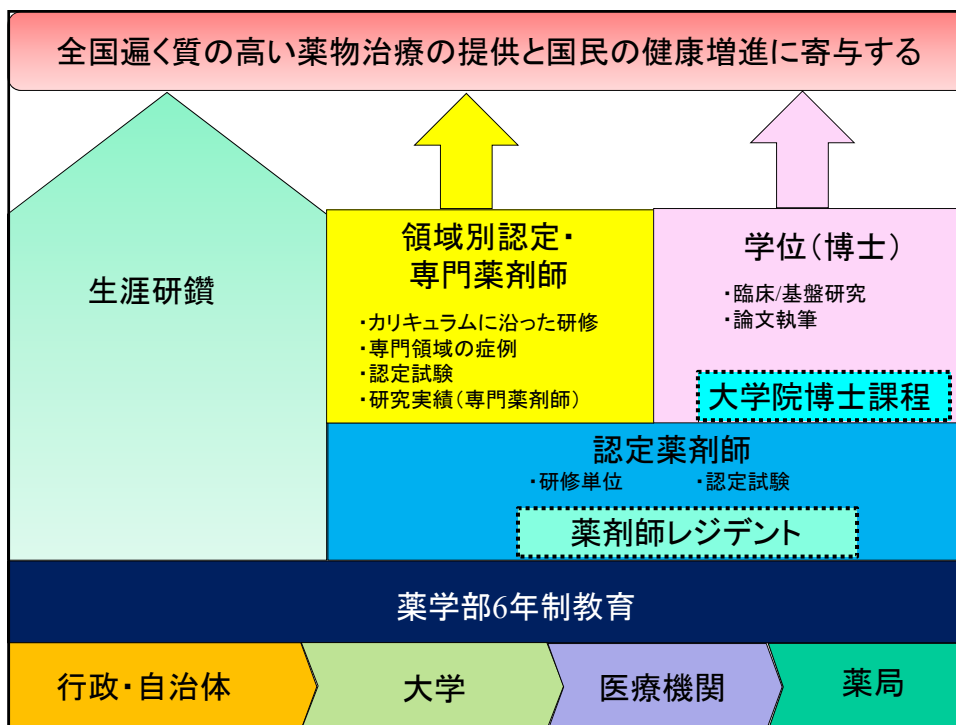
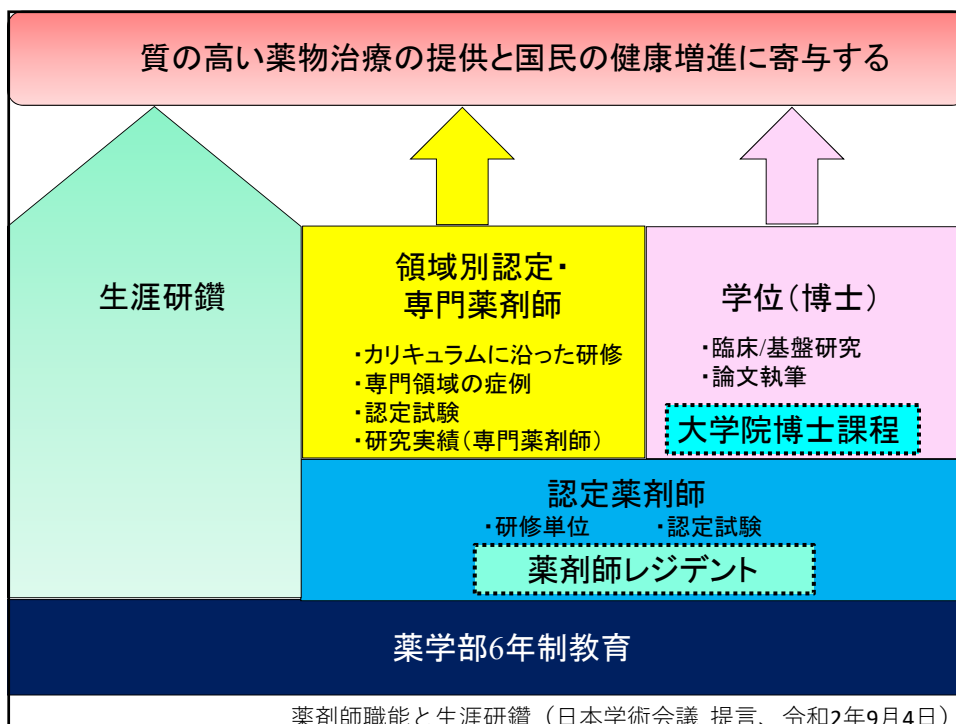
令和2年9月4日

日本学術会議

薬学委員会

薬剤師職能とキャリアパス分科会

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t296-2.pdf>



令和3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)

公開シンポジウム

地域における効果的な 薬剤師確保の取組に関する調査研究

日時 令和4年2月27日(日) 13時～16時

会場 ステーションカンファレンス東京

(東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー5F)

Web会場とのハイブリッド、

事前登録者に当日の録画を3月末までオンデマンド配信

参加費
無料
(事前登録)

プログラム

事前登録 以下のURL、QRコードから事前登録をお願いします。))
URL: <https://medicalprime.jp/event/body-aminari/>




1. 趣旨説明 (10分)
帝京大学薬学部 安藤眞人
2. 薬剤師の地域偏在に対する日本薬剤師会の取組 (20分)
日本薬剤師会副会長 安部好弘
3. 日本病院薬剤師会の取組 (20分)
日本病院薬剤師会専務理事 和泉啓司郎
4. 自治体病院における薬剤師の地域偏在～薬剤管理実態調査結果より～ (20分)
全国自治体病院協議会薬剤師部会長 神戸市立医療センター中央市民病院 室井延之
5. 和歌山県立医科大学における薬学部設置と入学試験地域枠の導入 (20分)
和歌山県立医科大学薬学部部長 大田 茂
6. 薬科大学・薬学部および薬学5年・6年生に対するアンケート調査結果 (20分)
帝京大学薬学部 安藤新仁
7. 特別講演：最近の薬剤師関連の動向について (40分)
厚生労働省医薬・生活衛生局総務課 国際医薬審査情報分析官 磯崎正幸子
8. 総合討論 (30分)

シンポジウム実行委員会

委員長／安藤眞人
委員／安藤新仁、桑原 健、崔 吉蓮、豊見 敦、中村明弘、長谷川洋一

問合せ先：運営事務局

株式会社サンフネット 担当 佐々木、松井
メール: sunplanet-symposium@outlook.jp
電話: 03-5940-2615 (受付時間 土日 祝日、年末年始を除く 平日 10:00～17:00)




地域における効果的な薬剤師確保の取り組みに関する調査研究・公開シンポジウム


薬剤師の地域偏在に対する 日本薬剤師会の取り組み

本演題につき開示すべきCOIはありません

令和4年2月27日
公益社団法人 日本薬剤師会
副会長 安部好弘

©Japan Pharmaceutical Association All Rights Reserved







本日の論点


薬剤師の養成および資質向上等に関する検討会

- 薬剤師の確保・養成
- 薬局薬剤師の就労
- 病院薬剤師不足・偏在




©Japan Pharmaceutical Association All Rights Reserved






薬剤師の確保・養成



©Japan Pharmaceutical Association All Rights Reserved

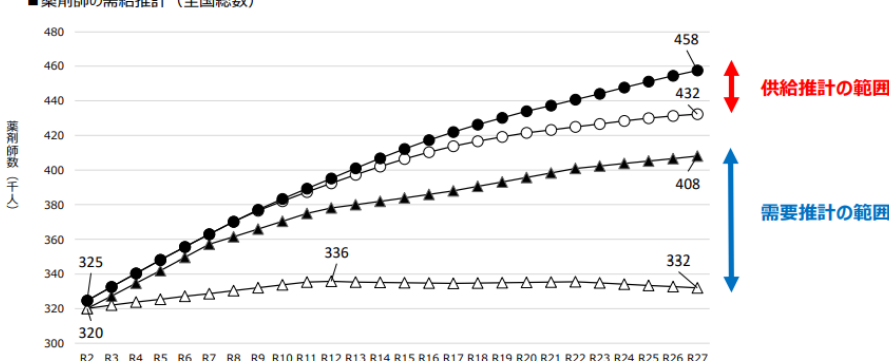


薬剤師の需給推計について

○ 需要は、院外処方箋の発行の伸びや高齢化の進展により、おおむね今後10年間は増加するが、それ以降は人口減少の影響を受ける。供給は、薬剤師の養成人数が変わらなければ、毎年一定数増加する。

○ 需給予測としては、今後の業務変化も大きく影響を与える要因となり、業務の充実と効率化の両方の要因があり得る。変動要因を考慮すると、当面は需要と供給は同程度で推移することになるが、**将来的には業務の充実により需要が増えたと仮定したとしても、供給数が上回ることが予想される。**

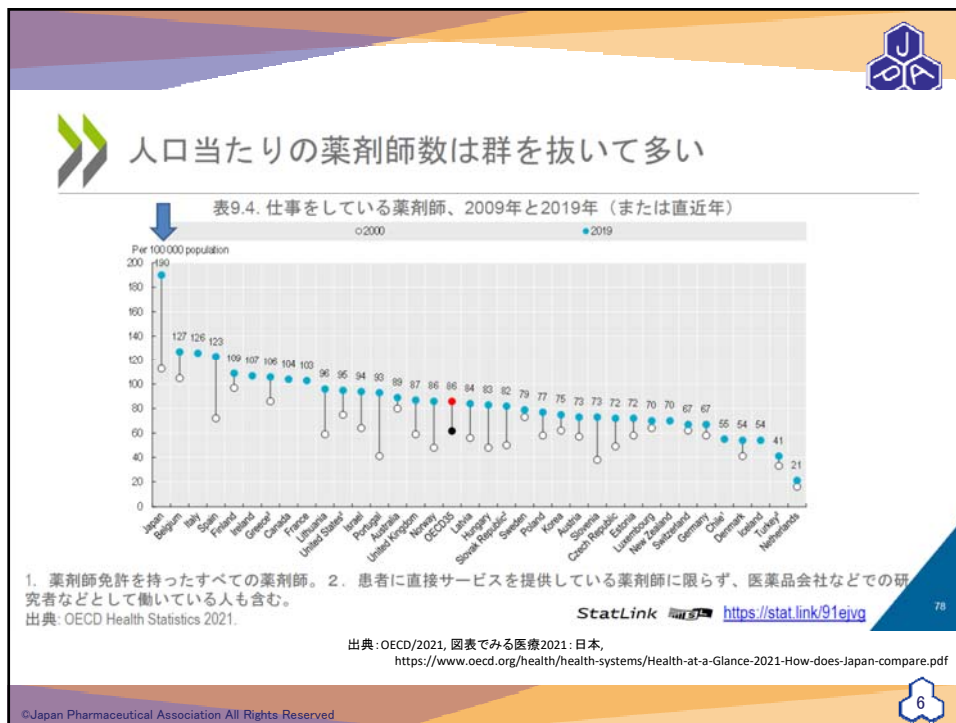
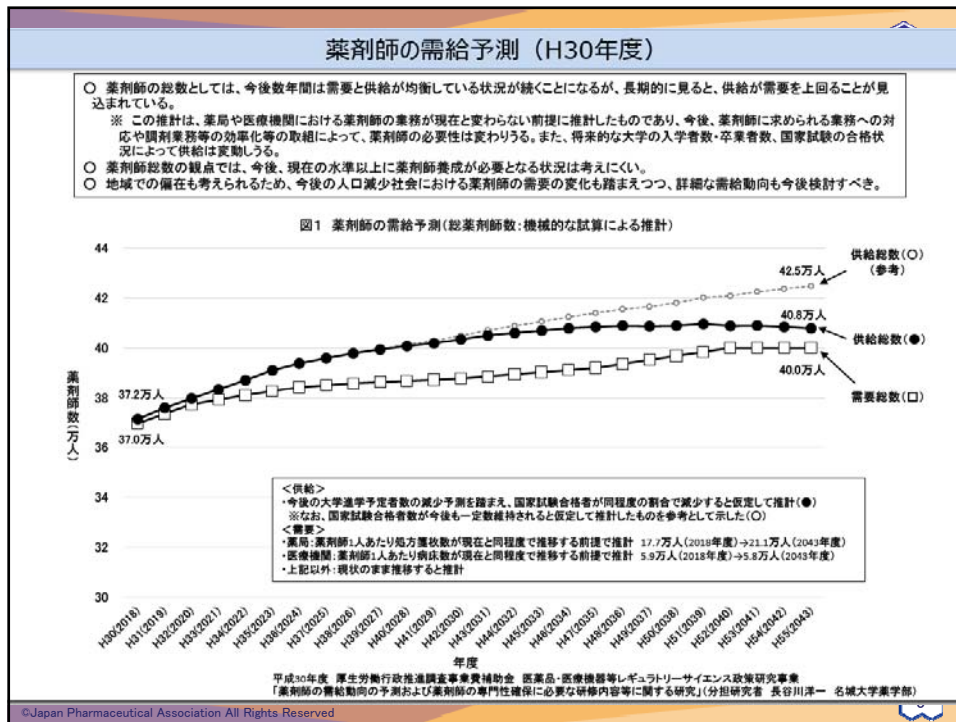
■ 薬剤師の需給推計（全国総数）

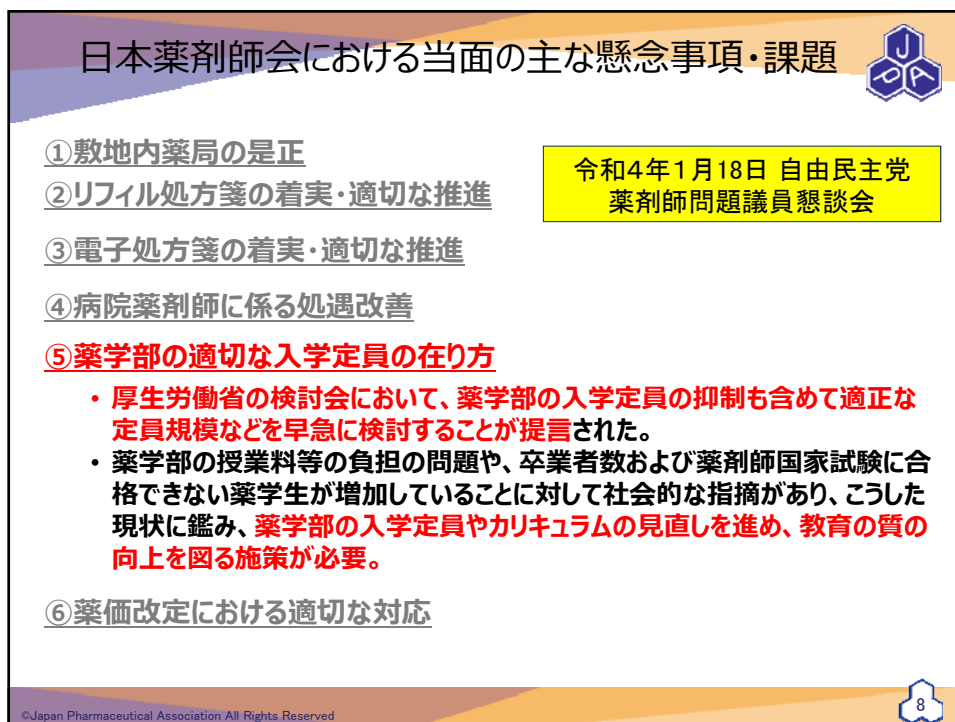
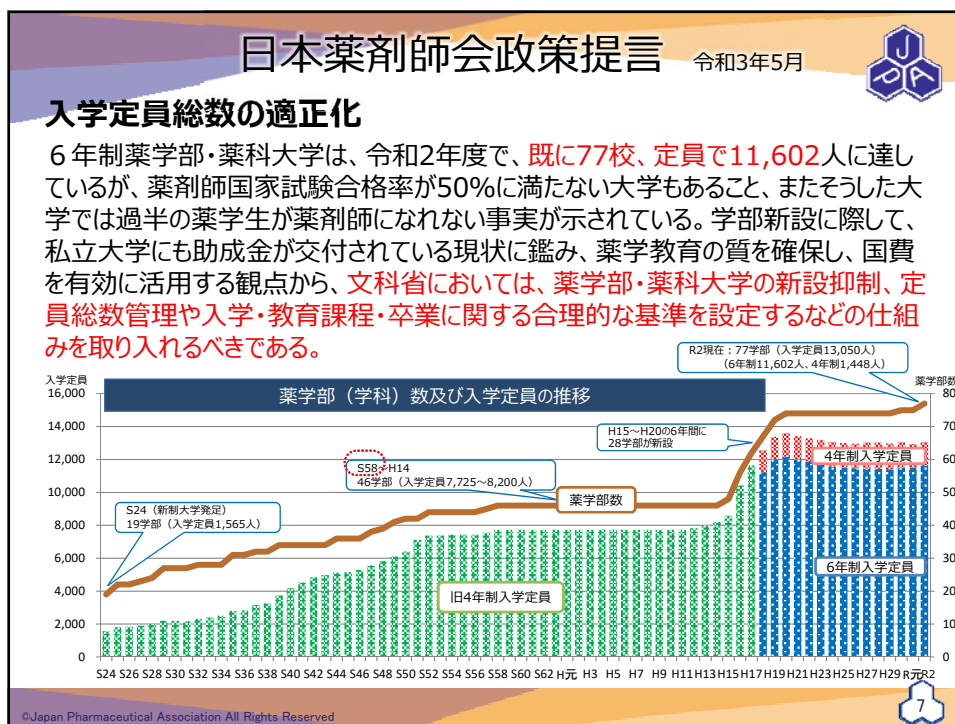


年次	供給推計 (千名)	需要推計 (千名)	供給推計 (千名)
R2	325	320	320
R12	336	336	336
R27	458	432	332

©Japan Pharmaceutical Association All Rights Reserved

第8回薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会資料より作成





薬学部定員に関する提言を政策決定 プロセスにステップアップすることが必須

- 薬剤師の需給推計・結果検証
- 厚労省・文部科学省の検討会

➔

- 薬剤師の地域・職域偏在対策
- 需給等に応じた薬学部定員

医学部定員削減等の政策決定

- ◆ 昭和57年9月 「今後における行政改革の具体化方策について」**閣議決定**
- ◆ 平成9年6月 「財政構造改革の推進について」**閣議決定**
- ◆ 平成18年8月 総務・財務・文部科学・厚生労働の**各大臣による確認書**
➔「新医師確保総合対策」**不足県・暫定増員**
- ◆ 令和元年 経済財政運営と改革の基本方針
閣議決定(医師偏在対策・医学部定員減)

確 認 書

下記事項を確認する。

記

資料関係については、以下のとおり、裏成数の削減等に一層取り組む。

(1) 薬学部定員については、各大学に対して更に一層の定員減を要請する。

(2) 産科医師国家試験の合格基準を引き上げる。

平成18年8月31日

文部科学大臣 **小坂 憲次**

厚生労働大臣 **川崎 二郎**

**歯学部定員
平成18年大臣確認書**

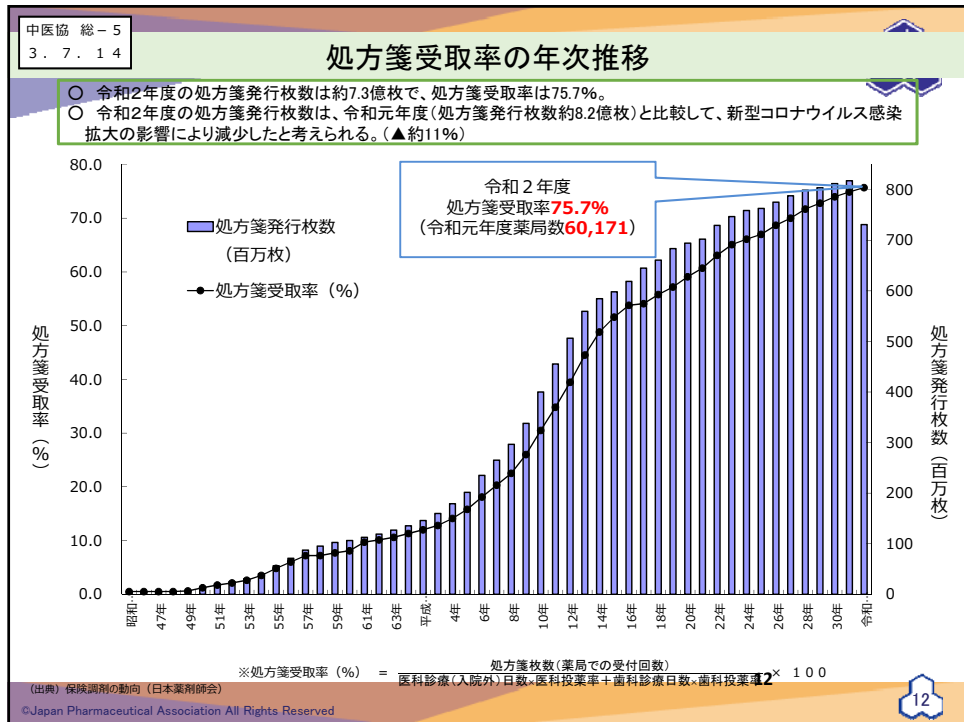
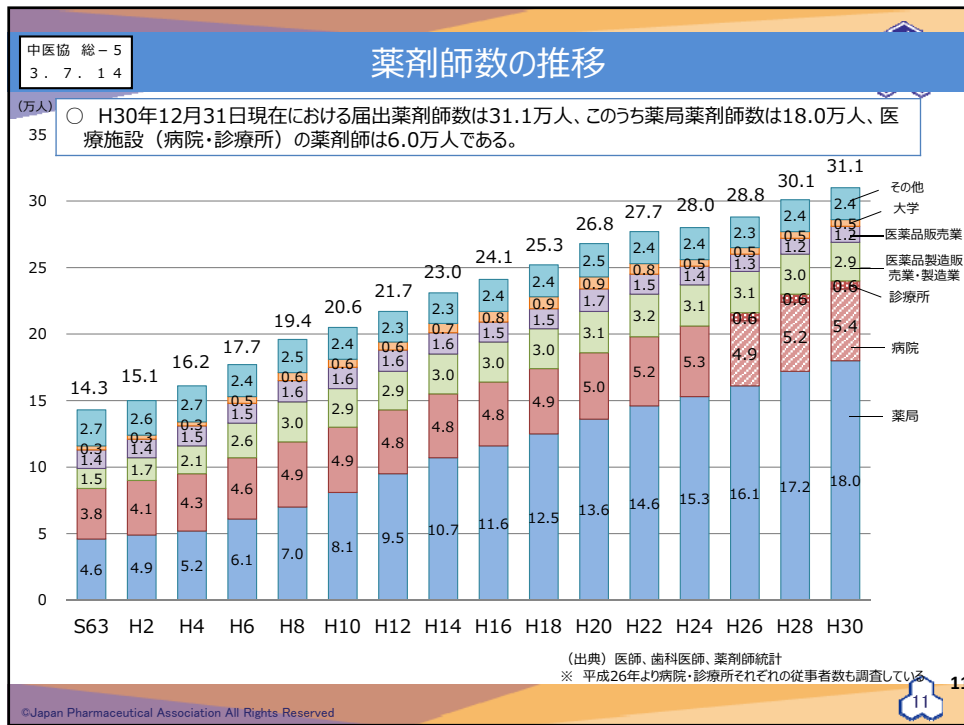
©Japan Pharmaceutical Association All Rights Reserved

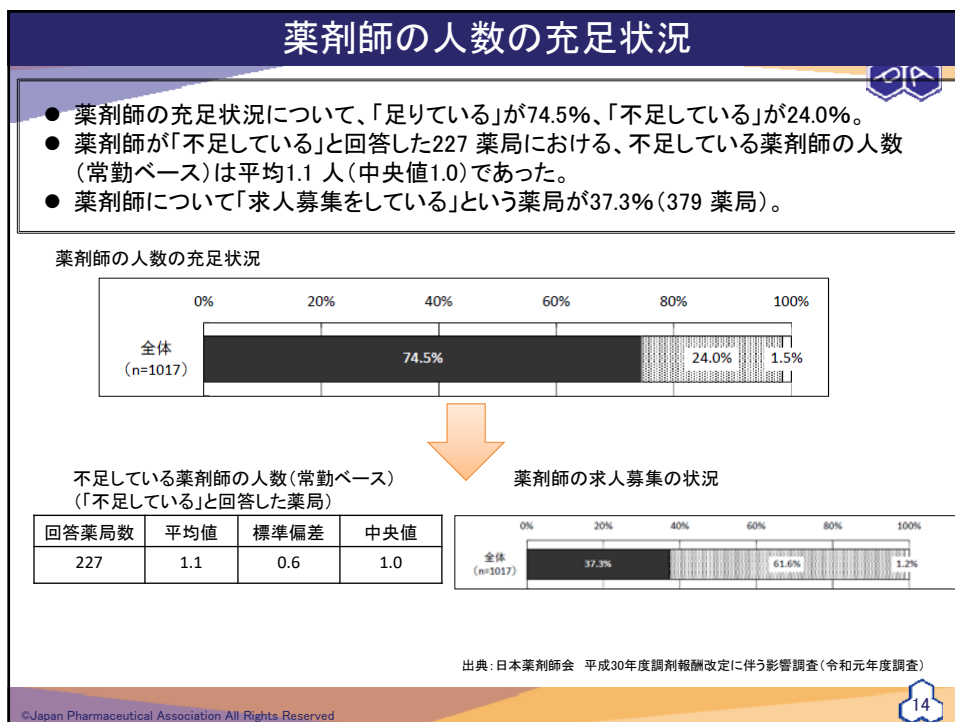
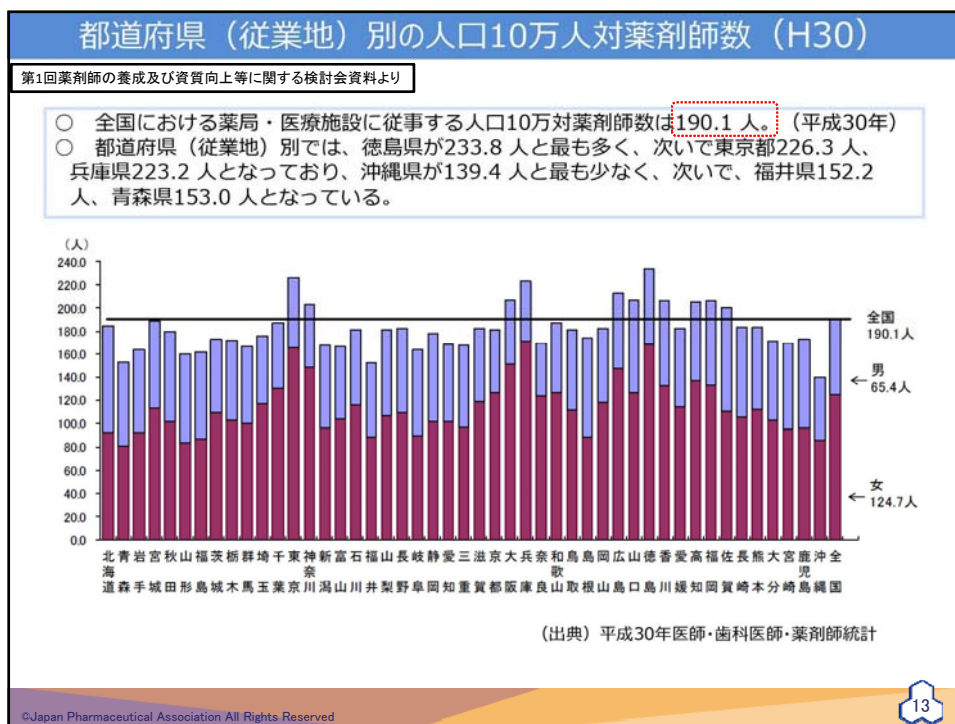
9

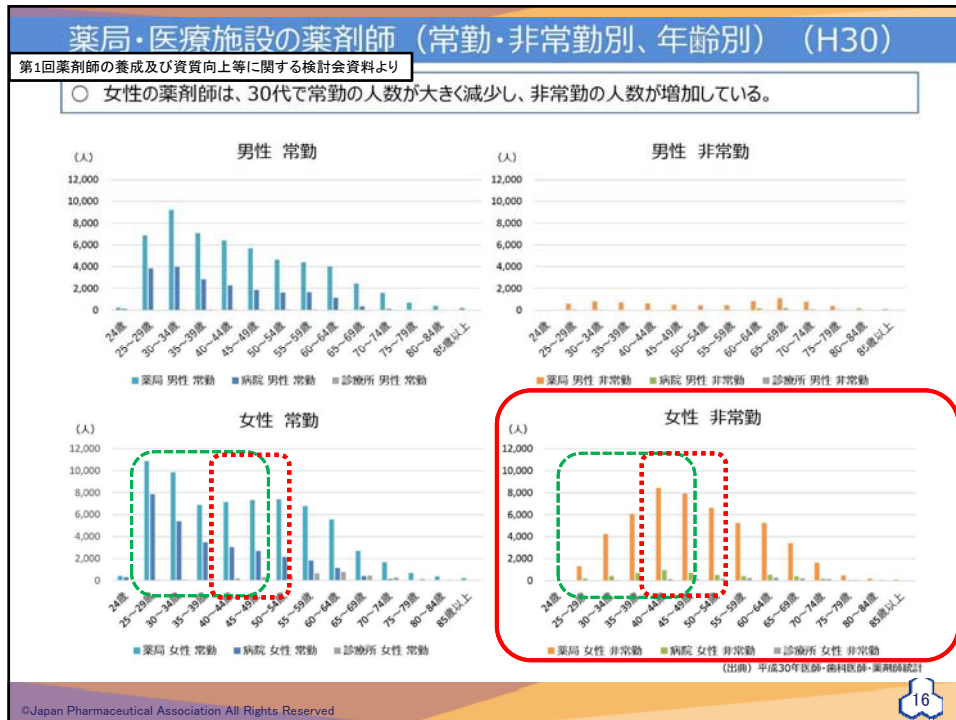
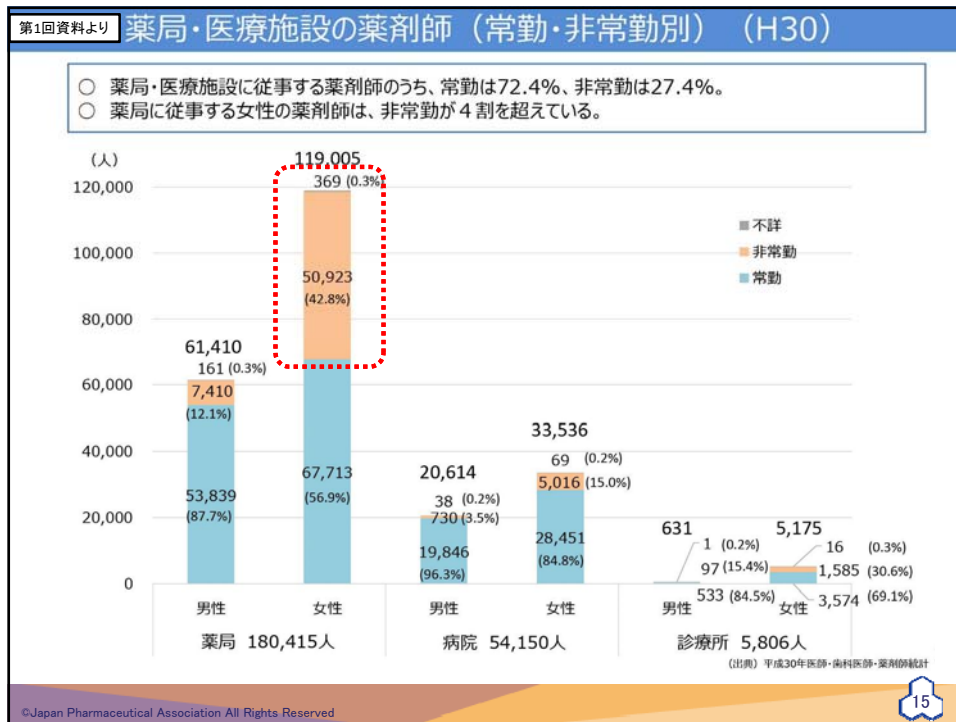
薬局薬剤師の就労

©Japan Pharmaceutical Association All Rights Reserved

10







休業・休職中または育児や介護に伴う時短勤務の薬剤師の有無と人数

- 産前・産後休業、育児休業、介護休業、短時間勤務(時短)は13.3%。
- 30代女性の常勤・非常勤の比率の変化と関連が大きいと考えられる。
- 休職・時間短縮勤務からワークライフバランスに応じて復職しやすい仕組みや体制整備も重要。

休業・休職中または育児や介護に伴う時短勤務の薬剤師の有無

休業・休職中の薬剤師数
(休業・休職中の薬剤師が「いる」と回答した薬局)

	該当者がいた 薬局数(件)	休業・休職中の薬剤師数				
		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
産前産後休業	27	1.1	0.3	1.0	2.0	1.0
育児休業	9	1.1	0.3	1.0	2.0	1.0
介護休業	18	1.1	0.2	1.0	2.0	1.0

(注) 休業・休職中の薬剤師数について記入のあった施設を集計対象とした。

育児・介護に伴う時短勤務者数
(時短勤務者が「いる」と回答した薬局)

	該当者がいた 薬局数(件)	休業・休職中の薬剤師数				
		平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
育児に伴う時短勤務	76	1.2	0.5	1.0	4.0	1.0
介護に伴う時短勤務	2	1.0	-	1.0	1.0	1.0

(注) 休業・休職中の薬剤師数について記入のあった施設を集計対象とした。

出典：日本薬剤師会 平成30年度調剤報酬改定に伴う影響調査(令和元年度調査)


©Japan Pharmaceutical Association All Rights Reserved

2040年にむけて

©Japan Pharmaceutical Association All Rights Reserved

医薬分業の目標

処方箋発行・調剤応需体制の構築という概念を発展




地域医薬品提供計画（仮称）の策定

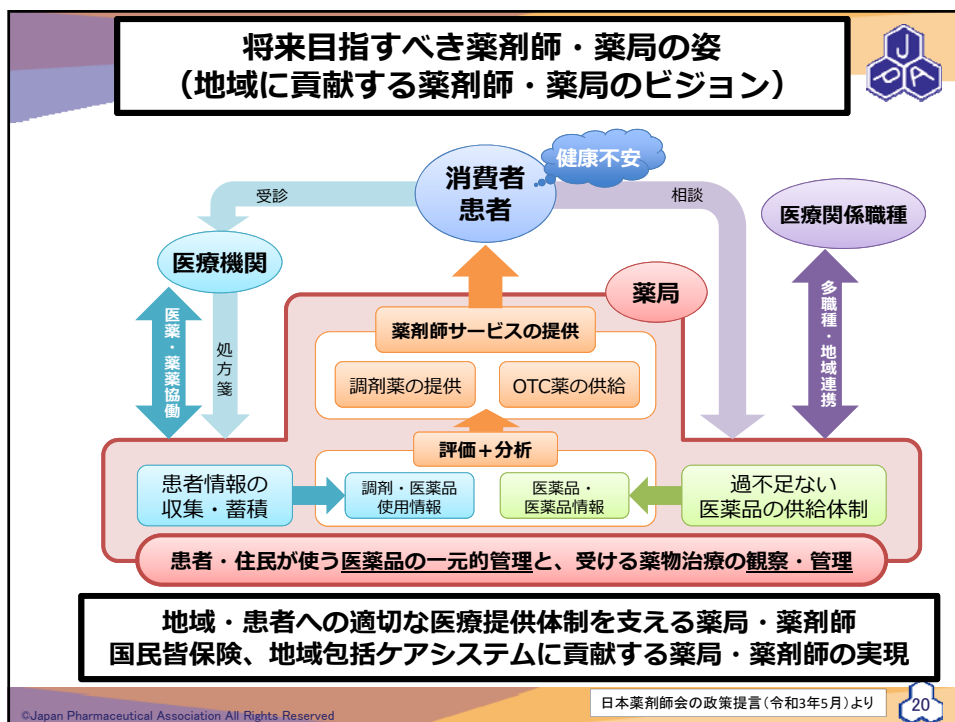
地域包括ケアシステム、地域完結型医療を構築するために、**各都道府県が、地域医療計画に連動した「地域医薬品提供計画」**の策定を行い、薬剤師・薬局が多職種と連携して、その機能を十分発揮することで、**地域住民の医薬品アクセスを確保し、安全・安心な医薬品提供システムを確立する方策を構築するべきである。**

地域医薬品提供計画（仮称）に盛り込むべき内容

- ① 当該地域において求められる薬局等の有する機能（かかりつけ機能、健康サポート機能、高度薬学管理機能など）とその地域における必要量の標準を推計
- ② 休日・夜間時の対応を含め医療提供施設間の連携内容の明確化とその推進方策
- ③ **薬剤師・薬局等が不足している地域においては、薬局の整備や薬剤師の確保、偏在等の解消に向けた財政支援を含む施策と体制の構築**
- ④ 地域の課題、住民ニーズの把握を行い、地域住民への薬局機能等の周知や医薬品を適切に使用するリテラシー向上のための方策など

日本薬剤師会の政策提言（令和3年5月）より 

©Japan Pharmaceutical Association All Rights Reserved



人口段階別市区町村の変動(2015→2040)[H30推計] ②

人口段階	人口増減率(2015年→2040年)					
	増加 ▲0%~▲10%	▲10%~▲20%	▲20%~▲30%	▲30%~▲40%	▲40%~▲50%	▲50%~▲70%
100万人以上	さいたま市、川崎市、横浜市、名古屋市	札幌市、横浜市、名古屋市、京都府、大阪市、名古屋市	仙台市、神戸市			
50万人以上	川崎市、大田区、宮城県、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市	札幌市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市	仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市			
20~50万人	大田区、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市	仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市	仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市			
10~20万人	仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市	仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市	仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市			
3~10万人	仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市	仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市	仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市			

※人口は2015年時点 ※下欄(赤字)は2040年の人口が下位の人口区分へ変動する団体、赤字(緑文字)は2040年の人口が上位の人口区分へ変動する団体
※赤字は各人口段階において団体の数が多い人口増減率のカテゴリー

出典：第32次地方制度調査会第1回総会(平成30年7月5日)資料「2040年の人口の動向について」

©Japan Pharmaceutical Association All Rights Reserved

人口段階別市区町村の変動(2015→2040)[H30推計] ③

人口段階	人口増減率(2015年→2040年)					
	増加 ▲0%~▲10%	▲10%~▲20%	▲20%~▲30%	▲30%~▲40%	▲40%~▲50%	▲50%~▲70%
100万人以上	さいたま市、川崎市、横浜市、名古屋市	札幌市、横浜市、名古屋市、京都府、大阪市、名古屋市	仙台市、神戸市			
50万人以上	川崎市、大田区、宮城県、仙台市、仙台市、仙台市	札幌市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市	仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市			
20~50万人	大田区、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市	仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市	仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市			
10~20万人	仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市	仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市	仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市			
3~10万人	仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市	仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市	仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市、仙台市			

※人口は2015年時点 ※下欄(赤字)は2040年の人口が下位の人口区分へ変動する団体、赤字(緑文字)は2040年の人口が上位の人口区分へ変動する団体
※赤字は各人口段階において団体の数が多い人口増減率のカテゴリー

出典：第32次地方制度調査会第1回総会(平成30年7月5日)資料「2040年の人口の動向について」

©Japan Pharmaceutical Association All Rights Reserved

北海道薬剤師会事業

薬剤師バンク



薬剤師の就業を支援します！

北海道薬剤師会では、北海道中野薬務院（道庁から指定された「北海道薬剤師バンクバンク」）が、北海道内の薬剤師の就業支援を行っています。薬剤師の就業支援は、地域薬剤師バンクバンクを通じて、卒業生や求職者に対して、北海道内の就業先を紹介し、就業支援を行います。就業支援は、卒業生や求職者に対して、北海道内の就業先を紹介し、就業支援を行います。

あなたの働く意欲を応援します！

まずは「北海道薬剤師バンク」へ登録。
多様な求人情報を紹介します！

最新の就職支援研修を受けられます！

地域の実地等への緊急臨時的薬剤師派遣（在籍外向）の調整も行います。



薬剤師の皆さんが生き生きと働ける未来のために

北海道薬剤師会では、北海道中野薬務院（道庁から指定された「北海道薬剤師バンクバンク」）が、北海道内の薬剤師の就業支援を行っています。薬剤師の就業支援は、地域薬剤師バンクバンクを通じて、卒業生や求職者に対して、北海道内の就業先を紹介し、就業支援を行います。就業支援は、卒業生や求職者に対して、北海道内の就業先を紹介し、就業支援を行います。

北海道薬剤師バンクバンクの登録・就業支援の流れ

1. 北海道薬剤師バンクバンクに登録
2. 就業先を探し、面接を受ける
3. 就業先が決まり、就業する

北海道薬剤師バンクバンクの登録・就業支援の流れ


1. 北海道薬剤師バンクバンクに登録
2. 就業先を探し、面接を受ける
3. 就業先が決まり、就業する

©Japan Pharmaceutical Association All Rights Reserved 23

東京都薬剤師会事業

地域薬局への薬学生就職対応事業

是非ご相談下さい！




都内の大学薬学部・薬科大学の就職担当部署に対し、東京都薬剤師会会員の地域薬局の求人情報を提供しています。

登録している薬局は東京都薬剤師会認定の基準薬局（又は認定予定）であり、
かかりつけ薬剤師・薬局の3つの機能に取り組んでいます。


- 1) 服薬情報の一元的な把握とそれに基づく薬学的管理・指導
- 2) 24時間対応、在宅対応
- 3) 医療機関を始めとする関係機関との連携

©Japan Pharmaceutical Association All Rights Reserved 24




病院薬剤師不足・偏在

©Japan Pharmaceutical Association All Rights Reserved




薬科大学・薬学部卒業者の就職動向分布

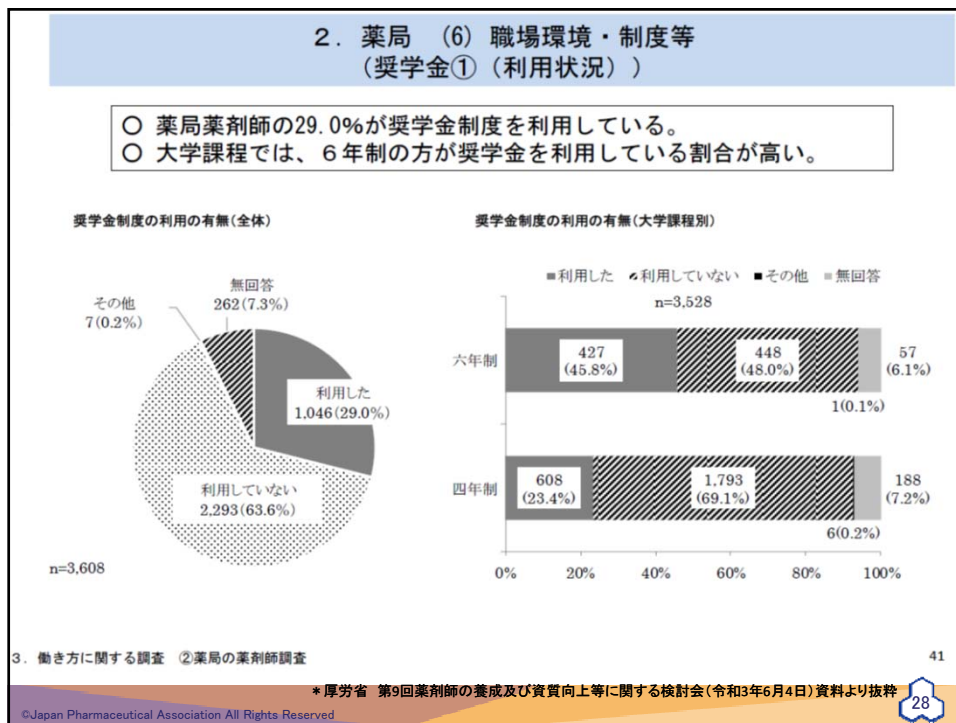
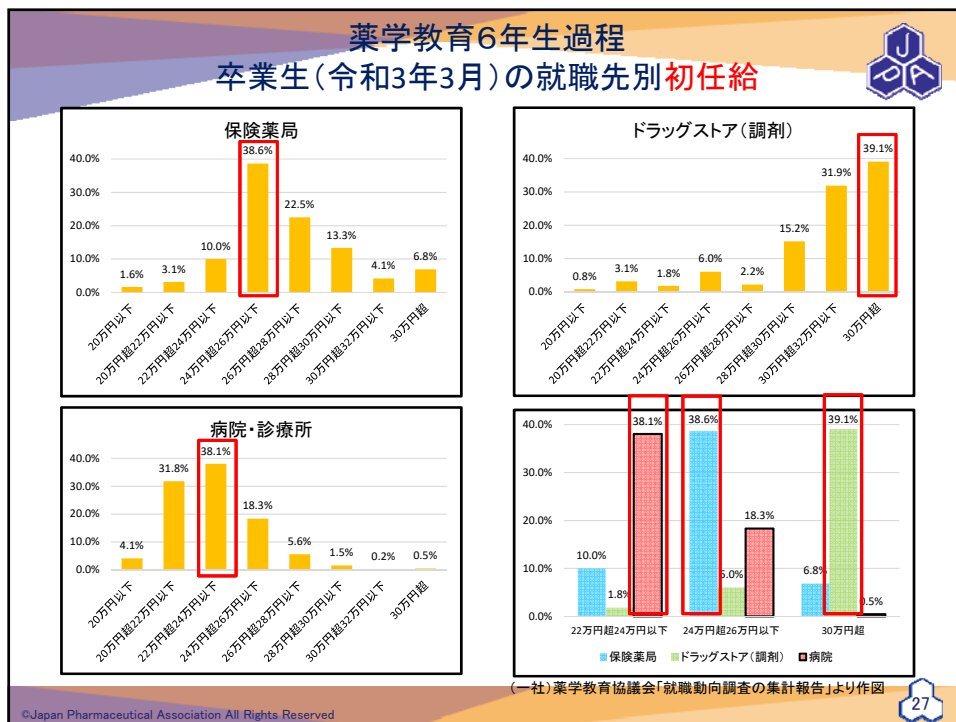


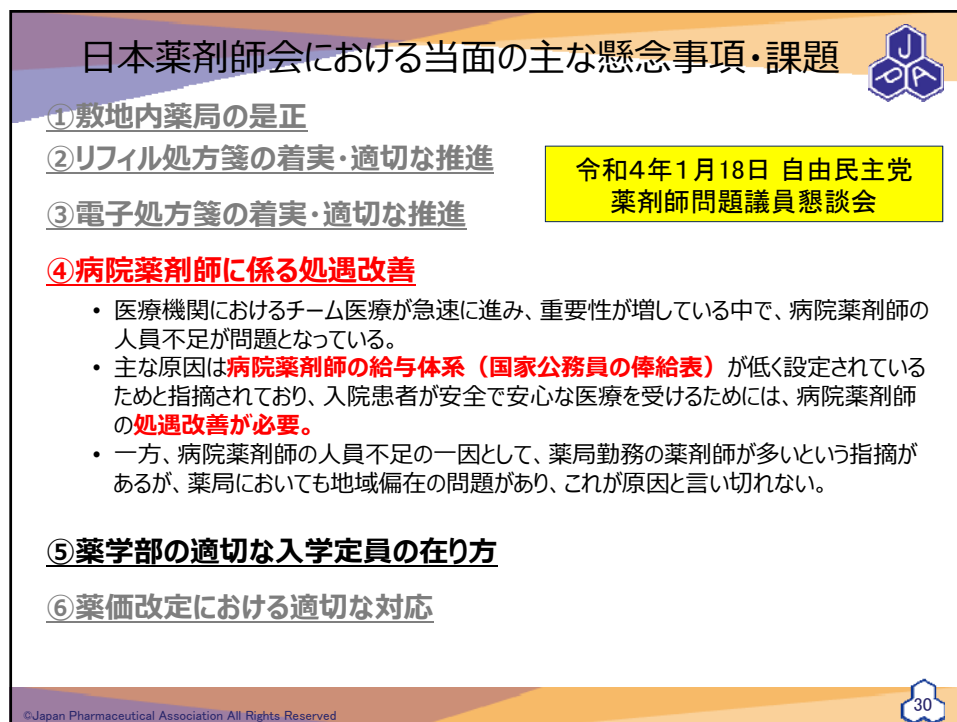
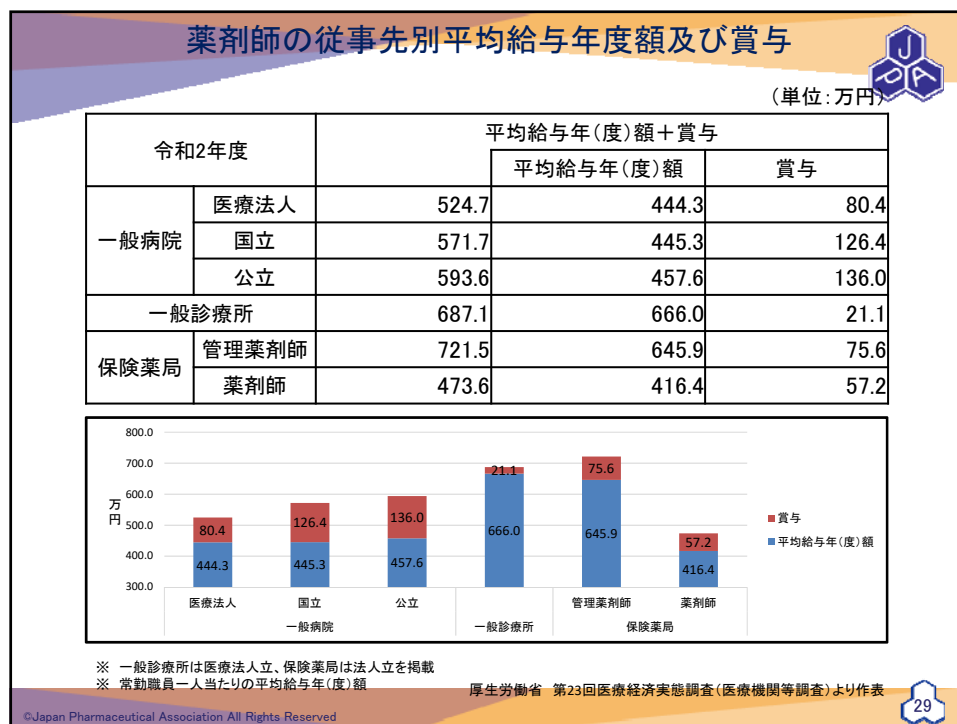
• 保険薬局	29.1%
• ドラッグストア・調剤部門	17.4%
• ドラッグストア・販売部門	1.0%
– 薬局計	<u>47.5%</u>
• 病院・診療所薬剤部	<u>19.7%</u>

2020年3月 薬学教育協議会調査より

©Japan Pharmaceutical Association All Rights Reserved







医療計画について

第11回医療計画の見直し等に関する検討会 資料4 (H29.6.30)

- 都道府県が、国の定める基本方針に即し、地域の実情に応じて、当該都道府県における医療提供体制の確保を図るために策定するもの。
- 医療資源の地域的偏在の是正と医療施設の連携を推進するため、昭和60年の医療法改正により導入され、都道府県の二次医療圏ごとの病床数の設定、病院の整備目標、医療従事者の確保等を記載。平成18年の医療法改正により、疾病・事業ごとの医療連携体制について記載されることとなり、平成26年の医療法改正により「地域医療構想」が記載されることとなった。

医療計画における主な記載事項

- 医療圏の設定
 - ・ 病院の病床及び診療所の病床の整備を図るべき地域的単位として区分。

三次医療圏

都道府県の区域を単位として設定。ただし、都道府県の区域が著しく広いことその他の特別な事情があるときは、複数の区域又は都道府県をまたがる区域を設定することができる。

↓

特殊な医療を提供

二次医療圏

一件の区域として病院等における入院に係る医療を提供することが相当である単位として設定。その際、以下の社会的条件を考慮する。
・地理的条件等の自然的条件
・日常生活の需要の充足状況
・交通事情等

↓

一般の入院に係る医療を提供

 - ・ 国の指針において、一定の人口規模及び一定の患者流入・流出割合に基づく、二次医療圏の設定の考え方を明示し、見直しを促進。

- 地域医療構想
 - ・ 2025年の、高度急性期、急性期、回復期、慢性期の4機能ごとの医療需要と病床の必要量、在宅医療等の医療需要を推計。
- 5疾病・5事業(※)及び在宅医療に関する事項
 - ※ 5疾病…5つの疾病(がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患)。
 - 5事業…5つの事業(救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児医療(小児救急医療を含む。))。
 - ・ 疾病又は事業ごとの医療資源・医療連携等に関する現状を把握し、課題の抽出、数値目標の設定、医療連携体制の構築のための具体的な施策等の策定を行い、その進捗状況等を評価し、見直しを行う(PDCAサイクルの推進)。

- 基準病床数の算定
- 医療の安全の確保
- 医療従事者の確保
 - ・ 地域医療支援センターにおいて実施する事業等による医師、看護師等の確保。

©Japan Pharmaceutical Association All Rights Reserved 31

医療機関に勤務する薬剤師の人員確保について

現状

国の医療計画・基本方針に記載がない
都道府県の地域医療計画で議論の遡上に載らない

↓

検討会に提出した意見

- 本検討会で指摘されている、**病院に勤務する薬剤師**の不足・偏在の状況については、医療提供確保の観点から、医師・歯科医師・看護師・かかりつけ薬剤師と同様に、その確保策を**医療計画に位置付ける**ことが必要。
- その上で、**都道府県・地域医療計画**において早期に地域の実情に応じた病院薬剤師不足・偏在の解決につながる仕組みを**検討**すべきである。
- その際、病院に勤務する薬剤師の確保に必要な仕組みの構築に関し、**地域医療介護総合確保基金を活用**すべきである。

©Japan Pharmaceutical Association All Rights Reserved 32

地域医療介護総合確保基金による 薬剤師就学資金貸与事業

日薬業地第365号
令和4年1月17日

日本病院薬剤師会
会長 木平健治 殿

日本薬剤師会
会長 山本 信

地域医療介護総合確保基金を活用した薬剤師就学資金貸与事業の活用について

平素より、本会会務に格段のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、地域医療介護総合確保基金（医療分）における標準事業例「8. 地域包括ケアの拠点となる病院・薬局における薬剤師の確保支援」については、薬剤師就学資金貸与事業を行うために必要な留意事項を列挙することが示されており、先般、具体的な要件及び基本的な考え方が示されたところで、
本会では、各都道府県でこうした事業を積極的に活用し、薬剤師確保及び偏在解消に向けた取り組みを進めていくよう、別添のとおり都道府県薬剤師会に通知いたしました。
貴会におかれましては、各都道府県において、病院薬剤師会と薬剤師会が連携し、これら事業が積極的に活用されるよう、都道府県病院薬剤師会にごお願いいたしますようご高配のほどよろしくお願ひ申し上げます。

令和4年1月18日

都道府県病院薬剤師会会長 殿

一般社団法人 日本病院薬剤師会
会長 木平 健

地域医療介護総合確保基金を活用した薬剤師就学資金貸与事業の取組について

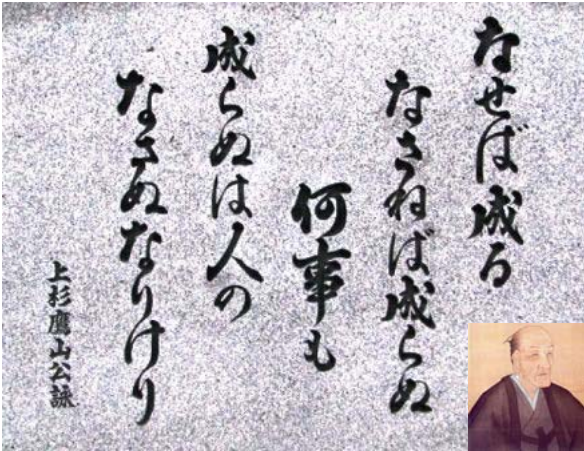

平素より、日本病院薬剤師会の活動にご高配を賜り御礼申し上げます。
さて、地域医療介護総合確保基金における薬剤師就学資金貸与事業について、この度、本事業の具体的な要件及び基本的な考え方が厚生労働省より都道府県衛生主管部（関）宛て示されました（関係資料1）。
貴会におかれましては、薬剤師確保に際して薬剤師会と緊密に連携いただくとともに、都道府県の薬業主管部と協議され、薬剤師不足の解消に向けて、本事業に積極的に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。
なお、日本薬剤師会からも、都道府県薬剤師会宛てに同趣旨の通知を发出していたところでありますことを申し上げます（関係資料2）。

薬剤師の確保を都道府県の
地域医療計画・基金事業計画の俎上に載せる！

©Japan Pharmaceutical Association All Rights Reserved

地域医薬品提供計画の策定

薬剤師は、調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによつて、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するものとする。

©Japan Pharmaceutical Association All Rights Reserved

2022年 2月27日(日)

日本病院薬剤師会の対応



一般社団法人 日本病院薬剤師会 和泉 啓司郎
Japanese Society of Hospital Pharmacists (JSHP)

1

本日の内容

- 事業計画
- 会員増加対策
- FPF (Future Pharmacist Forum)
- 地方連絡協議会
 - アンケートの結果
- 奨学金、地域医療介護総合確保基金

2

日本病院薬剤師会の対応

- H31年度から事業計画に明記
 - (1) 地域偏在の解消に向けて、病院薬剤師の人員不足に対する対策を検討する。
- 組織強化推進部で対応
 - ① ホームページに職員募集情報を掲載
 - ② 薬学生への病院薬剤師を紹介する講演
 - ③ FPFで偏在対策についてシンポジウムを開催
 - 情報の共有、対策の提言
- 地方連絡協議会で議論
 - ・ 都道府県病薬の状況や対策に関するアンケート実施
 - ・ 情報の共有

3

新卒薬剤師に対する会員増加対策

- ・ 組織強化推進部を中心に各都道府県病薬および中小病院委員会と連携して薬科大学を訪問
- ・ 学生および進路指導にあたる教員等を対象に、組織強化推進部で作成したスライドおよびリーフレットを用いて病院薬剤師のやりがい・業務等について講演
- ・ 講演を行った大学：32、聴講者数：3,477名。（令和元年度）
- ・ 薬学生・転職者向けに病院薬剤師をアピールするため、リーフレット、ホームページの改定
- ・ 各都道府県病院薬剤師会が実施する就職説明会への助成
- ・ 日病薬ホームページ求人情報の掲載事項、運用について検討と改定

4

ホームページ (HP) の内容

病院薬剤師求人情報

病院薬剤師紹介パンフレット

URL <http://www.jshp.or.jp/>
是非、薬学生向けコンテンツをご覧ください。
・日本病院薬剤師会施設紹介
・病院薬剤師求人求職情報
・病院薬剤師やりがい、業務紹介スライド等を掲載

一般社団法人 日本病院薬剤師会
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-12-15
日本薬学会長記念館 8 階
TEL: 03-3406-0485 FAX: 03-3797-5303

病院薬剤師の約8割が入会しています

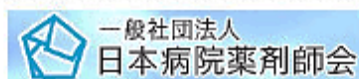
病院薬剤師の主な業務

- 病棟薬剤業務**
病棟に配置された薬剤師は、最適な薬物療法の実施による有効性・安全性の向上などを目的に、投薬前に入院患者さんの持参薬等の投薬状況の確認や、入院中、特に注意が必要なハイリスク薬剤などを確認し、必要に応じて医師に処方変更を行うことや、他の医療スタッフからの薬剤に関する相談などにも対応するなど、他職種と連携しながら業務を行っています。
- 薬剤管理指導**
入院患者さんへの医薬品適正使用の推進を目的として、投薬後に患者さんごとに服薬指導を行い、副作用の予防や早期発見、患者さんの薬物管理、服薬状況の把握や薬剤の効果を確認し、薬物療法監査記録を作成し、医師や看護師などと情報共有を行います。患者さんや家族に治療の説明をすることによって、お薬を完全に使用していただくことができます。
- 注射薬の混合調製**
食事が取れない患者さんの栄養補給のための高カロリー輸液や抗がん剤の投薬が必要な患者さんのために、薬剤師が無菌的に注射薬を混合調製します。無菌室、クリーンベンチ、安全キャビネットなどでの作業を厳格に注釈の混合調製を行っています。薬物安全の確保には豊富な知識や新しい技術が必要となるため、研修等を通じて研鑽に励んでいます。
- 医薬品情報管理 (DI)**
医薬品を適正に使用するために医薬品に関する情報を収集・評価し、その情報を医師などの医療従事者や患者さんに提供し、最適な薬物療法の実施を支援します。厚生労働省の副作用情報、医薬品の承認情報、企業から提供される各種情報に加え、学術論文や学術雑誌など医薬品を使用する上で必要となる情報を迅速に収集し、院内の関係者に情報提供を行います。
- チーム医療**
医療専門職の専門性を発揮し、積極的な協働・連携を図ること等により、医療の質を高め、患者さんの状況に適切に対応した効果的な治療サービスを提供するためにチーム医療の推進が図られています。病院薬剤師は、薬物療法の高次元を管理し、医療の質の向上、薬物安全の確保の観点から、数多くのチームに参加することが求められており、①薬業サポートチーム ②外来がん化学療法チーム ③緩和ケアチーム ④感染制御チーム ⑤降糖対策チーム ⑥臨床薬学チーム ⑦精神科チーム ⑧調剤科チームなど多数の実績に応じて活躍しています。
- 病院薬剤師のやりがい**
 - 自分が開発した薬物療法が取り入れられ、医療スタッフから評価された。
 - 患者さんはもちろん、医師や看護師などの医療スタッフも近くにいるので連携しやすく、自分が所属するチームの一員だと実感できる。
 - 病棟カンファレンス、様々な勉強会や研究会など、とにかく勉強できる機会があり、知識レベルを高めることができる。
 - カルテを見て患者さんの状態をリアルタイムで確認でき、医療スタッフと情報共有をしながら薬物療法に貢献していることができる。
 - 臨床現場におけるリアルタイムでの研究対象として学術発表を行い、論文として他の研究者に情報発信ができる。

病院薬剤師紹介スライド（118枚）

病院薬剤師への招待

薬学の専門性を最大限に生かそう！



ダウンロード可能です。ご自由にご利用下さい。

7

○学生からよくある質問

- 中小病院では病棟活動はできているの??
- 中小病院ってどんなところ

○実際に勤務されている現職薬剤師の声

- 「専門性の高い少数入院病床群の施設」
- 「地域密着型、少人数入院対応病院」
- 薬剤部がコンパクトで入職当初より薬剤師が行う業務全般に携わり活躍することができます。
- 診療部、看護部と壁が薄く、チーム医療が行われている施設が多くあります。
- 診療科が少ないために医師が少なく、薬物治療に対して当てにされる。能力を発揮できる機会が多い。

8

Future Pharmacist Forumの座談会での意見

1.大学の先生

- 奨学金を借りている学生（50%程度）は、早く返したいと思っているので保険薬局に就職する傾向がある。
- 薬局、ドラッグストアは内定後のサポートが厚い。
- 奨学金返還免除を導入している施設がある。
- 病院は採用の決定時期が遅い。併願がしにくい。
- 就職先を決める要因：実務実習、大学の説明会。
- 卒後の就職、短期間の勤務等の循環システムの構築が必要。
- 分院等の勤務がある場合は、その先のフォローが必要。
- 社会人大学院制を導入して、数年間若い薬剤師を地方勤務してもらう。
- 就職の選択を学生に任せているので、もう少し病院の魅力をしっかり伝えられる教育も必要。

9

Future Pharmacist Forumの座談会での意見

2.病院薬剤師

- ふるさと実習を積極的に実施するべき。
- 中小病院を希望する学生、薬剤師がいるが探す手段がない。
→ 欠員がある病院が日病薬のHPに募集を掲載していない。
- 色々対策を講じて、現在は奨学金（10万円/月）を支給して薬剤師を確保している。（現在は20名）
- 奨学金支給制度を導入していることの広報が難しい。
- 返済期間働いた後は、異動してしまう。
- 薬剤師の増員ができない部分は、アシスタント、SPD、機械化、ロボット化を導入している。
- 過疎地域等の病院では7割の病院では募集人数分を採用できていない。
- 病棟業務を実施していない病院では、60%以上の施設で一人も採用できなかった。

10

日病薬⇔都道府県病院薬剤師会との連携

- ブロック学術大会開催時に中小病院委員会、療養病床委員会が各都道府県病薬の中小病院、療養病床担当者連絡会議を開催（組織強化推進部員も出席）
- 病院薬剤師の充足状況も含めた各病院の状況把握、要望等の意見交換を実施

11

地方連絡協議会での取り組み

- ふるさと実習の推奨
- 行政を含めた薬剤師確保の活動内容紹介
- 地域医療介護総合確保基金の紹介
- 地方病薬独自の事例紹介（例：石川県）
- 自治体病院の現状報告
- アンケートの実施
 - 行政主導の広報活動、活動内容、
 - 薬剤師確保の方法・機会
 - その他

12

地方連絡協議会での情報共有（事例紹介）

- 石川県病薬は、県内の全ての会員施設の代表者で Director Seminarを開催し、各施設や地域の課題を共有するとともに、施設間の連携や人事交流について検討を実施。
- また、石川県薬、石川県、北陸大学、金沢大学と連携して石川県中高生薬剤師セミナーを開催し、裾野を広げる活動の実施。
- 赴任手当の支給（島根県の島の医療機関）

13

都道府県病薬へのアンケートの内容

1. 薬剤師確保に対する取組状況

質問事項

- 1) 薬剤師確保への取組みの成果
- 2) ホームページ等における広報活動
- 3) 日病薬ホームページの「施設紹介」の利用状況
- 4) 大学への広報活動
- 5) 薬剤師確保のための行政等への働きかけ
- 6) 行政による薬剤師確保のための関与の有無
- 7) 地域医療介護総合確保基金（医療分）を使用した解決策
- 8) 行政による薬剤師確保の活動内容
- 9) 行政主導の広報活動、活動内容
- 10) 薬剤師確保への取組みの成果

14

アンケートの内容

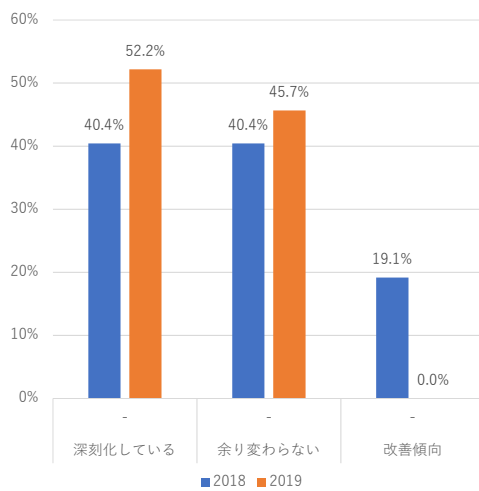
2.医療連携体制への参画に向けた取組状況

質問事項

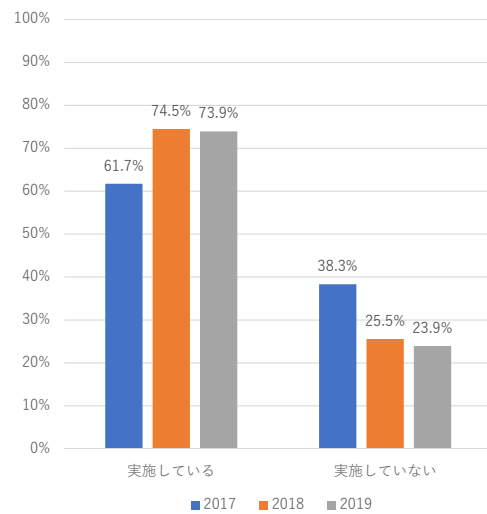
- 1) 第7次医療計画と地域医療構想の概要の把握
- 2) 薬剤師会との連携の状況
 - ・ 薬剤師会と共同開催の研修会の開催状況
- 3) 市民公開講座（お薬相談会等）の開催状況

アンケートの結果1

薬剤師確保

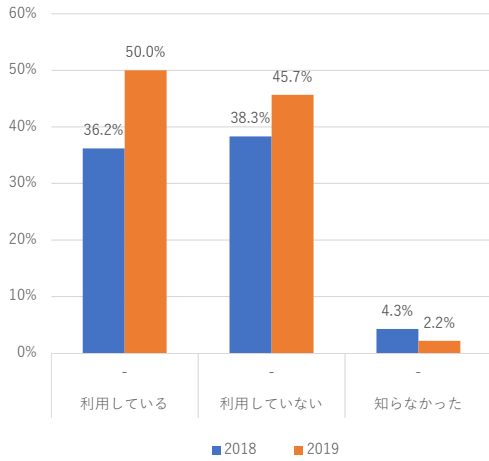


ホームページ等における広報活動

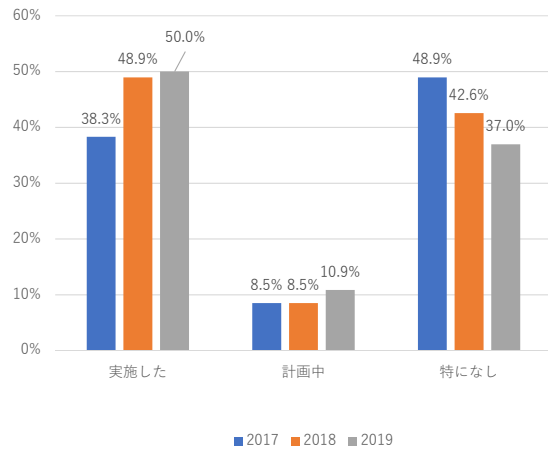


アンケートの結果2

日病薬のHPの施設紹介



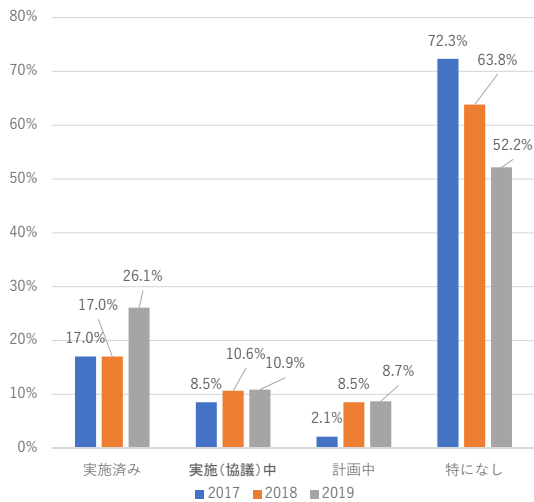
大学への広報活動



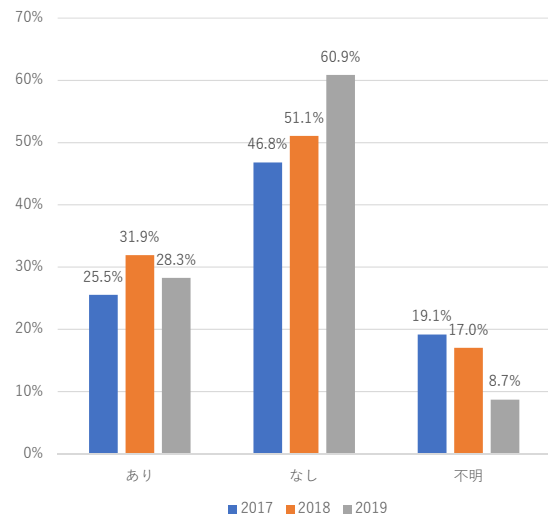
17

アンケートの結果3

行政等への働きかけ



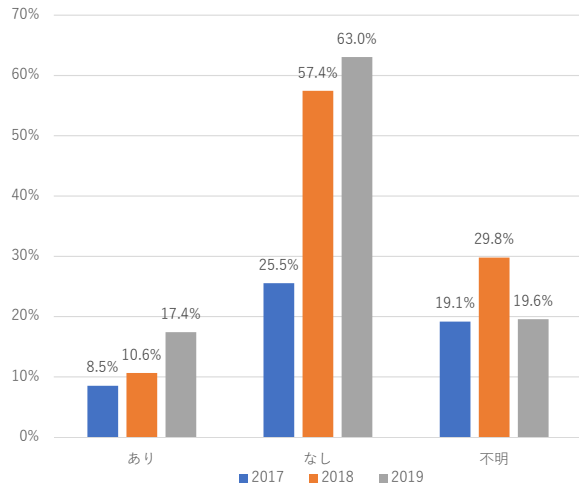
行政による薬剤師確保の関与



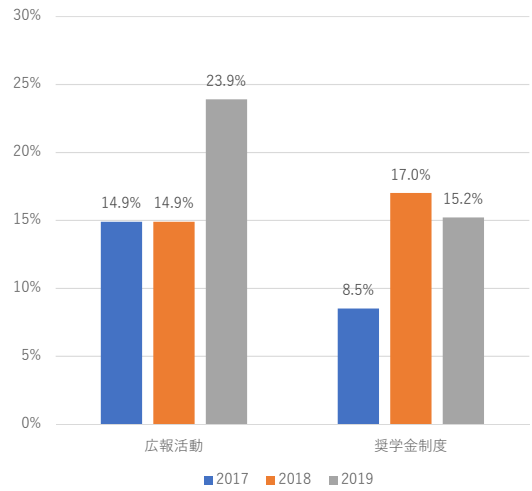
18

アンケートの結果4

地域医療介護総合確保基金（医療分）を使用した解決策



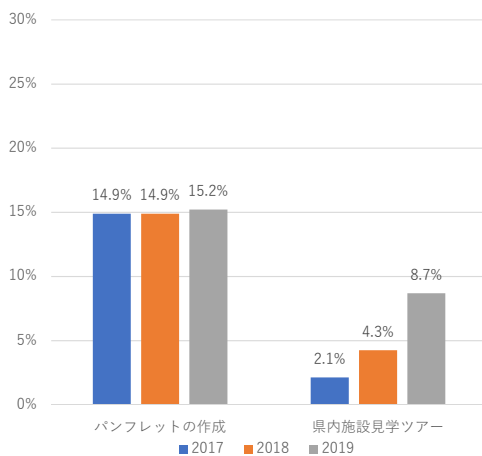
行政による薬剤師確保の活動内容



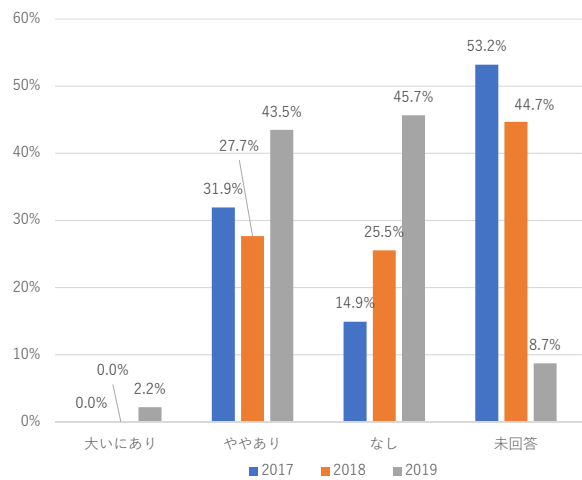
19

アンケートの結果5

行政主導の広報活動の内容



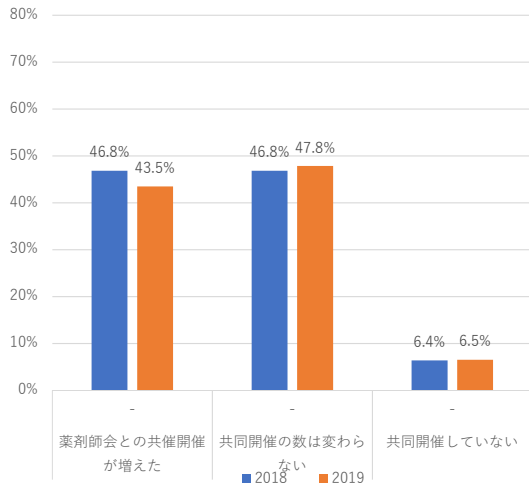
薬剤師確保の取組の成果



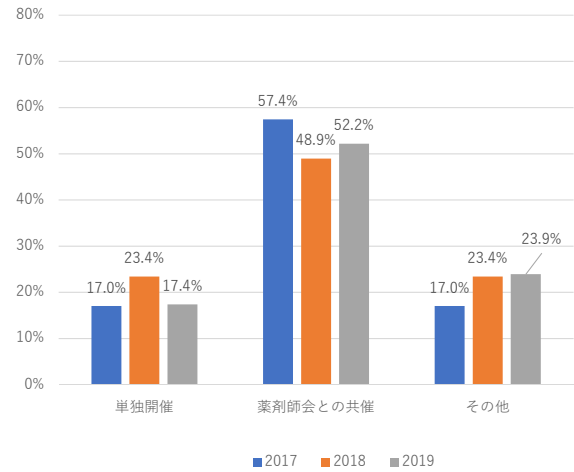
20

アンケートの結果6

薬剤師会との連携の状況



市民公開講座の開催状況



返還免除制度のある奨学金

卒業後、薬局や病院などの事業所に薬剤師として勤務することを条件に貸与され、一定期間勤務すると、返還が免除になるタイプの奨学金です。現在募集がきている病院や薬局件数は下記表のとおりです。事業所によって募集時期や金額、返還免除となるまでの期間は異なりますが、募集があったものについては学内掲示板等でお知らせしています。興味のある方は学生課までご連絡ください。

2021年3月1日現在

地方	No.	都道府県	病院	薬局	その他	各事業所の貸与金額
北海道地方	1	北海道	13			月額30,000円～200,000円、返還助成
	2	青森県	5	5		月額50,000円～120,000円、返還助成

都道府県	病院	薬局	各事業所の貸与金額
北海道地方	13	0	月額3万円～20万円、返還助成
東北地方	24	11	月額5万円～12万円、返還助成
関東地方	18	13	月額3万円～20万円、年額100万円、返還助成
中部地方	13	6	月額5万円～17万円、総額300万円、返還助成
近畿地方	3	6	月額6万円～10万円、年額100万円、返還助成
中国地方	3	1	月額5万円～8万円、一時金120万円、返還助成
四国地方	0	3	月額4万円～8万円、年額120万円
九州地方	3	1	月額5万円～10万円、返還不要、返還助成
合計	77	41	

四国地方	No.	都道府県	病院	薬局	その他	各事業所の貸与金額
	30	高知県		1		総額7,200,000円
	31	佐賀県		1		月額50,000円
	32	熊本県	1		1	返還助成
九州地方	33	大分県			1	給付月額50,000円～100,000円(返還不要)
	34	鹿児島県	2			月額70,000円～100,000円

例：薬学科4年生から月額50,000円を貸与。卒業後、5年勤務した場合に返還免除。

返還助成…奨学金の増入がある場合、その返還を支援する制度。
※事業所により助成を受けられる期間は異なります。

都道府県病院薬剤師会会長への通知 (令和4年1月18日)

日病薬発第2021-167号
令和4年1月18日

都道府県病院薬剤師会会長 殿

一般社団法人 日本病院薬剤師会
会長 木平 健



地域医療介護総合確保基金を活用した薬剤師修学資金貸与事業
の取扱いについて

平素より、日本病院薬剤師会の活動にご高配を賜り御礼申し上げます。
さて、地域医療介護総合確保基金における薬剤師修学資金貸与事業について、
この度、本事業の具体的な要件及び基本的な考え方が厚生労働省より都道府県
衛生主管部（局）に宛て示されました（別添資料1）。
貴会におかれましては、薬剤師確保に関して薬剤師会と緊密に連携いただく
とともに、都道府県の薬務主管課と協議され、薬剤師不足の解消に向けて、本
事業に積極的に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。
なお、日本薬剤師会からも、都道府県薬剤師会宛てに同趣旨の通知を發出し
ていただいておりますことを申し上げます（別添資料2）。

島根県の例

島根県は**新たに県内へ就職**される**薬剤師**の皆さんの
奨学金返還を助成します **最長12年間**
最大288万円

島根県では薬剤師を必要としています！！
①人口当たり薬剤師数 全国36位 ②00.1231時点
②薬学部在籍者数 全国最下位 ③09年度
③病院・薬局の34%が薬剤師不足 ④02.6月時点

しまねで働こう！

島根県薬剤師奨学金返還助成事業
在学時に奨学金の貸与を受けた薬剤師の方が、県内の登録を受けた医療機関・
薬局に就業した場合、就業期間中の奨学金返還を県と事業者が共同で助成します。
①登録を受けた施設へ就職 ②就業後、県と事業者が共同で助成します
③県に登録※ ④県に助成を申請
※県内に就職予定の方や県内で薬剤師として就業している方は対象となりません。

応募要件
県の登録を受けた医療機関・薬局に就業を希望する薬学部在学学生又は
臨床薬剤師で、次の全てに該当する方を募集対象者とします。
1. 奨学金の貸与を受けており、返還予定又は返還中の方
2. 薬剤師免許を有する、又は取得見込みの方
3. 島根県内で継続して就業する見込みである方

対象奨学金 日本学生支援機構の奨学金、島根県育英会奨学金 他

助成内容
1. 助成期間：最長12年間（144ヶ月）
2. 助成月額：奨学金総額÷奨学金返還月数
ただし月額上限20,000円（最大額：12年間で288万円）
3. 支給方法：助成金額を就業期間中、原則12年間に分けて支給

2021年度 助成対象認定者募集内容

応募方法	以下の書類を郵送又は持参により、申請先に提出して下さい。 ①申請書、②履歴書、③奨学金貸与証明書、④在学証明書（既卒者の方は 薬剤師免許証の写し）※様式は県HPからダウンロードして下さい。
募集対象者	◆在学学生 ①2022年度卒業予定の方（2023年3月卒業） ②2021年度卒業予定の方（2022年3月卒業） ◆既卒者 申請以前に島根県内の医療機関又は薬局で就業していない方
募集期間	2021年5月1日～7月31日まで ※定員に達しない場合は期間を延長します
募集定員	10名（※定員を超える応募があった場合、書類審査による選考を行います）
ご注意事項	①必ず 就職予定前 に申請して下さい。就職予定後の申請は受けられません。 ②募集要項、交付要領、Q & Aをホームページ等で必ずご確認ください。 ③助成対象認定を受けただけでは助成できません。就職した後も別途手続き が必要となります。

<手続きの流れ>

内定前 助成対象認定申請書を提出（本人→県） → 審査 → 助成対象認定（県→本人）

就職 支給対象認定申請書を提出（本人→県） → 審査 → 支給対象認定（県→本人）

助成期間 1～12年目
【毎年度10月末まで（前）】 助成金交付申請書を出し（本人→県） → 雇用者が助成金の1/2を県に納付 → 【毎年度11月頃】 交付決定
【毎年度の4月15日までに】 勤務実績を報告（本人→県） → 【毎年度の5月頃】 助成額の確定・支給

よくある質問
Q 県外出身ですが、助成対象になりますか？
A 県外出身者でも助成対象になります。
Q 助成対象認定を受けたら、必ず県の登録を受けた医療機関等に就職しなければなりませんか？
A 認定を受けた場合でも、就職活動に一切制限は無く、自由に就職先を決められます。ただし、登録を受けた医療機関等以外に就職した場合、認定は取り消しとなります。
Q 助成金の交付を受けながら、他の薬局や病院等に転職することはできますか？
A 自由に転職できます。また、転職先が県の登録を受けた医療機関等であれば、引き続き助成金の交付を受けることができます。

北海道の例

薬剤師の就業を支援します！

北海道薬剤師会では、北海道や関係機関・団体等と協力し「北海道薬剤師バンク」を立ち上げ、北海道内での薬剤師の就業支援を行っています。また、薬剤師の資格を持つながら結婚や出産・子育てや定年退職などで、医薬現場から離れてしまった「未就業薬剤師」の再就職や研修、各地域での就業サポートなどを行っています。



あなたの働く意欲を応援します！

まずは「北海道薬剤師バンク」へ登録。多様な求人情報を紹介します！

【北海道薬剤師バンク】に求人希望条件を登録すると、北海道各地の薬局・病院等、多様な求人情報から希望に合った職歴をご紹介します。

登録・紹介
無料
（ポイントマーク）
アルバイト歓迎

最新の復職支援研修を受けられます！

医薬業界は進歩が早く、休職中に新たな知識や管理できるか不安になる方もいらっしゃると思います。北海道薬剤師会では希望される方に、薬局や病院等で最新の復職支援研修が受けられる体制を整えています。復職復帰にあたって少し心配…という方は是非ご利用ください。

地域の病院等への緊急臨時的薬剤師派遣（在籍出向）の調整も行います。

一般社団法人 北海道薬剤師会・北海道

北海道薬剤師会 薬剤師の皆さんが生き生きと働ける未来のために

近年、定員外分業が急速に進むなか、薬剤師の存在がますます重視されるようになってきました。薬剤師への社会的ニーズが高まる一方、北海道では、その活躍の場が都市部に偏りやすくなる傾向があり、地方における薬剤師不足という問題が起きています。また、資格を持ちながら未就業状態にある薬剤師、特に結婚や出産、育児などで業務に復帰を断れる女性薬剤師が多くなっています。この対策として、北海道薬剤師バンク（まち立ち上げ、北海道における薬剤師不足の解消に貢献すると同時に、薬剤師の皆さんのキャリア支援を目指しています）。

北海道薬剤師バンクは、2つの事業を柱としています。1つは全道から寄せられる求人・求職のマッチングです。情報を集約、一元管理することで、求職者と薬剤師の双方にとって最適な就業を実現します。

もう1つは、未就業薬剤師の復職支援です。一度職場を離れてしまうと、復職に不安を持つ方も多くいます。そこで、最新の情報を学ぶ座学や会費・志願書などで研修を取り入れた復職支援プログラムの実施、復職後の相談対応などを行い、安心して働けるようにサポートします。

このシステムの最大の利点は、北海道や関係機関との連携を受けた公益事業であることです。すべての支援を無料で提供します。薬剤師の皆さんが存分に能力を発揮できることが、医療現場の安全性を高め、患者さまのQOL向上につながります。ぜひ、北海道薬剤師バンクを通じていただき、キャリアアップや人生の充実に役立てていただければ幸いです。

平成29年2月

北海道薬剤師バンク概要



未就業薬剤師の就業支援、就業希望薬剤師のマッチング、復職支援研修プログラムの作成

研修受入施設の情報と実地、自治体病院等への薬剤師派遣調整

登録・紹介無料、求人情報の閲覧・求人・求職の登録はホームページからご覧ください、http://doyakubank.jp

一般社団法人 北海道薬剤師会「北海道薬剤師バンク」、薬剤師会事務局、〒000-0001 北海道札幌市中央区南1条西5-12(北海道薬会会館2F)、TEL.011-811-0184(代表) FAX.011-831-2412

【行政支援窓口】北海道保健福祉部地域医療推進課薬剤師科課薬剤師グループ TEL.011-204-6266

まとめ

- 今後も機会ある毎に学生に病院（特に中小病院等）への就職を積極的に勧誘していく。
- 中小病院を希望している学生、薬剤師は存在しているがマッチングができていない。
 - ホームページの改修、利用の推進
- 地域医療介護総合確保基金の有効活用
 - 行政、薬剤師会と連携して対応
- 継続して偏在解消に向けた取り組み



自治体病院における薬剤師の地域偏在 ～薬剤管理実態調査結果より～

公益社団法人 全国自治体病院協議会 薬剤部会会長
神戸市立医療センター中央市民病院 薬剤部
神戸市立神戸アイセンター病院
室井 延之

公立病院（地方独立行政法人を含む）の立地

○ 公立病院の約65%は10万人未満市町村に、約30%は3万人未満市町村に所在

○ へき地等を多く抱える都道府県ほど、全病床数に占める公立病院の病床数の割合が高い傾向にある

【所在市区町村人口区分別の公立病院数】

所在市区町村の人口	病院数 <small>※地域法を含む</small>	
合計	857	
23区及び指定都市	75	
30万人以上	64	
10万人～30万人	158	
5万人～10万人	178	全公立病院の 65.3%
3万人～5万人	123	
3万人未満	259	

【公立病院の病床数の割合が高い都道府県】

都道府県名	割合 (%)	公立病院病床 / 全病床
山形県	45.1	5,099 / 11,298
岩手県	44.4	5,947 / 12,054
青森県	37.3	5,178 / 10,078
山梨県	31.4	2,745 / 8,760
島根県	31.2	2,600 / 8,006
富山県	30.9	4,110 / 13,320
滋賀県	30.8	3,822 / 12,404
岐阜県	29.7	4,988 / 16,089
和歌山県	29.5	3,428 / 11,610
静岡県	29.5	9,941 / 31,692

※ 表の病院数は、令和元年度における地方公営企業の病院及び公営企業型地方独立行政法人病院（建設中の病院を除く。）

（参考）東京都 8.1%
大阪府 11.1%

（出典：令和元年国民健康調査（厚労省））

出典：陸奥省自治体病院等公営企業型病院資料（令和3年10月）

全国自治体病院協議会 薬剤部会重点課題

地域での自治体病院の役割を再確認し、
 その中での薬剤師業務の展開について考える

□ 薬剤業務の質向上への取り組み

病棟薬剤業務、薬剤師外来、入退院支援業務

□ 新規薬剤業務のアウトカム集積

□ タスクシフティングによる薬物療法の安全性の向上

□ 自治体病院における薬剤管理の実態調査

薬学的なケアを実践する上でのノウハウの共有

薬剤師確保に向けての課題整理









調査結果の概要










【調査実施期間】 2021年6月23日～7月30日

【調査対象】 862病院（調査時点）

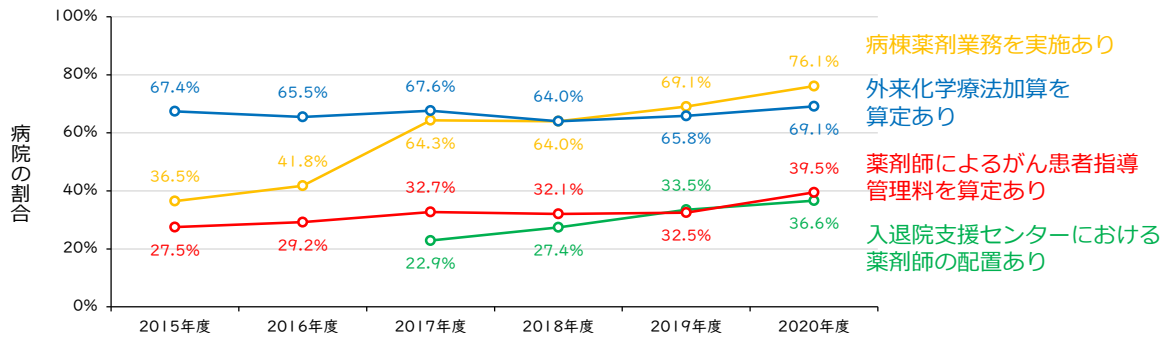
【調査対象期間】 2021年3月31日時点

【有効回答】 465病院（53.9%）

【地域別】	会員 病院数	回答 病院数	回答率 (%)	
全 体	862	465	53.9	
北 海 道	85	37	43.5	
東 北	134	73	54.5	
関 東	157	98	62.4	
北陸・信越	88	51	58.0	
近畿・東海	180	99	55.0	
中国・四国	121	60	49.6	
九 州	97	47	48.5	

【種類・病床規模別】	会員 病院数	回答 病院数	回答率 (%)	
全 体	862	465	53.9	
一般病院	822	438	53.3	
99床以下	251	86	34.3	
100床台	198	88	44.4	
200床台	85	52	61.2	
300床台	118	81	68.6	
400床台	74	55	74.3	
500床以上	96	76	79.2	
精神科病院	40	27	67.5	

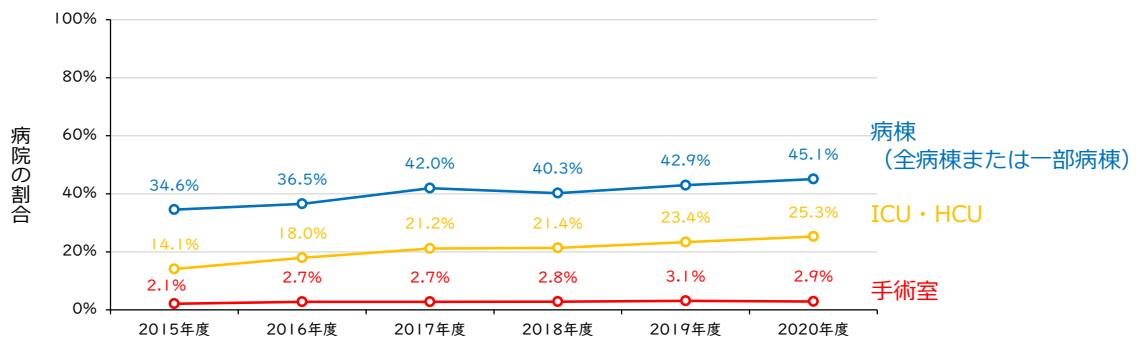
病棟薬剤業務、外来化学療法加算、入退院支援センターへの薬剤師配置、がん患者指導の実施状況



	2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度	
	回答 病院数	あり	回答 病院数	あり	回答 病院数	あり	回答 病院数	あり	回答 病院数	あり	回答 病院数	あり
外来化学療法加算の算定状況	518	349	513	336	497	336	483	309	483	318	437	302
病棟薬剤業務の実施状況	510	186	498	208	457	294	436	279	443	306	389	296
薬剤師によるがん患者指導管理料の算定状況	517	142	521	152	496	162	477	153	499	162	433	171
入退院支援センターにおける薬剤師の配置状況	-	-	-	-	210	48	230	63	260	87	262	96

- 病棟薬剤業務の実施設は全体の8割弱と増加していた。
- 外来化学療法加算を算定している病院は69.1%で、薬剤師によるがん患者指導管理料を算定している病院は39.5%であった。
- 入退院支援センターに薬剤師を配置している病院は増加傾向であり、現在36.6%の施設で薬剤師が関わっていた。

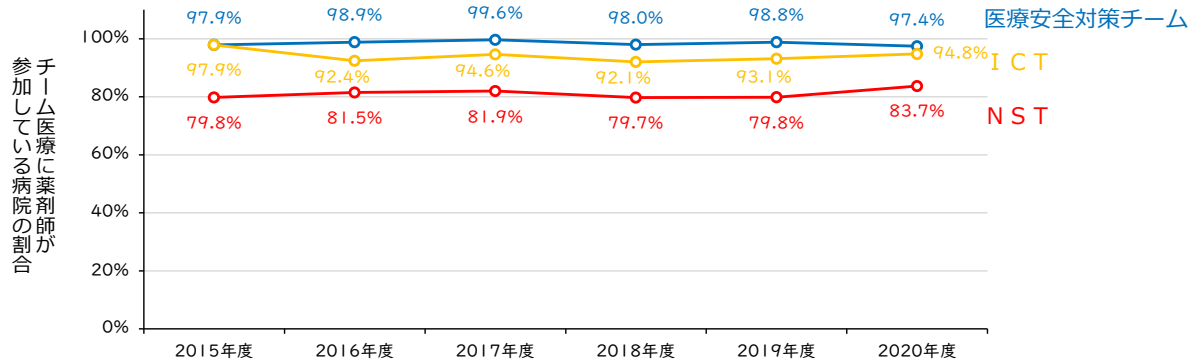
病棟、ICU・HCU、手術室における薬剤師の常駐配置



	2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度	
	回答 病院数	薬剤師が 常駐	回答 病院数	薬剤師が 常駐	回答 病院数	薬剤師が 常駐	回答 病院数	薬剤師が 常駐	回答 病院数	薬剤師が 常駐	回答 病院数	薬剤師が 常駐
病棟 (全病棟または一部病棟)	518	179	509	186	493	207	477	192	496	213	459	207
ICU・HCU	341	48	334	60	326	69	304	65	308	72	297	75
手術室	468	10	476	13	477	13	429	12	449	14	411	12

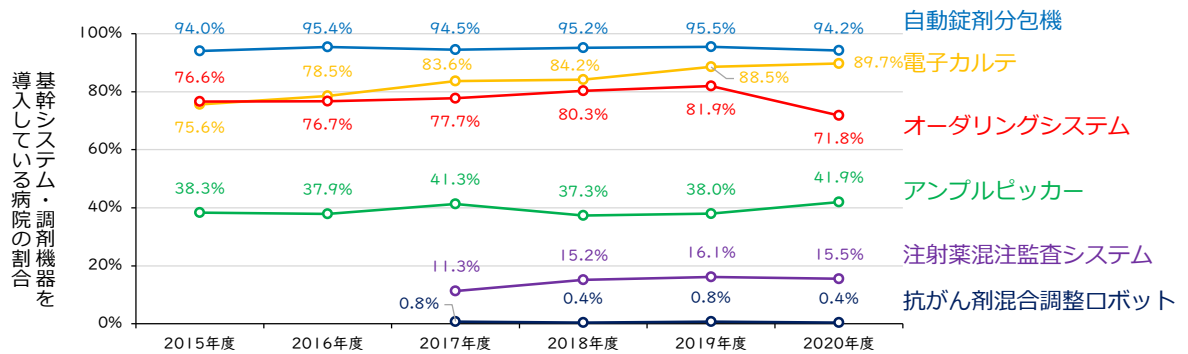
- 病棟 (全病棟または一部病棟)、ICU・HCUに薬剤師を常駐配置している施設は増加していた。
- 手術室へ薬剤師を配置している施設の割合は全体の約3%であった。

薬剤師のチーム医療への参加状況



	2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度	
	回答病院数	薬剤師の参加あり	回答病院数	薬剤師の参加あり	回答病院数	薬剤師の参加あり	回答病院数	薬剤師の参加あり	回答病院数	薬剤師の参加あり	回答病院数	薬剤師の参加あり
医療安全対策チーム	519	508	525	519	505	503	493	483	507	501	462	450
ICT	519	508	525	485	503	476	491	452	506	471	458	434
NST	519	414	525	428	504	413	493	393	506	404	460	385

基幹システム・調剤機器の導入状況



	2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度	
	回答病院数	導入している	回答病院数	導入している	回答病院数	導入している	回答病院数	導入している	回答病院数	導入している	回答病院数	導入している
自動錠剤分包機	520	489	526	502	507	479	496	472	508	485	465	438
電子カルテ	520	393	526	413	507	424	493	415	506	448	465	417
オーダリングシステム	517	396	524	402	391	387	487	391	503	412	465	334
アンブルピッカー	519	199	525	199	506	209	496	185	508	193	465	195
注射薬混注監査システム	-	-	-	-	505	57	495	75	508	82	465	72
抗がん剤混合調整ロボット	-	-	-	-	506	4	496	2	508	4	465	2

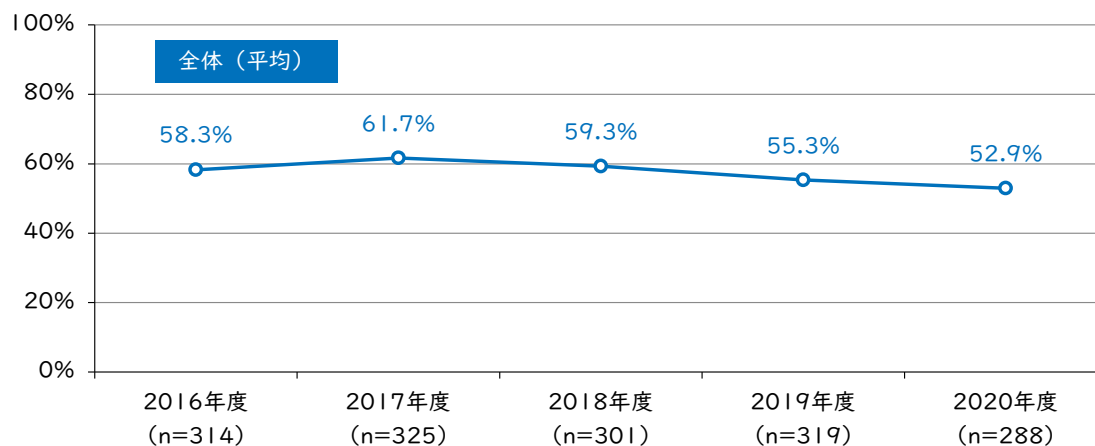
○ 「電子カルテ」を導入している病院は増加傾向であった。「自動錠剤分包機」「アンブルピッカー」「抗がん剤混合調整ロボット」の導入施設は、ほぼ横ばいで、「注射薬混注監査システム」は微増であった。

常勤薬剤師の採用率の推移

2016年度から常勤薬剤師の採用状況を調査開始

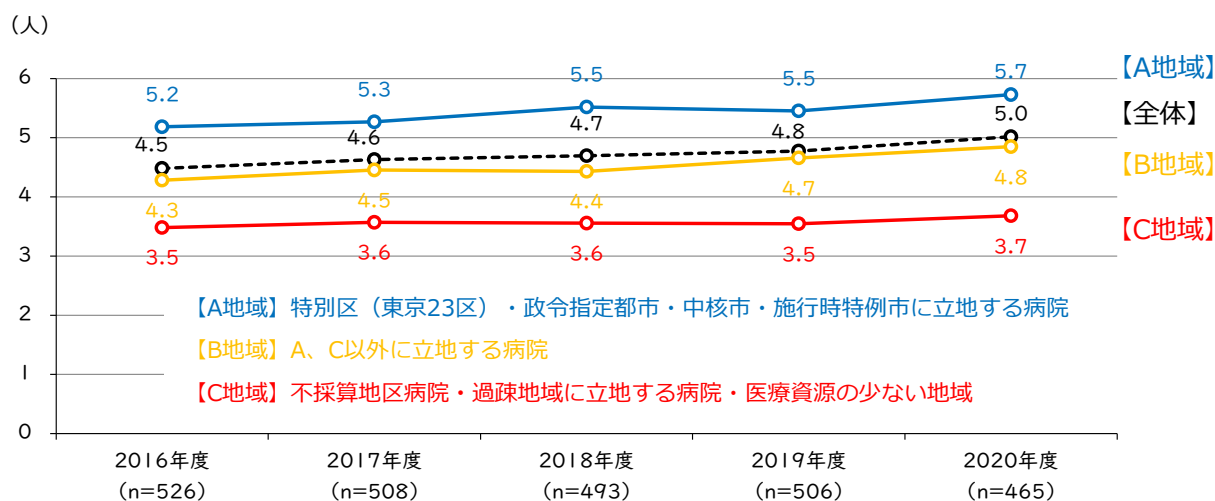
※採用率（％）＝各病院の採用人数の総和÷各病院の募集人数の総和×100

※募集していない病院や無回答は除外



○ 常勤薬剤師の採用率は、2020年度が52.9%で、薬剤師確保が困難な状況であった。

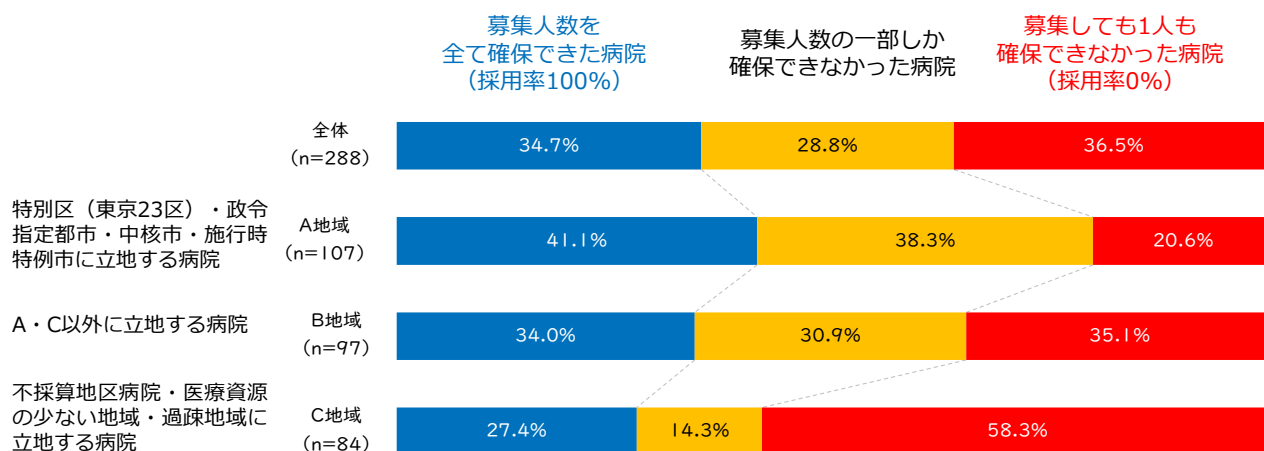
稼働100床あたり薬剤師数の推移



○ 稼働100床当たり薬剤師数は、地域差が認められ、いずれもほぼ横ばいで推移していた。

○ 稼働100床当たり薬剤師数はA地域では5.7人、一方でC地域では3.7人と地域により常勤薬剤師数の差が認められた。

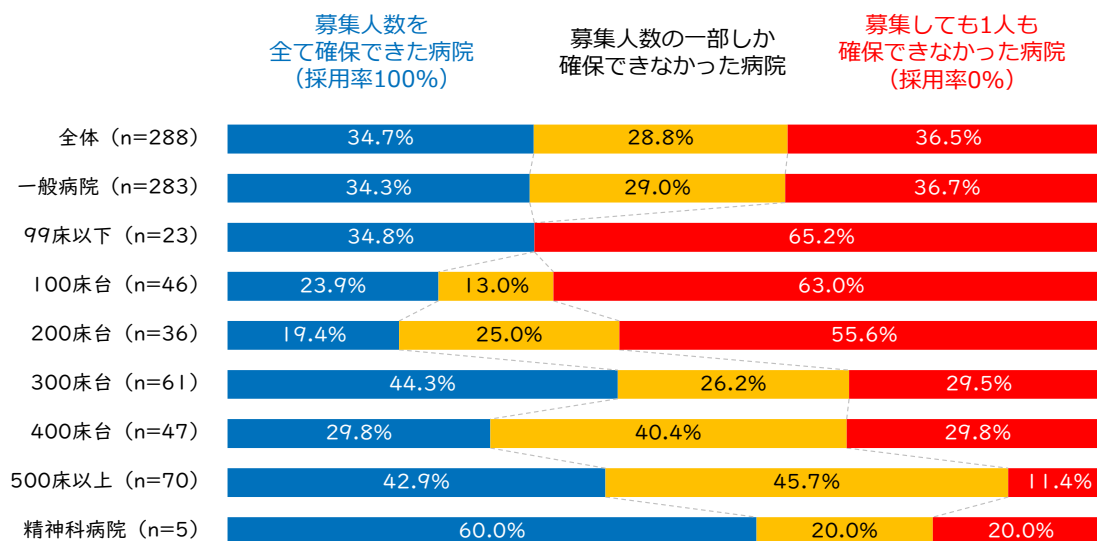
常勤薬剤師の2020年度採用状況（地域別）



※ AとCの両方に該当する場合は
重複を避けCに分類

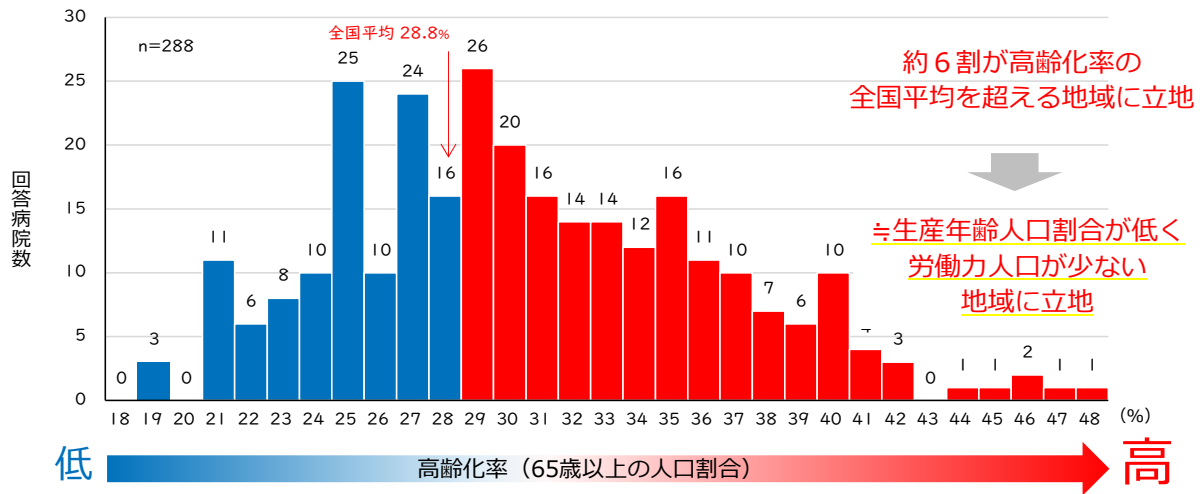
- 「募集人数の一部しか確保できなかった病院」が28.8%、「募集しても1人も確保できなかった病院」が36.5%、合わせて全体の約6割強の病院において常勤薬剤師の確保が困難な状況であった。
- 地域別では「C地域」は全体の約7割が常勤薬剤師の確保が困難な状況であり、都市部の「A地域」でも「募集人数を全て確保できた病院」は41.1%であった。

常勤薬剤師の2020年度採用状況（病床規模別）



- 病床規模別に見ると、特に99床以下や100床台の中小病院で、常勤薬剤師の確保が困難な状況であった。
- 500床以上の病院でも「募集人数を全て確保できた病院」は、42.9%であった。

回答病院と立地する自治体の高齢化率の分布



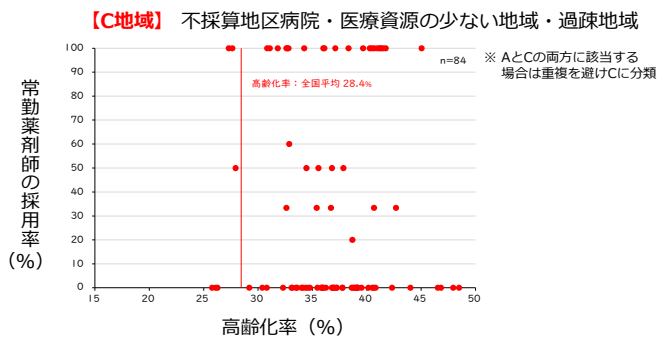
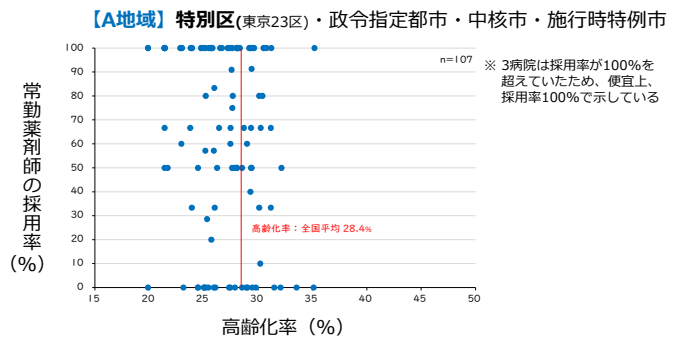
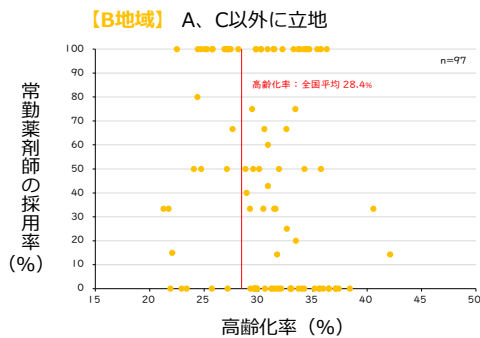
- 自治体病院における薬剤管理の実態調査（2020年度）に回答した465病院のうち、常勤薬剤師の採用状況に関する設問に回答した288病院を抽出。募集していない病院や無回答は除外している。
- 回答があった288病院のうち175病院（60.8%）が高齢化率の全国平均を超える地域に立地している（一般的に高齢化率が高いと生産年齢人口割合が低くなる≒労働力人口の割合が低くなる）。

出典：令和3年版高齢社会白書（高齢化率の全国平均は令和2年10月1日現在）、総務省「令和2年1月1日住民基本台帳年齢階級別人口」（市区町村別）を基に作成

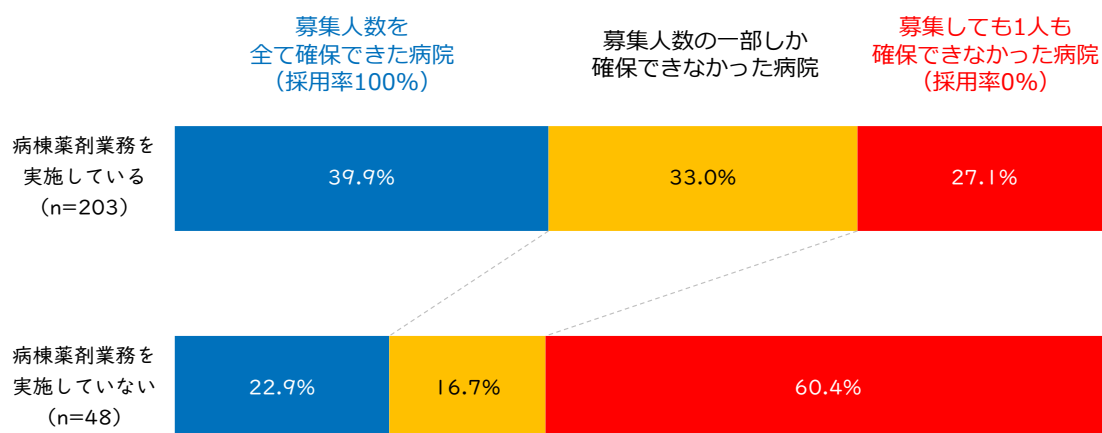
常勤薬剤師の採用率と病院が立地する自治体の高齢化率の分布図

- 「A地域」は、常勤薬剤師採用率100%が他の地域と比べて多いが、募集人数の一部しか確保できなかった病院や採用率0%も散見された。
- 一方で「C地域」は、高齢化率が高い地域に立地している病院が多く、採用率0%が多い傾向であった。
- 「B地域」は、「A地域」と「C地域」の中間的な状況であった。

出典：高齢化率の全国平均は令和3年版高齢社会白書（令和2年10月1日現在）
病院が立地する自治体の高齢化率は、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」（令和2年1月1日）

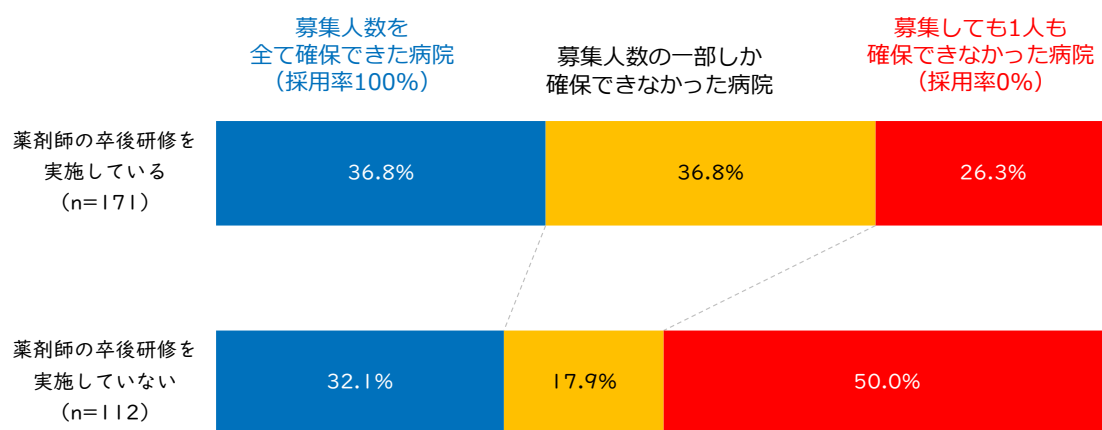


常勤薬剤師の2020年度採用状況と病棟薬剤業務



- 病棟薬剤業務を実施している病院では「募集しても1人も確保できなかった病院」は27.1%であったが、一方で、病棟薬剤業務を実施していない病院では、「募集しても1人も確保できなかった病院」は60.4%であった。

常勤薬剤師の2020年度採用状況と薬剤師の卒後研修実施の有無



- 薬剤師の卒後研修を実施している病院では「募集しても1人も確保できなかった病院」は26.3%であったが、一方で、薬剤師の卒後研修を実施していない病院では、「募集しても1人も確保できなかった病院」は50.0%であった。

常勤薬剤師採用状況調査のまとめ

- ❑ 薬物療法の安全性の向上のために、病棟薬剤業務に加え、薬剤師外来、入退院支援業務等の新規薬剤業務の展開が認められた。
- ❑ 薬剤業務の進展は病院機能・病院規模に依存していた。
- ❑ 常勤薬剤師の採用率は平均52.9%であり、前年度より低下していた。
- ❑ 常勤薬剤師の採用率には地域偏在が認められ、特に、不採算地区病院・医療資源の少ない地域・過疎地域に立地する病院では薬剤師の採用が困難な状況であった。
- ❑ 薬剤業務の進展を阻む要因として薬剤師不足があげられ、その解決が喫緊の課題である。

Digital Transformation



助手活用で本来の業務推進-抗癌剤ロボットが不可欠に

日病薬近畿大会で報告



薬剤助手やロボットを活用した病院薬剤師の業務構築の取り組みが、神戸市で開かれた日本病院薬剤師会近畿学術大会のシンポジウムで報告された。各病院では、業務フロー図を組み込んだマニュアルを作成したり、間違いのリスクを回避するシステムを導入して、薬剤師と薬剤助手がうまく連携できるよう工夫している。抗癌剤自動調製ロボットの導入によって、薬剤師のマンパワーの効率的な活用につながったことも示された。

不易流行

「不易」 いつまでも変わらないこと

「流行」 その時々に応じて変化してゆくもの

不易流行

「不易」 いつまでも変わらないこと

ノウハウや創造性、臨床的に意味のある違いを知る能力

Pharmacist-Scientistsの実践

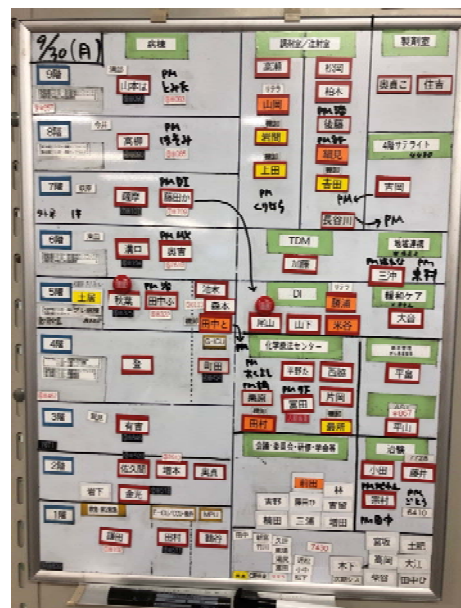
「流行」 その時々に応じて変化してゆくもの

薬剤業務のデジタルトランスフォーメーション

新しい薬剤師連携の展開

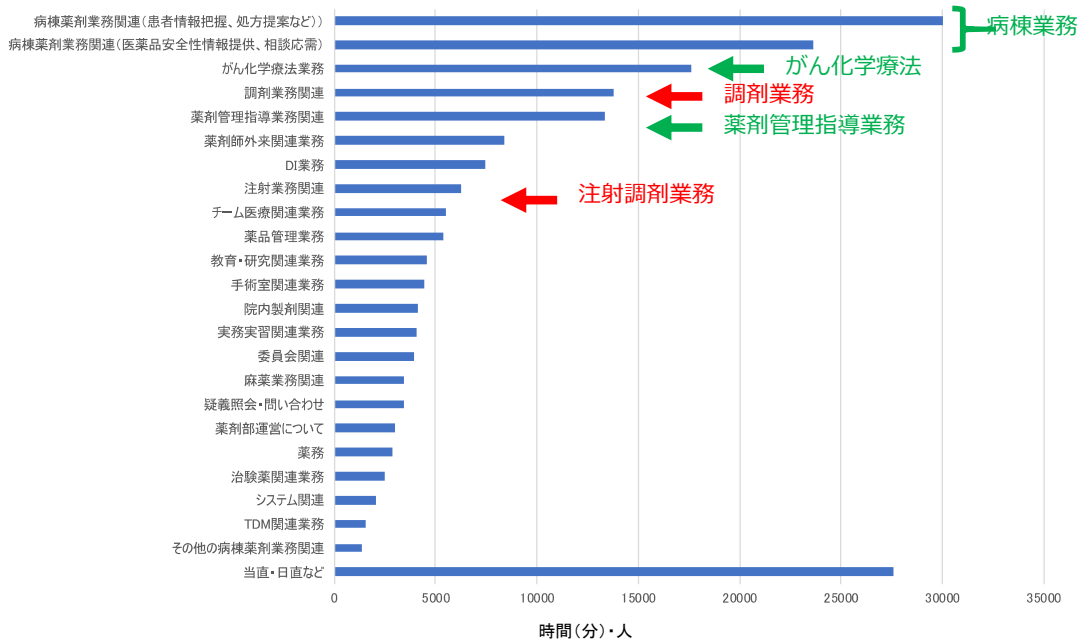
業務の見える化と効率化、実践すべき業務への集中化

- 薬剤部タイムスタディ
薬剤師・レジデント・事務員の
タイムスタディ調査に基づく、
徹底的な業務分析、改善案の検討
- 流動的な業務分担と見える化
2日分の業務分担と配置を掲示し、
流動的な配置と相互の協力を推進
- ロボット・IoT技術の活用
ロボット調剤室、システム化
PFI事業

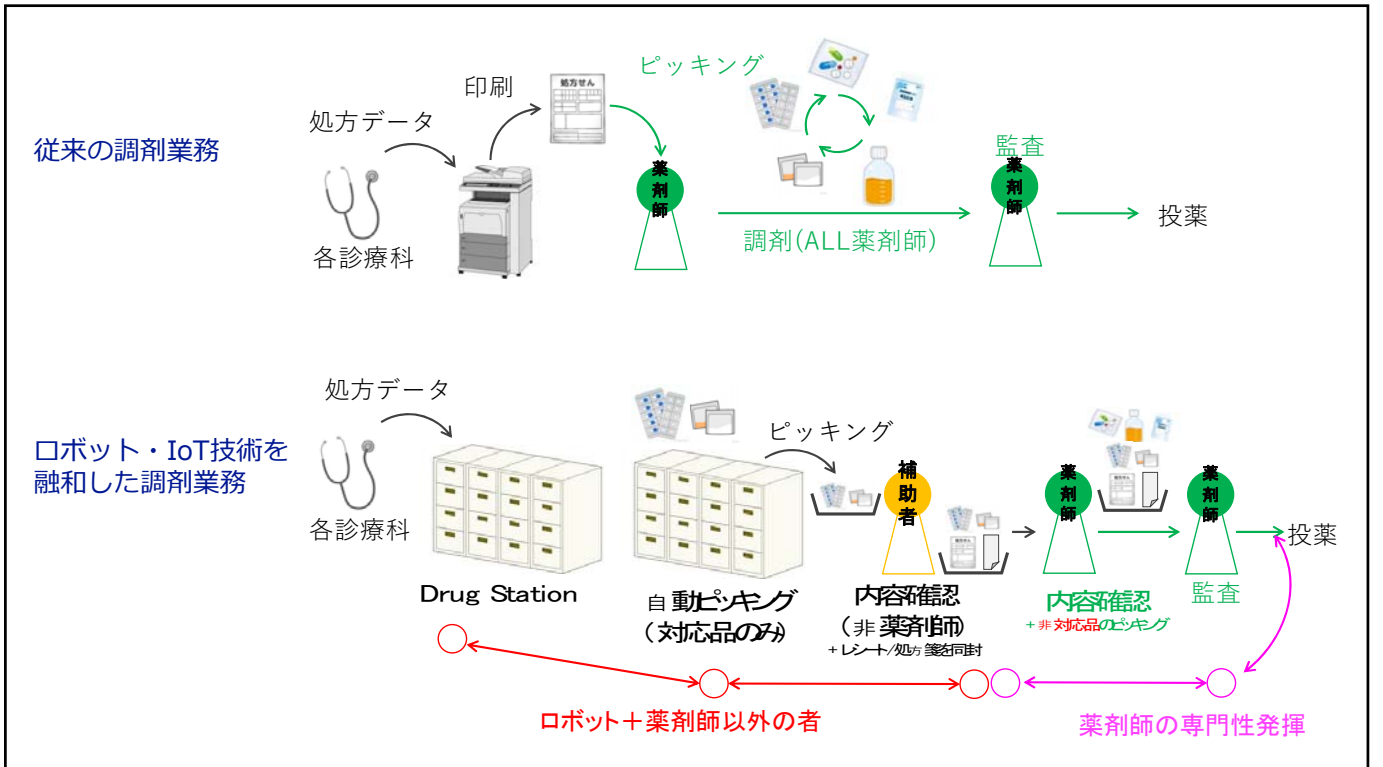


薬剤部タイムスタディ結果 (平成30年12月15日 (土) ~12月21日 (金) の7日間)

薬剤師57人 (アイセンター含む)、レジデント9人、事務員5人 合計 200,190分 (3,336.5時間)



抗がん薬調製ロボット



薬剤師確保に向けた取り組み

□ 詳細な現状調査による客観的なデータの集積

□ 薬剤師確保、処遇改善の要望

自治体病院議員連盟 社会保障審議会医療部会

日本病院団体協議会(日病協)、総務省、厚生労働省

□ ロボット、IoT活用による薬剤業務の質向上

□ 医療の多様化に対応できる人材の育成

公開シンポジウム

地域における効果的な薬剤師確保の
取り組みに関する調査研究

和歌山県立医科大学における薬学部設置と
入学試験地域枠の導入

和歌山県立医科大学薬学部

太田 茂

全国大学における薬学部の設置状況 (平成30年度)

【設置者別】

	国立		公立		私立	
学部数/定員	14	1,129	4	460	57	11,451
6年制学科数/定員	14	471	4	380	62	10,651
4年制学科数/定員	14	658	2	80	15	800
うち医師及び看護師 養成課程を有するもの	14		1		6	

【地区別】

	北海道 地区	東北 地区	関東 地区	関東地区 (東京)	北陸 地区	東海 地区	近畿 地区	中国・ 四国地区	九州・ 沖縄地区	計
学部数	3	6	12	11	3	7	14	11	8	75
6年制学科数	3	6	14	13	3	7	14	11	9	80
4年制学科数	1	2	7	5	2	2	5	3	4	31

(3) 和歌山県における薬剤師の状況

① 地域別（保健医療圏域別）状況

○県内の薬剤師数

	H26 年末	H24 年末	H22 年末
総数	2,163	2,192	2,135
薬局の従事者数	1,053	1,023	951
病院・診療所の従事者数	542	525	520
その他	316	367	367
無職	252	277	297

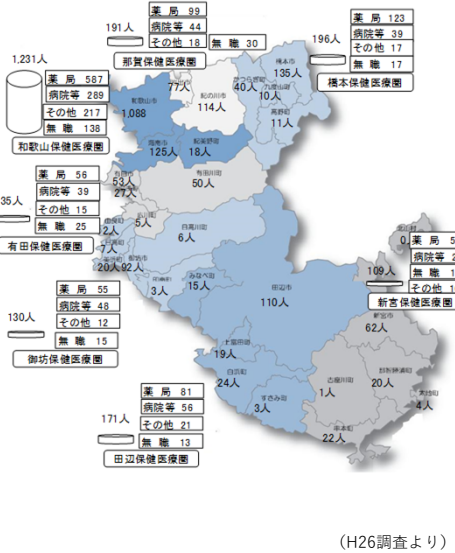
○人口10万人あたり薬剤師数

	H26 年末	H24 年末	H22 年末
全国	226.7	219.6	215.9
滋賀県	207.3	201.3	198
京都府	225.8	218.1	222.8
大阪府	269.9	268.9	268.7
兵庫県	251.1	245.1	239.3
奈良県	190.2	212	196.4
和歌山県	222.8	221.9	213

○保健医療圏別の人口10万人あたり薬剤師数（H26年末）

	総数	薬局従事者	病院等
(参考) 全国	226.7	126.8	43.2
和歌山保健医療圏	289.4	138.0	68.0
那賀保健医療圏	163.0	84.5	37.5
橋本保健医療圏	219.9	138.0	43.7
有田保健医療圏	179.6	74.5	51.9
御坊保健医療圏	202.6	85.7	74.8
田辺保健医療圏	132.0	62.5	43.2
新宮保健医療圏	158.0	75.4	39.1

※人口は、推計人口（H27.1.1）を使用



(H26調査より)

5

和歌山県における薬剤師の状況

○ 県内の薬剤師数

	H28年末	H26年末	H24年末
総数	2,288	2,163	2,192
薬局の従事者数	1,173	1,053	1,023
病院・診療所の従事者数	562	542	525
その他	318	316	367
無職	235	252	277

○ 人口10万人あたり薬剤師数

	H28年末	H26年末	H24年末
全国	237.4	226.7	219.6
滋賀県	219.4	207.3	201.3
京都府	240.4	225.8	218.1
大阪府	290.2	269.9	268.9
兵庫県	264.8	251.1	245.1
奈良県	205.8	190.2	212.0
和歌山県	239.8	222.8	221.9

○ 保健医療圏別の人口10万人あたり薬剤師数（H28年末）

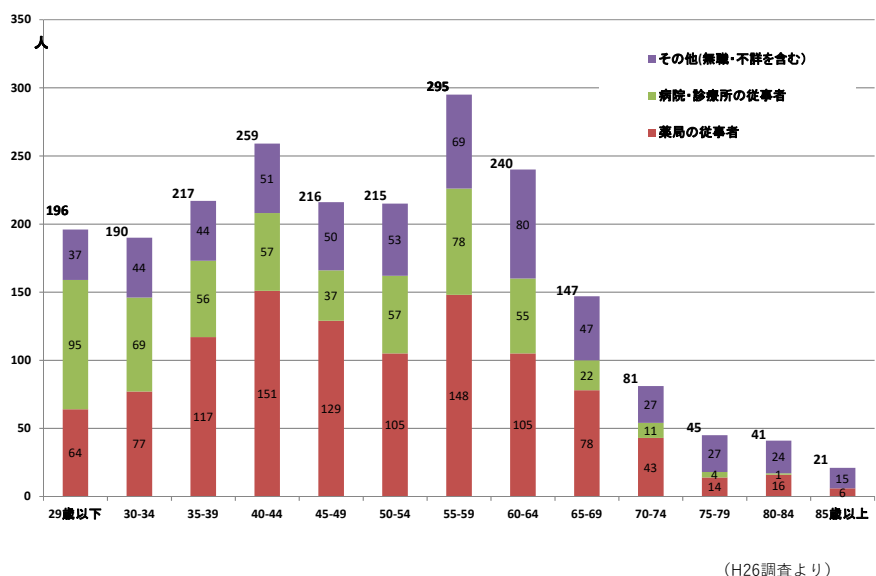
	総数	薬局従事者	病院等
(参考) 全国	237.4	135.6	45.7
和歌山保健医療圏	314.3	159.4	71.3
那賀保健医療圏	176.9	95.4	39.0
橋本保健医療圏	213.3	129.6	45.9
有田保健医療圏	180.3	69.6	53.3
御坊保健医療圏	216.7	94.0	79.7
田辺保健医療圏	146.2	81.4	47.4
新宮保健医療圏	177.1	96.1	40.5

薬剤師の偏在が顕著

(H28調査より)

6

③ 年齢別状況（和歌山県内薬剤師の従事先別年齢構成）



7

和歌山県における薬剤師の状況

- 和歌山市では全国平均以上の薬剤師数を維持している。
- 和歌山県東部、中部、南部では薬剤師数が少ない。



県内の薬剤師の偏在が顕著

和歌山県南部において薬局従事者の高齢化が顕著

和歌山県立医科大学における薬学部開設の意義

医薬系の医療系総合大学として教育面・研究面・臨床面において発展を遂げる機会となる。

教育面：共通講義や臨床実習等を通じ、医療人として専門的な教育が実施できる。

研究面：薬学部と既存学部が人的・物的に密接に連携し、治験や創薬など研究の更なる活性化を図る。

臨床面：附属病院を持つ強みを活かし、「チーム医療」を担う指導的な薬剤師を養成する。

また、**卒業生が和歌山県内の病院等で活躍することで、地域医療の水準が底上げされる。**

9

【教育目標】

- ・ 薬学に関する幅広い専門知識と**医療人**としての使命感・倫理観を有し、高い実践能力を養い、医療の現場で活躍できる人材を育成する。
- ・ 医療現場での**多職種協働**に対応できる高い能力を備え、意欲的で協調性の高い人材を育成する。
- ・ 薬学の専門家として医療、衛生薬学、創薬などの領域で高度で専門的な知識と**研究マインド**を持った人材を育成する。
- ・ 科学的根拠に基づき判断・解決できる能力を有し、**社会の要請**に応じた活躍ができる人材を育成する。
- ・ **地域の医療**、健康福祉及び予防医学の向上に寄与できる人材を育成する。
- ・ **国際的**に薬学研究、臨床薬学において活躍できる人材を育成する。

10

卒後研修制度の導入

- 和歌山県の高等学校卒業者と扶養義務者が和歌山県在住の者が対象
- 学校推薦型選抜の県内枠として募集
- 1学年15名程度
- 卒後2年間の研修 1年目（和歌山市） 2年目（和歌山市以外）
- 研修終了後に希望があれば、県内薬局、病院への就職を斡旋
- 県薬剤師会、県病院薬剤師会は概ね了承

学校推薦型選抜・県内枠

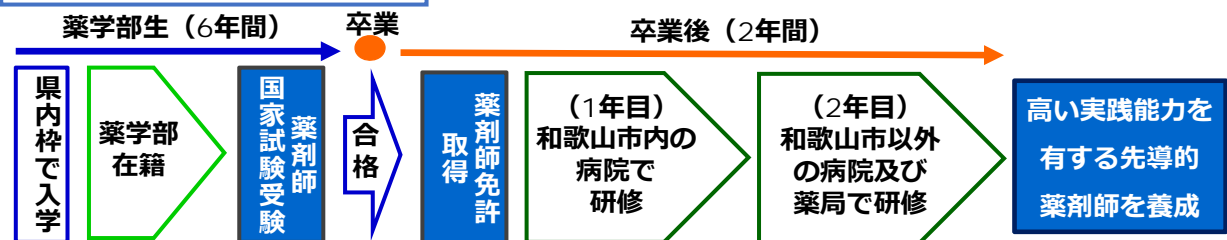
【目的】

・本学では、先進医療を行う病院から地域の病院・薬局の業務までの**2年間にわたり横断的な研修**を行うことにより、国際的にも通用する高度な薬学の専門知識を有しながら患者・生活者の立場に立って、**和歌山県内の医療に貢献する先導的な薬剤師を養成します。**

【県内枠としての主な出願資格】

- ・和歌山県内の高等学校を令和3年3月に卒業した者及び令和4年3月卒業見込みの者。または、和歌山県外の高等学校を令和3年3月に卒業した者及び令和4年3月卒業見込みの者であって、出願時、扶養義務者（現に本人を扶養している者）が引き続き3年以上和歌山県内に居住している者。
- ・県内枠の出願時、卒業後2年間、和歌山県内の病院・薬局でキャリア形成を行うことに同意する旨の誓約書を提出していただきます。

キャリア形成プログラム（予定）



県内卒学生の現状

- 令和3年度入試倍率 2.1倍 → 15名入学
- 令和4年度入試倍率 2.7倍 →
- 一般選抜、学校推薦型選抜（全国卒）と共通テストでの顕著な差はない

対象学生に対する聞き取り調査

多くの学生が卒後研修のみではなく地域医療に関する取り組みのプログラム（実習）を希望している

卒後研修制度の課題

- 魅力ある研修プログラムの作成（卒前プログラムとの連携）
- 研修実施施設の決定（病院と薬局の連携を含めて）
- 研修生に対する奨学金（給与相当）の確保
- 研修後のキャリアパス支援

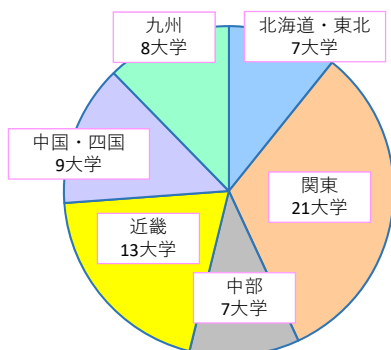
薬科大学・薬学部 および 薬学5年・6年生に対する アンケート調査結果

帝京大学薬学部
地域医療薬学研究室

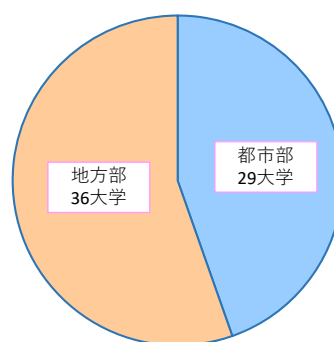
安藤 崇仁

薬科大学・薬学部アンケート結果

地方別回答大学数



地域別回答大学数



回答総数 65大学

貴大学の薬学部の実習時期はいつですか。

I 期	II 期	III 期	IV 期
60	64	63	51

(n=65)

病院実習の実習受け入れ先医療機関の件数を、貴大学の**所在都道府県とそれ以外**で教えてください。

実数合計 (n=65)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
都道府県内	1,988 件	1,895 件	1,901 件
都道府県外	2,048 件	1,963 件	1,820 件

県内率平均 (全体)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
全体	58.9	59.5	60.9

県内率平均 (大学所在地の都市部・地方部別)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
都市部	50.4	51.2	52.3
地方部	65.8	66.2	67.8

病院実習の実習受け入れ先医療機関の件数を、**都市部・地方部**で教えてください。

実数合計 (n=62)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
都市部	2,145 件	2,136 件	2,058 件
地方部	1,691 件	1,553 件	1,528 件

都市部率平均 (全体)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
全体	44.2	46.0	46.2

都市部率平均 (大学所在地の都市部・地方部別)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
都市部	84.6	86.7	85.9
地方部	10.9	12.5	13.5

薬局実習の実習受け入れ先医療機関の件数を、貴大学の**所在都道府県とそれ以外**で教えてください。

実数合計 (n=65)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
都道府県内	4,288 件	4,099 件	4,026 件
都道府県外	3,283 件	3,173 件	3,122 件

県内率平均 (全体)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
全体	65.6	66.0	65.9

県内率平均 (大学所在地の都市部・地方部別)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
都市部	55.3	56.3	56.1
地方部	73.9	73.9	73.8

薬局実習の実習受け入れ先医療機関の件数を、**都市部・地方部**で教えてください。

実数合計 (n=62)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
都市部	4,380 件	4,355 件	4,264 件
地方部	2,826 件	2,610 件	2,603 件

都市部率平均 (全体)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
全体	46.0	46.9	45.9

都市部率平均 (大学所在地の都市部・地方部別)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
都市部	89.2	90.1	88.8
地方部	10.4	11.3	10.6

附属施設の有無による実習受け入れ先の県内率および都市部率

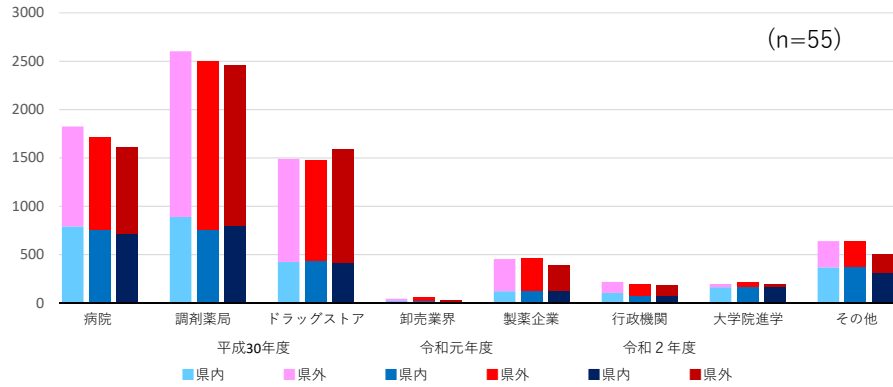
県内率平均 (附属**病院**の有無別)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
附属 病院あり (27大学)	73.1	71.5	76.5
附属 病院なし (38大学)	48.8	51.0	49.8

県内率平均 (附属**薬局**の有無別)

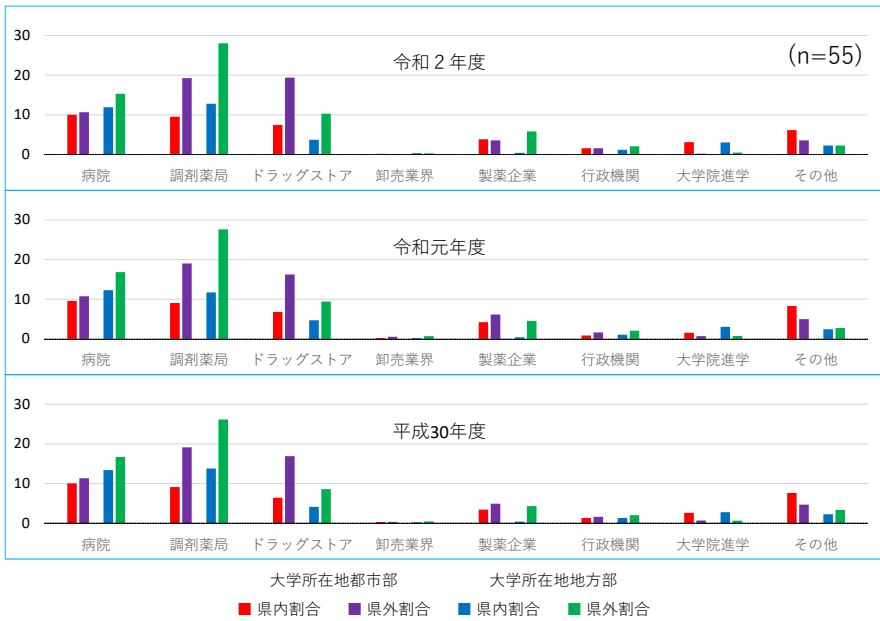
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
附属 薬局あり (9大学)	74.4	74.3	72.1
附属 薬局なし (56大学)	64.2	64.7	64.9

2018～2020年度(平成30年度～令和2年度)の薬学部卒業生の進路状況を、貴大学の所在都道府県とそれ以外でお答えください。(実数)

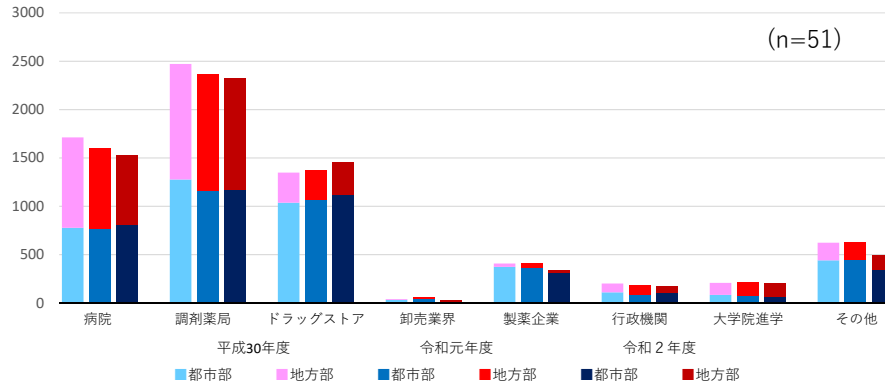


		病院	調剤薬局	ドラッグストア	卸売業界	製薬企業	行政機関	大学院進学	その他
平成30年度	県内	792	889	423	19	120	103	162	368
	県外	1032	1713	1067	24	333	113	33	271
令和元年度	県内	758	758	434	17	128	71	170	379
	県外	958	1742	1036	40	336	117	43	262
令和2年度	県内	717	797	416	15	129	79	164	314
	県外	891	1663	1175	16	262	109	24	187

大学所在地(都市部・地方部別)による都道府県内・外への就職割合

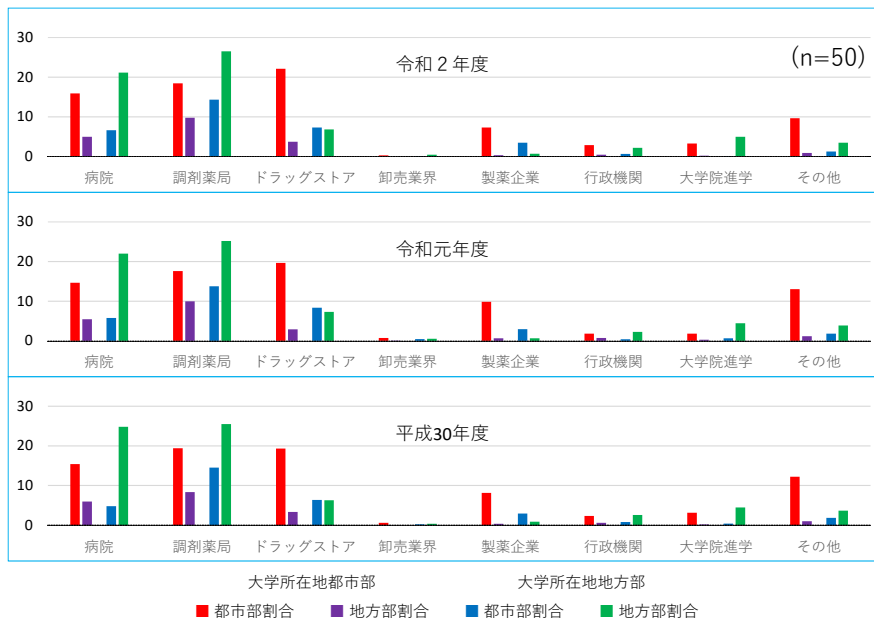


2018～2020年度(平成30～令和2年度)の薬学部卒業生の進路状況を、都市部・地方部でお答えください。(実数)



		病院	调剂薬局	ドラッグストア	卸売業界	製薬企業	行政機関	大学院進学	その他
平成30年度	都市部	776	1277	1036	32	372	109	83	441
	地方部	936	1195	312	8	35	91	124	182
令和元年度	都市部	764	1156	1069	41	365	85	78	446
	地方部	832	1205	306	15	47	94	139	186
令和2年度	都市部	807	1168	1118	16	314	102	67	341
	地方部	717	1155	341	14	29	71	142	155

大学所在地(都市部・地方部別)による都市部・地方部への就職割合



2018～2020年度(平成30～令和2年度)の求人状況(大学所在の都道府県内・外)をお答えください。

平成30年度 (n=35)		令和元年度 (n=36)		令和2年度 (n=36)	
県内率	県外率	県内率	県外率	県内率	県外率
12.0	88.0	12.5	87.5	11.6	88.4

2018～2020年度(平成30～令和2年度)の求人状況を、都市部・地方部でお答えください。

平成30年度 (n=28)		令和元年度 (n=29)		令和2年度 (n=29)	
都市部率	地方部率	都市部率	地方部率	都市部率	地方部率
49.2	50.8	45.7	54.3	46.5	53.5

貴大学において、最初に就職に関するガイダンスが行われるのはいつですか。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	8	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2年生	2	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0
3年生	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
4年生	6	1	2	0	0	1	0	0	0	4	12	0
5年生	4	7	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(n=59)

貴大学において、就職支援として実施しているものをすべてお答えください。

求人情報の公開	インターンシップ情報の公開・募集	就職相談	面接指導	OB・OG紹介	学内合同説明会 (企業が参加するもの)	学内合同説明会 (薬局・店舗販売業が参加するもの)	学内合同説明会 (病院が参加するもの)	キャリアに関する講演・講座	その他
63	61	60	58	36	57	54	57	58	11

(n=63)

薬局・店舗販売業・病院が参加する学内合同説明会を開催している場合、2020年度卒業生に対して、最初に開催した時期はいつですか。

薬局・店舗販売業が参加

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
2年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4年生	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	3	3
5年生	0	1	0	0	0	0	0	7	3	1	7	16
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

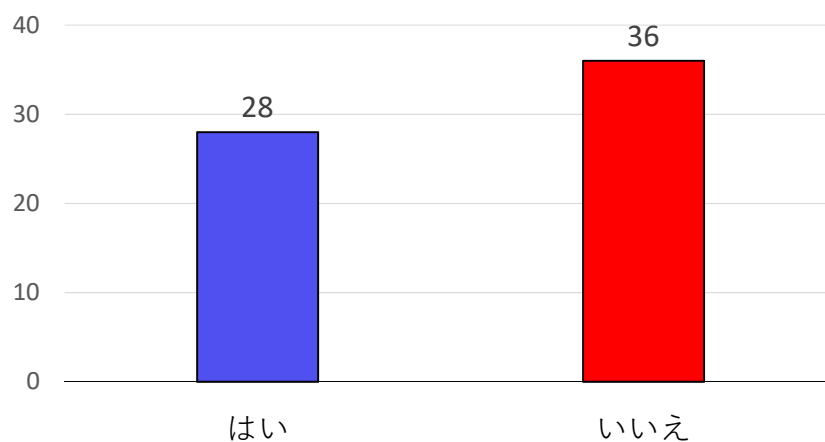
(n=47)

病院が参加

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
2年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4年生	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	2
5年生	1	1	0	0	1	0	0	7	3	1	9	17
6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

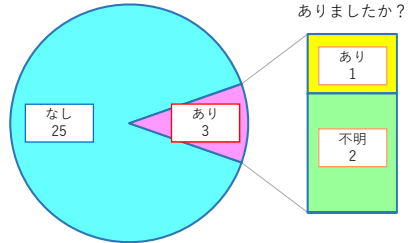
(n=50)

貴大学において、県内又は県外の薬剤師不足県・地域や薬剤師不足の病院・薬局への就業を促す取組や地域医療に関する教育を行っていますか。

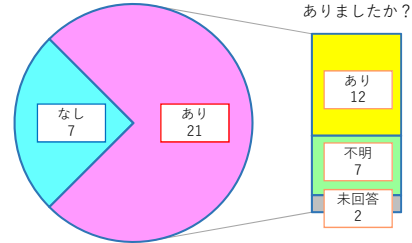


薬剤師不足県・地域や薬剤師不足の病院・薬局への就業を促す取組や地域医療に関する教育

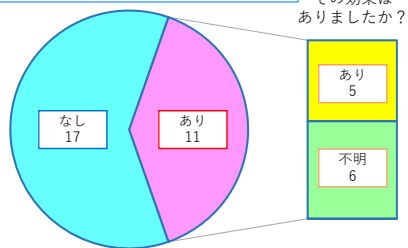
地域枠の設定



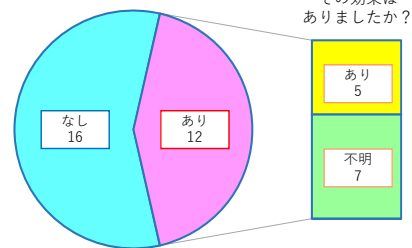
就職説明会・相談会の開催（薬剤師不足の県・地域・病院・薬局が参加）



薬剤師不足の県・地域・病院・薬局からの求人とのマッチングの取組

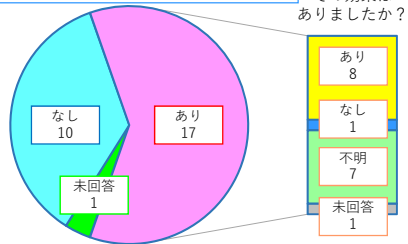


奨学金・奨学金返済サポート

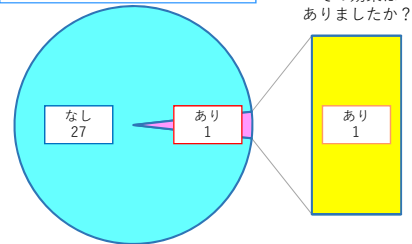


薬剤師不足県・地域や薬剤師不足の病院・薬局への就業を促す取組や地域医療に関する教育

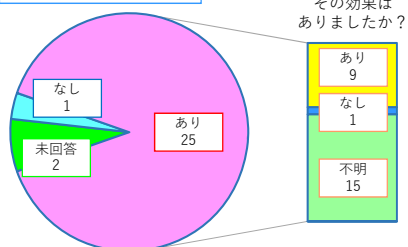
薬剤師不足県・地域（県内/県外）における実務実習



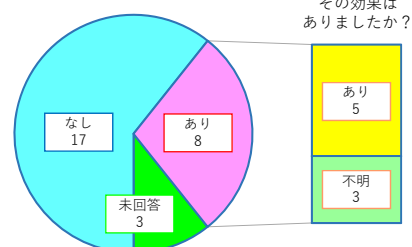
自治体等との薬剤師確保に係る協定の締結



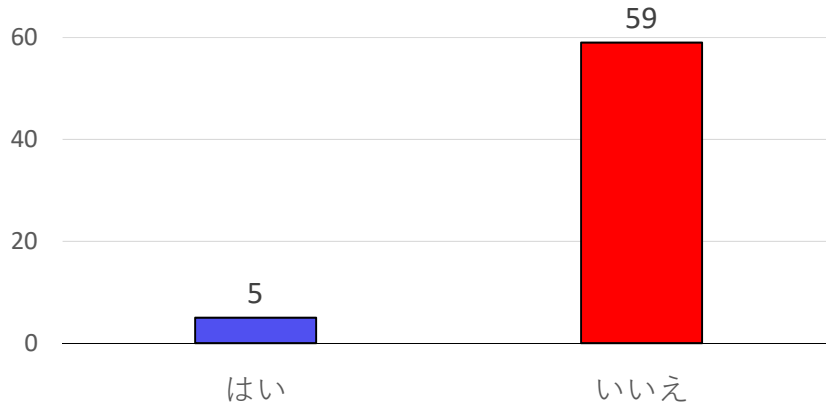
地域医療に関する教育（講義、実務実習等）



その他の取組



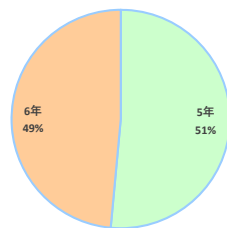
薬学部卒業生の離職率を把握していますか。



薬学5・6年生Webアンケート結果 (調査期間:2021.11.25~2021.12.31)

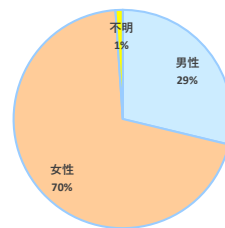
Web回答総数 : 2345件
 有効回答数 : 2302件
 (不同意 : 43件)

回答者学年 (2302人)



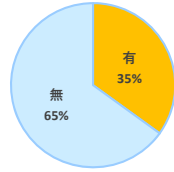
5年	1185
6年	1117

性別 (2302人)



	5・6年	5年	6年
男性	662	331	331
女性	1615	839	776
不明	25	15	10

奨学金借入状況 (2302人)



総額1000万円以上:142人

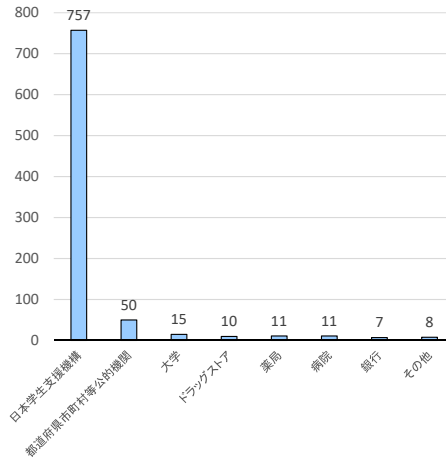
利用している奨学金制度

貸与(無利子)	424
貸与(有利子)	573
給付型	131

奨学金返済の支援先

公的機関(都道府県市町村等)	30
病院	23
保険薬局	53
ドラッグストア	13
支援なし	677

奨学金借入先



就職活動状況

就職活動	5・6年	5年	6年
就職活動終了	1072	18	1054
就職活動中	788	764	24
未活動	442	403	39

就職活動終了
1072人
(5年18人、6年1054人)

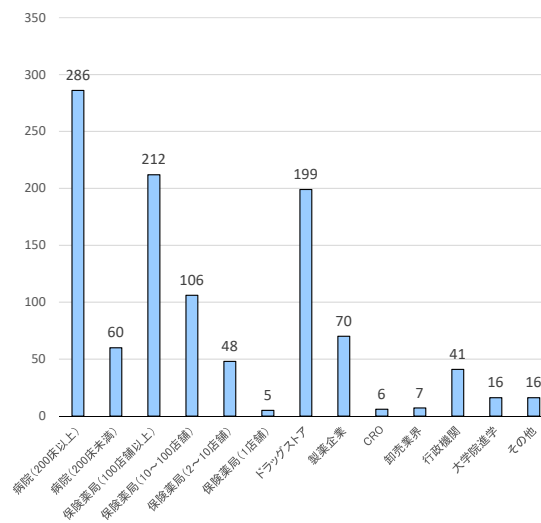
就職先勤務地

都市部(都区部、指令指定都市)	361
地方部	259
出身地	463
出身大学の所在地	129
その他	93

内定時期

5年生前期	20
5年生後期	150
6年生前期	821
6年生後期	70
その他	11

就職先分類 (5・6年生1072人)



内定薬局/ドラッグストアの分類

地域連携薬局	295
専門医療機関連携薬局	131
健康サポート薬局	253
いずれにも該当しない	21
不明	174

(対象570人)

内定病院の医療機能別分類

高度急性期病院	92
急性期病院	168
回復期病院	11
慢性期病院	23
その他	8
不明	30

(回答者332人)

実習前後で就職希望先は変化したか？

はい	392
いいえ	680

内定薬局/ドラッグストアと実務実習先との関係

実習先である	59
実習先でない	511

内定病院と実務実習先との関係

実習先である	68
実習先でない	277

実習前の就職希望先 (対象392人)

病院 (200床以上)	144
病院 (200床未満)	34
保険薬局 (100店舗以上)	55
保険薬局 (10~100店舗)	26
保険薬局 (2~10店舗)	19
保険薬局 (1店舗)	1
ドラッグストア	36
製薬企業	42
卸売業界	1
行政機関	13
大学院進学	7
その他	14

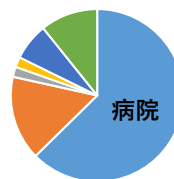
内定先初年度給与水準

300万円未満	158
300~400万円	518
400~500万円	235
500~600万円	63
600~700万円	9
700~800万円	1
800~900万円	2
900~1000万円	0
1000万円以上	1

(n=987)

給与300万円未満の業種分類

(n=158)



■病院 ■保険薬局 ■ドラッグストア ■製薬企業 ■行政機関 ■その他

給与500~600万円の業種分類

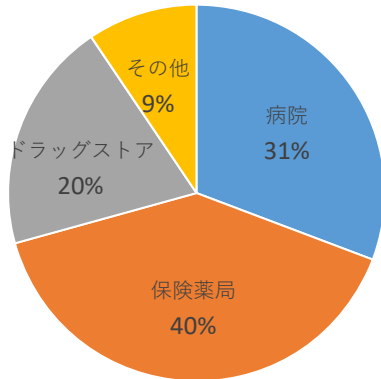
(n=63)



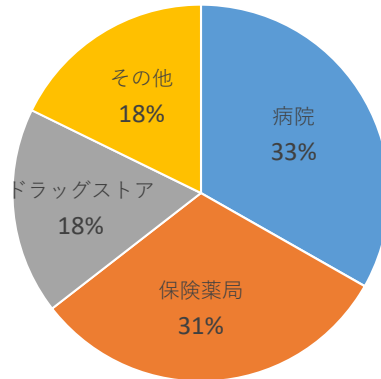
■病院 ■保険薬局 ■ドラッグストア ■製薬企業 ■行政機関 ■その他

借入の有無と内定先割合

奨学金の借入がある学生



奨学金の借入がない学生



就活終了者の勤務先決定の決め手	第1位	第2位	第3位
業務内容・やりがい	358	166	116
勤務予定地	142	175	163
給与水準	128	156	133
福利厚生	102	172	154
研修制度等スキルアップのための制度	87	77	94
採用活動の内容や担当者とのコミュニケーション	49	68	67
キャリアパス	39	56	59
研究・学習環境	38	35	41
奨学金・返済サポート制度	33	12	11
実務実習の実施・受入やその内容	16	15	16
昇給制度や給与カーブ	14	29	40
夜勤の有無や条件	9	11	22
勤務時間の柔軟さ	7	12	30
勤務時間の長さ	6	19	29
育休等の休業・休職制度	6	22	35
離職率	5	13	17
採用活動を実施している期間・時期	3	8	24
応募時に併願ができたこと	3	6	7
その他	27	20	14

就活にあたり参加したプログラム

外部で開催される合同説明会	667
大学内で開催される合同説明会	658
就職先が開催する個別説明会	684
インターンシップ	514
OB・OG訪問	102
大学の就職相談	191
大学で公開された求人情報	140
大学で開催されたキャリアに関する講演・講座	220
その他	52
どれも参加していない	37

内定先を初めて知るきっかけとなったプログラム

外部で開催される合同説明会	246
大学内で開催される合同説明会	170
就職先が開催する個別説明会	163
インターンシップ	88
OB・OG訪問	29
大学の就職相談	26
大学で公開された求人情報	40
大学で開催されたキャリアに関する講演・講座	19
実務実習	124
その他*	

*インターネット、マイナビ、アルバイト、
家族・友人の紹介、病院見学、等

就職活動中 788人

(5年764人、6年24人)

現在までの内定の有無

はい	12
いいえ	776

現在までの内定先

病院	0
保険薬局 (100店舗以上)	3
保険薬局 (10店舗以上)	2
保険薬局 (2店舗以上)	3
保険薬局 (1店舗)	0
ドラッグストア	3
医療機器	1

(対象12人)

内定薬局/ドラッグストア と実務実習先の関係

実習先である	1
実習先ではない	10

実習前後で就職希望先は 変化したか？

はい	250
いいえ	538

就職希望先

	第1希望	第2希望	第3希望
病院 (200床以上)	236	97	94
病院 (200床未満)	32	140	54
保険薬局 (100店舗以上)	172	185	145
保険薬局 (10~100店舗)	74	138	157
保険薬局 (2~10店舗)	28	33	66
保険薬局 (1店舗)	8	11	17
ドラッグストア	113	105	158
製薬企業	71	24	34
CRO	5	7	0
卸売業界	3	8	10
行政機関	26	17	22
大学院進学	6	7	13
その他	14	16	18
合計	788	788	788

59) 薬剤師の勤務地に偏在があることはご存知ですか？

よく知っている	812
まあ知っている	1131
あまり知らない	312
全く知らない	47

60) 薬剤師の不足地域の薬局や病院に卒業後直ちに就職する意向

ある	690
ない	1612

61) 前問で「ない」と答えた方で、内定先が都市部と答えた方に対して、将来的に地方の薬局や病院で勤務する意向は？

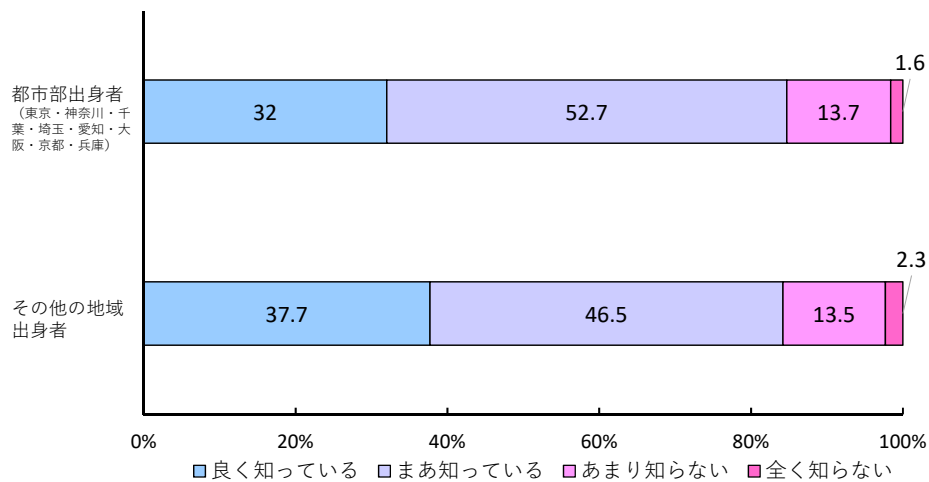
ある	591
ない	703

62) 前問で「ない」と答えた方で、地方部での就職を希望しない理由の第1位

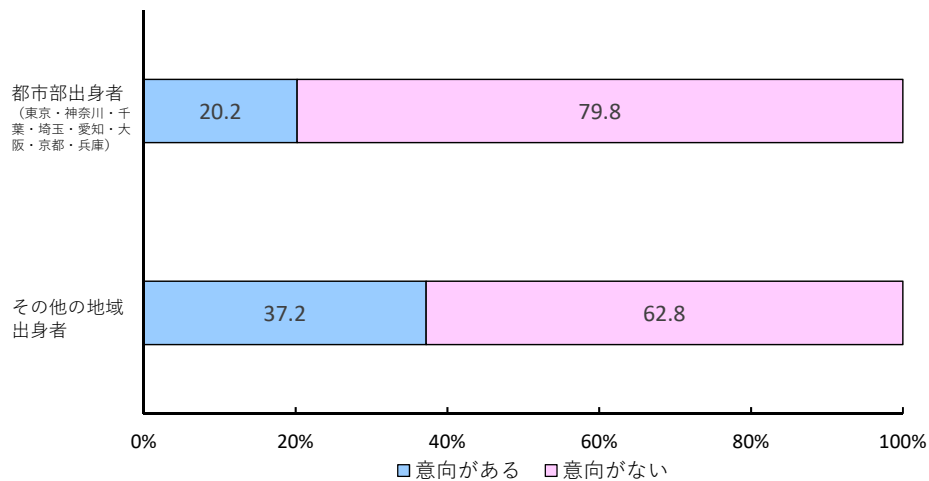
業務内容・やりがい	65
給与水準	38
福利厚生	14
研修制度等スキルアップのための制度	15
キャリアパス	19
研究・学習環境	20
奨学金・返済サポート制度	2
昇給制度や給与カーブ	5
夜勤の有無や条件	5
勤務時間の柔軟さ	19
勤務時間の長さ	21
育休等の休業・休職制度	9
その他*	471

*都市部に居住したい、交通の便、実家が都市部、生活における利便性、

薬剤師の勤務先の地域偏在を知っているか 都市部(東京・神奈川・千葉・埼玉・愛知・大阪・京都・兵庫)出身者と その他の地域出身者の比較



卒業直後に薬剤師不足地域へ就職する意向があるか 都市部(東京・神奈川・千葉・埼玉・愛知・大阪・京都・兵庫)出身者と その他の地域出身者の比較



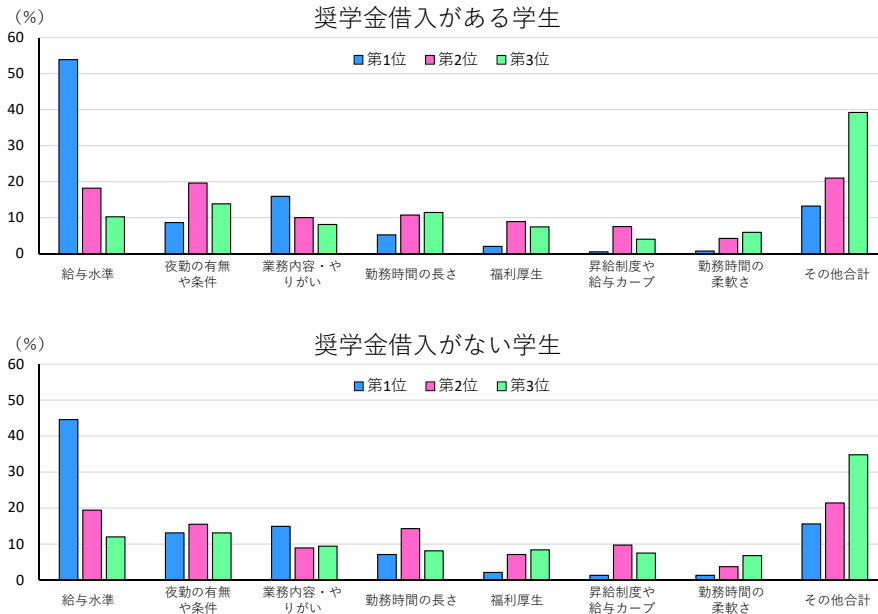
薬剤師が不足している病院があることはご存知ですか？

よく知っている	684
まあ知っている	898
あまり知らない	352
全く知らない	49

卒業後直ちに病院に就職することを希望していない人の理由

	第1位	第2位	第3位
業務内容・やりがい	193	116	110
勤務予定地	22	52	63
給与水準	605	237	140
福利厚生	26	96	99
研修制度等スキルアップのための制度	15	10	23
採用活動の内容や担当者とのコミュニケーション	9	9	29
キャリアパス	14	35	42
研究・学習環境	10	14	6
奨学金・返済サポート制度	7	12	16
実務実習の実施・受入やその内容	9	7	19
昇給制度や給与カーブ	13	111	78
夜勤の有無や条件	146	211	164
勤務時間の柔軟さ	14	48	80
勤務時間の長さ	82	163	114
育休等の休業・休職制度	3	17	31
離職率	9	29	69
採用活動を実施している期間・時期	11	27	45
応募時に併願ができたこと	21	20	61
その他	57	33	43
回答者に非該当	337		

借入の有無と病院へ就職を希望しない理由



現在、高度急性期病院や急性期病院への就職を希望している方にお尋ねします。
 将来、回復期病院や慢性期病院へ行って地域医療に貢献したいと考えますか。

考える	206
考えない	66
回答者に非該当	65

回復期病院や慢性期病院への就職を希望しない理由 (n=66)

	第1位	第2位	第3位
業務内容・やりがい	44	9	9
給与水準	2	4	3
福利厚生	0	1	3
研修制度等スキルアップのための制度	3	14	13
キャリアパス	2	5	12
研究・学習環境	7	17	8
昇給制度や給与カーブ	0	2	2
夜勤の有無や条件	1	1	6
勤務時間の柔軟さ	1	1	1
勤務時間の長さ	2	3	1
育休等の休業・休職制度	0	1	0
その他	4	8	8

薬学生の意見（自由記載）

- 奨学金を借りていると、病院薬剤師としてやりがいを取るか、薬局薬剤師として給与を取るかで悩む（5年女性）。
- 病院志望でしたが、多額の奨学金と保険薬局の奨学金サポート制度に合格したため断念しました。似た境遇の方も多いのではないのでしょうか（6年男性）。
- 奨学金を多額に借りているため、給料が高い所を選ばざるを得ない（6年男性）。
- 病院薬剤師が不足している第一の理由であり、最大の理由は給与です。医療法人とそうでない薬局との違いかもしれませんが、あまりにもやりがい搾取がすぎる（6年男性）。
- 病院は併願が出来ない、薬局に比べ仕事がハード、募集枠が少ない、給与が低いなど薬局やドラッグストアに比べてデメリットが多すぎると思う。病院こそ優秀な人材が必要だと思うが、仕事に見合った給与が支給されないのは残念（6年女性）。
- 医療の現場で働く薬剤師の地位の向上や一般の方への職務内容の周知を積極的に行うことが、薬剤師の就職状況の改善には必要ではないかと感じた（6年女性）。
- 一概に薬局、病院という考えではなく、垣根を超えて柔軟に働くなど何かあればいいと思いました（6年女性）。
- 病院での研修で、研修医制度のようなものがあったらいいと思いました。レジデントは給与が低いのでやりたくはありませんが...（5年男性）。
- 新卒で地方の薬剤師の足りない病院へ就職するのは学びの面でもかなり不安があります（5年女性）。

- 自分の場合は大学病院のレジデントや病院薬剤師に興味がありましたが、病院に就職された先輩との関わりなどがなかなか無く、就活の情報収集が難しかったです。自分から連絡をとって動いてみることの大切さを痛感しました。就職先の決め手は病院見学の際の雰囲気だったのですが、コロナの流行のなかでもオンラインでなく実際に見学してその病院のスタッフの方との交流があったからこそ受験する気持ちになれました。将来的には地方の小規模な病院などでも働きたいですが、一番最初に働くならば経験を積みたいと思い大学病院での就職を決めました（6年女性）。
- 就職活動中、病院就職も検討したが中小規模の病院の多くはマイナビ等の就職サイトに掲載されておらず、1つ1つ比較するのが大変だった。そのため、うまくアプローチできないこともあった（6年男性）。
- 病院の募集要項や薬剤部の活動内容等の情報開示が病院によってまちまちであると感じ、選択しにくい（5年女性）。
- 病院の就活について公開されている情報が薬局などと比較すると少ないので、まとまった情報が得られる就活サイトなどがあると便利だと感じている（5年男性）。
- オンラインによる合同説明会やインターンシップの開催をコロナが終息後も継続してほしいです。在住地から遠方へ気軽にインターンシップに参加することができ様々な特色を知ることができました（6年女性）。
- 実務実習が進路決定に与える影響は大きいと思う（6年男性）。
- 実務実習が4期のため、ほかの期間に実習している方より就職活動に遅れが出たり、就職活動が雑になってしまうのが不安（5年女性）。

公開シンポジウム参加者事後アンケート結果

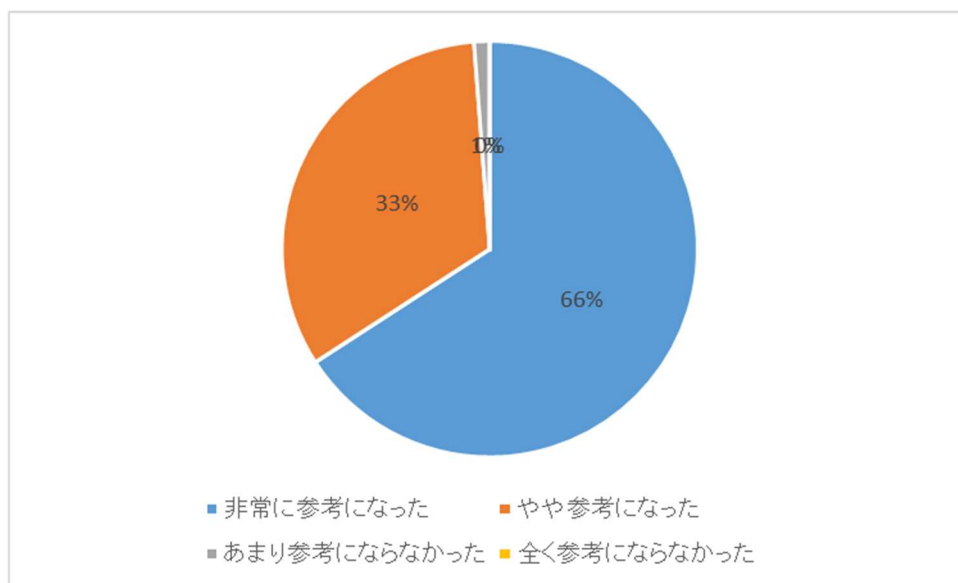
2022年2月27日にハイブリッド開催した公開シンポジウムの参加者およびオンデマンド配信した録画の視聴者を対象に Microsoft Forms を用いたアンケート調査を実施した。3月31日までに82件の有効回答が寄せられた。

以下に、アンケートの調査項目と寄せられた回答の集計結果を示す。

シンポジウム「地域における効果的な薬剤師確保の取組に関する調査研究」にご参加ありがとうございました。本シンポジウムに参加された皆様を対象に無記名のアンケート調査を実施いたします。アンケート結果は、次年度の研究班の活動に活かしたいと考えておりますので、ご協力をお願い申し上げます。

問1. 今回のシンポジウムは、お役に立ちましたでしょうか。(n=82)

非常に参考になった	54
やや参考になった	27
あまり参考にならなかった	1
全く参考にならなかった	0



問2. 薬剤師の地域偏在の解消に有効と思う取組はどれですか（複数選択可）。

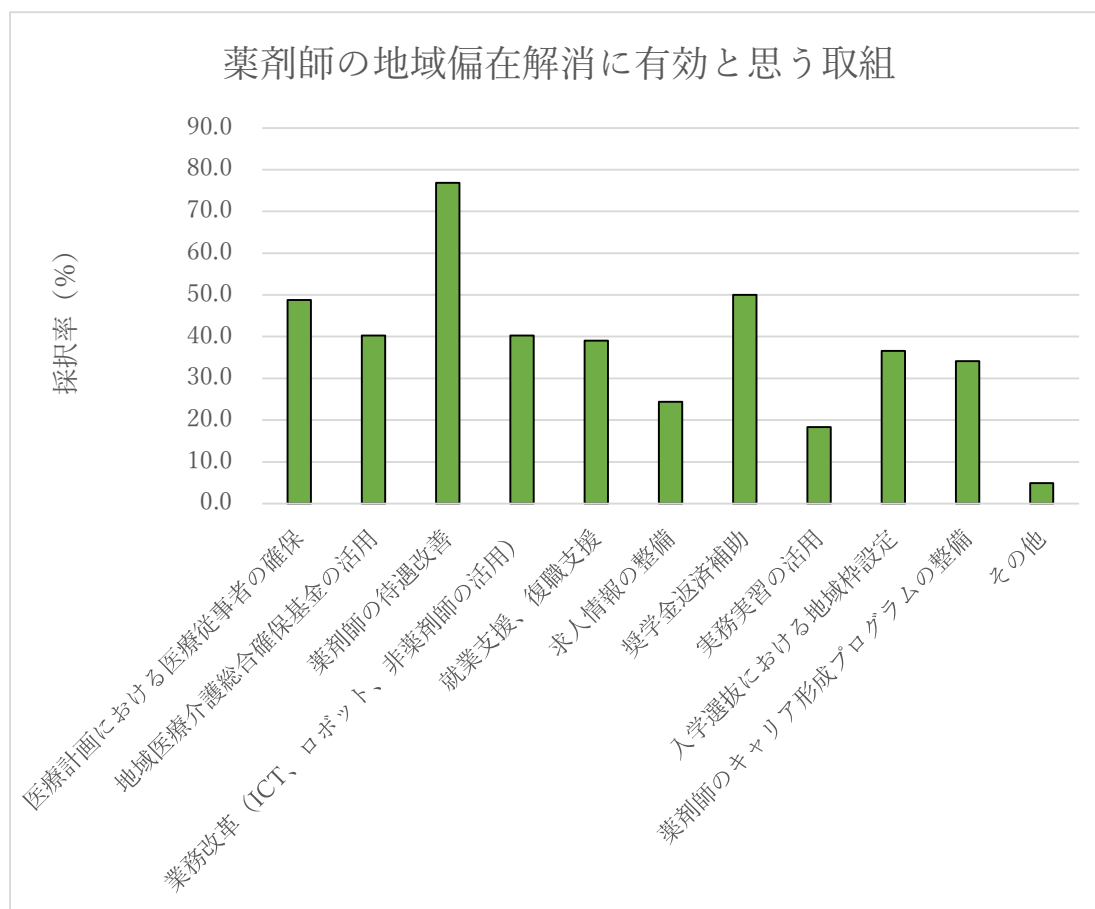
医療計画における医療従事者の確保	40
地域医療介護総合確保基金の活用	33
薬剤師の待遇改善	63
業務改革（ICT、ロボット、非薬剤師の活用）	33
就業支援、復職支援	32
求人情報の整備	20
奨学金返済補助	41
実務実習の活用	15
入学選抜における地域枠設定	30
薬剤師のキャリア形成プログラムの整備	28
その他	4

適正な学部定員、

M次カーブ世代の復職支援に関する制度的な仕組み、

学費の軽減、

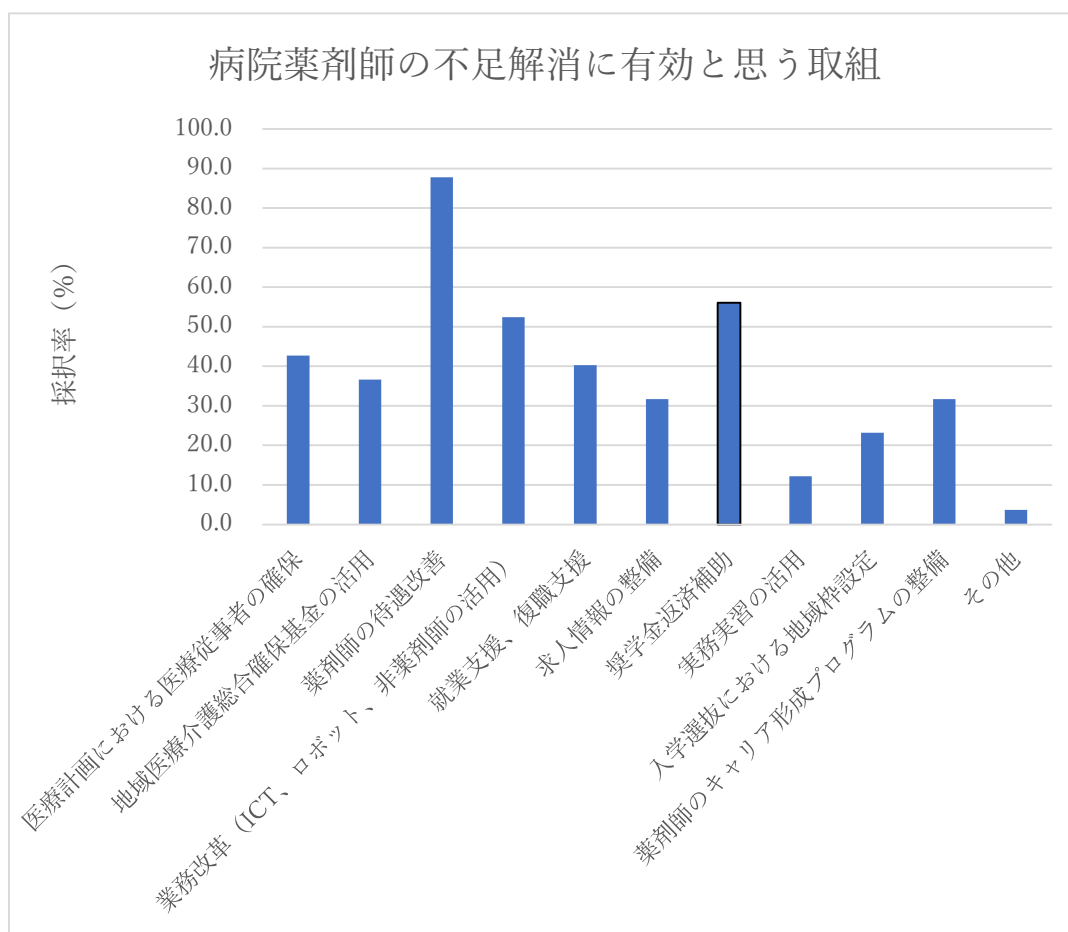
人材の融通



問3. 病院薬剤師の不足解消に有効と思う取組はどれですか（複数選択可）。

医療計画における医療従事者の確保	35
地域医療介護総合確保基金の活用	30
薬剤師の待遇改善	72
業務改革（ICT、ロボット、非薬剤師の活用）	43
就業支援、復職支援	33
求人情報の整備	26
奨学金返済補助	46
実務実習の活用	10
入学選抜における地域枠設定	19
薬剤師のキャリア形成プログラムの整備	26
その他	3

研修医制度のような新卒者の病院勤務、
適正な学部定員、
薬剤師レジデント制度の導入



問4. 薬剤師の地域偏在や業態の偏在について、あなたのお考えをお聞かせください。

(コメント 45 件)

- 病院薬剤師の初任給が上がれば、病院への就職希望は増えると思うので、まずはこの点を整備することが重要だと思います。
- 地域で働く魅力を伝えられる場を設ける
- 特に地域医療に対する薬剤師の役割について、各地域で積極的に進めている方々はいらっしゃるが、やはりロールモデルとして確立するには至っていないように感じる。そのため、既に（まだまだ改善の余地はあるが）ある程度業務として確立している大病院における薬剤業務や処方箋調剤中心の薬局業務が目立ち、けっかとして、そのような業態に人材が偏在するのではないかと考えている。
- "地域偏在は薬剤師に限ったことではないと考えます。他の医療職種と協同して考えていく必要があるかと思います。学生から病院への就職に関して、自分の能力ではついていけないからあきらめたと聞いたことがあります。薬学部の入学生が増えるにつれて学力は低下しているにもかかわらず、薬剤師として求められる能力は上がっています。薬剤師数や大学入学定員数の調整は必要だと思います。"
- 地域薬剤師活動に寄与することをキャリア形成上の必須事項としてはいかがでしょうか。
- ドラッグストアの破格の給料、実際に就業してからの苦労は、採用担当者の話だけでは知りえない。
- 薬剤師免許を持っていても就労していない人を発掘し、採用に繋げることのできる方法があると良いと思います。
- 病院も調剤薬局も求められる内容が難しくなっています。薬学部や薬科大学の学力の基礎的な学力の強化も必要ではないかと思います。
- 地域偏在や業態による偏在は10年以上前から問題になっていましたが、近年さらにひどくなっているように感じます。
- "処遇の改善は早急に対策が必要と思われる。地域行政は大学と協力して薬剤師不足に取り組まなければ偏在は解消されないと思う。"
- これまで、就職活動や実務実習受け入れなどを行ってきましたが、薬剤師がずっと入らず悩んでいます。今日の講演を聞いて、一病院でできる限界を超えていることを実感しました。県全体で取り組む必要性を感じました。
- 医療に関わるものとしての覚悟とやりがいを実感させる制度改革、そして使命感の教育が重要だと思います。
- 「薬剤師の地域偏在や業態の偏在」は解決が困難な問題だと思いますが、これについて取り組んでおられるこの研究が将来を開いてくださることを期待しております。
- やりがいだけで人を集めるには限界があると思います。市町村レベルでの金銭的支援が必要だと考えます。

- 学生や若手職員、現場の薬剤師職員の声を聞いた上で考える必要がある。アンケートは参考にはなるが、一人一人と対面で話をしていかなないと問題の本質は見えないと考える。また、病院の場合、薬剤師は職員の一部しかなく、施設責任者（行政の長）や病院長、事務長の理解と協力が重要であり、情報共有や相談が重要と考える。
- "業態による偏在は給与面の格差であり、元は奨学金の返済によるものであることから学費の自己負担がほとんどない制度の検討も必要ではないかと考えます。（給付型の奨学金だけでなく）ドラッグストアへの就職が多いが、ドラッグストアにおける薬剤師の必要性について法制度も検討すべきではないかと考えます。"
- 中小病院に勤務していますが、薬剤師不足は長年続いています。現状はそれぞれの病院が単独で取り組んでいます。県病薬とも連携し求人情報などの整備が必要と考えています。また、中小病院の良さも発信していきたい。
- "地域偏在について：薬剤師は地元志向の強い女性が多いと自身・周囲のケースからも感じており、不足している地域に大学を作るといった試みは非常に有効であると考えます。業態の偏在について：病院薬剤師になりたいという方は、使命感や学習意欲以外にどんな理由があるのか、個人的にも興味がある。終身雇用という言葉が過去の概念になりつつある今、給与・待遇の改善がなされないままでは、希望する学生は減る一方ではないかと考える。"
- 病院、特に中小規模病院の薬剤師の活動が理解されていないことが地域や業態の偏在を引き起こしているように思う。その点では、薬局の宣伝効果は大きいと思う。本日の講演のような各業態の差を公平に示すことで、学生が自分に合った業態を選べるようになると思います。
- 就職活動する学生にとってより魅力的な職場であるとうことをアピールできるかどうかによると考える。就職活動をする学生にとっては、地域偏在を意識して就職先を選ぶことは考えにくい。各地域の薬剤師会との連携が非常に重要と考える。
- 現状では、各地域に薬剤師を配置する取り組みで乗り切ることが可能かもしれないが、人口減少特に18歳年齢の減少などを考慮すると国として過疎地域の集約を図っていかないと薬剤師だけでなく、国として成り立たなくなっていくと思います。
- 処方箋枚数や病床数当たりの薬剤師数は過去、現在、未来でかなり異なると思います。求められている仕事量を基準とした薬剤師の需要推計が考えられると良いと思う。
- "現在奨学金を受けている学生が多いのですが、地域枠や行政からの補助が必要と思います。個々の医療機関での奨学金補助では、当該補助の需給有無で処遇に不公平感が出ると思います。薬学部の無い地域は、薬剤師確保に難渋するため計画的な確保や大病院からの派遣・出向なども必要と感じました。薬剤師の卒後教育で病院等での勤務義務化も結構ですが、教育・研修期間を長くするとライフイベントにも影響が出てくると思います。（既に6年制の影響や専門薬剤師などの影響もあり、結婚や出産が昔より遅れているように感じています）薬学部定員が増加したため、優秀な薬剤師が減っているよう

に感じています（今の教育制度によるものかもしれませんが）。需要に即した薬剤師の養成を望みます。規制改革会議での内容が進むと、今後薬剤師は在宅や無医村などでの業務など行わないと薬局薬剤師の需要は急激に減少するのではと感じています。"

- "都心での薬剤師過剰となる情報が独り歩きして、地方での薬剤師不足が深刻化していると感じます。その一因として、地方薬学部への入学定員割れと地方からの卒業薬剤師の流出があると思います。"
- 合同討論であったように就職希望の一因として給与の問題はあるかと考える。病院経営側の観点から見た病院薬剤師の給与及び人員確保数は診療報酬が大きく影響している。ここ最近の診療報酬改定は常にマイナス改定であり、わずかある加算条件に対しても対応できる中小病院は少ないのではないかと考える。さらに働き方改革の影響もあり残業時間に制限がありコロナの影響で業務が増えるなか少ない人員で様々な業務拡大は困難であり、現実には病棟業務を縮小せざるを得ない状況が発生している。大規模病院でなくては所得出来ないような病院薬剤師の将来を見据えた業務における診療報酬の加算ばかりでなく、中小病院でも所得可能な加算や薬剤管理指導の包括からの除外など中小病院に見合った診療報酬改定が望まれる。併せて最近の後発品供給体制は非常に厳しい現実がある中で、今回の診療報酬改定ではさらなる後発品使用率の増加が求められている。医療費削減の問題は理解しているが、現状の供給体制を踏まえると患者に対しての不利益が多く採用率を上げることが躊躇してしまう。いずれも現場とかけ離れた診療報酬改定が病院収入に繋がらず、結果薬剤師の給与増加には反映されない為人員拡大も難しい現実となっている一因と考える。
- 実際に出身地域でない限り、同じ県内であったとしても、都市部や自分が行ったことのない土地での生活は想像がつかない上に、そこでの業務（仕事）も想像できないため、学生のうちに実習のような形で経験等できれば、学生たちの精神的な負担（ハードル）は少し下がるのではないかと感じています。
- 薬剤師の地域偏在の根底には、少なからず薬科大学。薬学部や薬学生の地域偏在が関係していると考えます。定員抑制に向けて考慮する必要があると思います。また、6年制薬学教育開始時と比べ病院への就職希望者が年々減少しています。待遇を優先させる学生が増えてきているのが事実ですが、医療機関でのキャリアアップの重要性が在学中の学生に十分に理解されていないのも一因かと思います。
- 毎年多くの薬学生が誕生しているが、近隣の病院や調剤薬局では薬剤師不足が続いている。当院（中小病院）でも薬剤師不足が続いており、現在いるスタッフが疲弊している状況である。シンポジウムでは、学生は奨学金を返済するために病院薬剤師を諦めるという意見もあった。残念である。病院薬剤師の処遇改善が求められていることを感じた。
- "医師も同様の状況と思いますが、薬剤師は余っていく中でも偏在は解消しないと思います。山陰側の病院は非常に苦慮しています。こうした中で地方でも中央と同様に研修

が受けられ、認定を取得していける制度の構築は必要と思います。不便な地域では東京に1日研修を受けに行くのに3日休む必要がある状況、中小病院は特に抜けれない、そしてやる気のある人は地方を志望しない。全国で均等な卒後教育を受けられる仕組みが必要と思います。"

- 待遇の問題があると思われます。やはり給与水準に格差があるとより、高い安定した方に集まるのが道理だと思います。また病院の中での薬剤部の位置付けにも難しさがあるように思います。
- 薬剤師の地域偏在と並んで中小病院では、1人薬剤師の病院が多いことも薬剤師確保の上で足かせになっていると思います（地域差があるのかもしれませんが...）。病棟薬剤業務の実施の有無が鶏と卵に例えられておりましたが、昨今の病院薬剤師の業務拡大と法改定による薬剤師業務の義務化は、電子カルテも整備されていない病院に1人で勤務する薬剤師が抱えるには大きなものであるように思います。学生に「花形はがん治療」のような風潮が続いていますが、「やりがい」の物差しは1つではないはずですので、その選択肢を1つでも多く学生に示すことが出来ればよいのではないかと思います。
- 地域により人材確保が難しい。リクルート活動しても、給与を上げてても薬剤師が来ない病院もある。病院薬剤師の業務量をもっと把握して、病院薬剤師の待遇を検討してほしい。特に病院薬剤師と調剤薬局薬剤師の給与格差をどうにかしてほしい。薬学部卒業後、3年目～5年目の離職率が高すぎる！！結婚、出産を機に給与が低く退職が多い。また、夜勤手当も当院では、資格をもたない看護助手と同じ10000円/回です。薬剤師は夜勤1人体制、仕事内容も多く、夜間救急外来で休憩もろくに取れないなかで、資格をもたず、休憩時間もある看護助手と比べて同じ夜勤手当は考えられない。病院に交渉しても、世間一般がこの程度の手当てだからと交渉もできず、病院薬剤師会として本当にどうにかしてほしいです。現場の病院薬剤師をもって見て欲しいです。病院薬剤師の給与が上がれば、もっと病院薬剤師に人材は集まると思います。
- 都道府県における薬剤師会・病院薬剤師会の強力な連携と行政の支援が必要である。（例えば、医療審議会での議論など）同時に、薬科大学・薬学部の更なる意識改革も求められる。
- やはり田舎にはより人材が戻ってききたい状況にある。
- ドラッグストアの初任給の高さに病院は負けてしまいます。就活担当者は、就職してからの苦勞などは教えてくれないと思います。私は、病院薬剤師ですが、娘が薬科大での就活で初任給でドラッグストアを選んだのに止める事も出来ず、落胆を隠せません。
- 薬剤師の地域間あるいは業態間偏在は重大な問題であり、長期的視点に立って解決策を構築しなくてはならない。
- "検討状況はよくわかりましたが、打開策に乏しくおもいます。
- "偏在を解決する手段として大学生が就職する際にアプローチをかけることが大事だと

思います。大学生が就職を決める大きな要因として就職した仲の良い先輩の意見を参考に決めることもあるかと思いますが。この先輩の意見というのはおおよそ全体を俯瞰した上での”口コミ”ではないことが往々にしてあります。5年生後半には方向性を決める動きもありますので、そのときに授業の1-2コマを使って、いわゆる先輩の””口コミ””に勝てる正しい情報を提供できる時間を設けることが解消の一手になる気がします。もう一つの偏在の解消の手段としては医師が行っている医局制度に近いものがあるかもしれませんが、新たに病院・薬局こだわらず薬剤師を派遣できる組織を各都道府県に立ち上げ、一定期間、薬剤師が少ない施設に派遣することができれば解消につながるかもしれません。”

- 機能評価や診療報酬改定などで、一律に薬剤師の役割を求めるのではなく、人員が不足している地域ではそれなりの基準を設定すべきであると考えます。病院の機能として必要な業務であることは理解していても、人手不足ではどうにもならない。人手不足の状態であるのに、一律に一般病棟はこうあるべきという基準を定めても出来ないものはできず、少人数で頑張っている職員にストレスとなり辞めてしまい、悪循環となっている。
- 地方が不便であるという考え方は、コロナ禍でオンライン対応を経験したことにより変容するのではないかと考えています。情報格差の問題はまだ残るかもしれません。しかし、キャリアアップを指向した研修会への参加や地域薬局等での服薬指導など、地域差に関係なく対応できることが今後増えるのではないのでしょうか。
- 卒前のふるさと実習と同様に、卒後臨床研修が必要と感じます。その際に薬剤師が不足している特定地区で研修を行うと、何か資格取得に反映されるポイントを付けて貰えると良いです。
- 我が県には薬学部がなく、6年生になった事で、学費のみならず生活費がかなりかかる状況があると考えています。ここ数年実実習以外で見学やインターンシップの受入れをしている中で、学生さんからは福利厚生を多く受けます。復職支援が充実している事は魅力のようです。他、看護師の教育システムとまでは言いませんが、キャリア形成プログラム整備は大きな鍵だと感じております。
- 入学選抜における地域枠設定（入学後の確約の設定）は重要だと考えられる
- 全体としては薬剤師は過剰気味なのに地方での薬剤師不足や病院に就職しないという矛盾点を解決しないと薬剤師の職能そのものが問われ、薬剤師不要論にならないか心配である。
- 若い人は、給与だけでなく待遇(福利厚生, 他の若者の有無等), レジャー施設の近接等によって、勤務先を選ぶため、高齢者の多い職場では、複数の若い人を採用する計画を立てないと中小や小さい薬局では、募集に応募してくるものがいなかったりする。(不足人員は1人でも, 2人雇うようにしないと応募が難しい)

問5. 「地域における効果的な薬剤師確保の取組に関する調査研究」は、厚労科研費による2年間の研究です。2年目の研究に向けて、ご意見やご要望をお聞かせください。

(コメント 35 件)

- 人員数の不足から、精神的に疲労困憊している現実がある。
- 現状を正しく分析していただき、現状に大きな問題があるのであれば、忖度なく強い意見を出していただきたい。
- "今回のシンポジウム、事後登録でもオンデマンド視聴できるようにしていただきたいです。広く課題を共有すべきと思います。"
- 出産・育児を終えた女性薬剤師を病院薬剤師として復職させるために、該当者の実態調査や復職のためのニーズを調べて頂ければ幸いです。
- 2年間で延長はないのでしょうか？
- "新型コロナウイルス感染拡大に伴い、薬学生の就職活動に影響を及ぼしたと思われます。出身地の医療機関への就職を見送ったり、対面での就職説明会が実施できなかったりしたことの影響はあるのでしょうか。"
- 今日のような取り組みを薬剤師会団体から積極的に発信すべきと思う。
- 「地域における効果的な薬剤師確保の取組に関する調査研究」に関するシンポジウムを開いていただき、ありがとうございました。このシンポジウムのお蔭様で、この件の知識を深めることができました。
- 薬剤師は医療職の一部なので、他職種や社会の認識を把握することが必要と考えます。薬剤師の業務やその意義は病院内、地域でも十分認知されていないところも多いと感じます。その現状を見える化することも必要と考えます。
- 入学時から卒業時にかけて、希望する就職先がどう変化したかを追うことができれば面白いのではないかと思います。記憶が薄れる類のものではないので、6年生に、現在の希望先と併せて1年生のときの希望先を聞くことでも可。
- 中小規模病院で勤務経験がある者として、非常に期待しています。また、何かお役に立てることがあれば、お手伝いしたいです。
- 「奨学金返済」が就職先の選択理由になることは他の医療職ではあまり聞かれない事ではないでしょうか？本来医療の担い手を目指して大学進学したはずであるにもかかわらず、就職先の選択理由と当初の目的がかけ離れてしまうのは残念なことであると感じている。
- "今回、金銭的な待遇改善が多く述べられていましたが、薬剤師の質向上ややりがいに繋がる業務を構築していくことも重要と思います。現在の薬学、薬剤師の問題として以下のようなことを考えておりますが、是非、具体的かつ実行可能な対策についてもっと詳細に調査していただければと思います。
①病院の業務内容と充足状況の相関が示されていますが、病院薬剤師の標準的な業務はどこでも実施できる体制（実施できていないできていなくても業務が成り立っている

る施設が多いように思います。)をどのように構築すべきか(薬剤師業務の標準化)

②薬剤師の質向上のためにレジデント制度の立上げは是非必要と考えます。本日も大学で制度を立ち上げられた報告がありましたが、大学6年間のカリキュラムとレジデント制度の中でのカリキュラムに関しては検討されていないように思います。それぞれバラバラに検討されているように思いますので、無駄なく効率的に卒後教育を行うためには大学と医療施設の連携していくか(大学ではどこまで学修して、レジデントでは何を学修するのか). "

- 医師と同様に僻地医療に行政が絡むと良い。今は一部、民間の薬局チェーンが絡んで尽力している。また、2040年以降に向けた、日本総過疎地化に向けての考えの種となると良い。
- "薬剤師が過剰となる情報と併せて、どの地域で薬剤師が不足しているか(育児に伴う薬剤師の休職時期や地域の高齢化率等を踏まえて)を国民に継続的に正しく示すための情報発信する仕組みを整備する必要があると考えます。また、薬剤師不足に伴い医療提供が充分に行えない地域への行政や国としての支援体制についての検討も必要と考えます。"
- その地域に薬剤師が少ないから、この病院に薬剤師が少ないから、だから行きなさい、と他人がいくら言っても当然、その人の考え方や生活、キャリア形成等、その人個人にとっては重要なことなので、人から言われて行けるわけもなく、自らそのような地域や業態に行きたいと思わせるような、施策なのか、教育なのか、それこそ給料なのか、わからないですが、特に偏在(不足)地域において、薬剤師が定着するにあたり、何が大切なのか、何が必要なのか、薬学的な要素以外の要素も踏まえた調査研究も必要なのではないかと感じました。具体的にどうだとは言えませんが、なんとなくですが、和歌山県立医科大学がやろうとしているところに何か大きなヒントが隠れているように感じました。
- 本日の講演の中で一般的な3年以内の離職率と薬剤師の離職率は、ほとんど変わらないといったお話がありましたが、6年制薬学部の一期生から見ている限り旧来の薬学部卒業生に比べ高いような気がします。薬剤師転職者の追跡調査(業態や理由など)から問題解決のヒントが得られるような気もします。
- "2年で結果を出すことは困難と思われるので、取組後の結果確認等の研究継続を望みます。"
- "奨学金の返済については対策が必要と思います。また応募者に聞いても、日病薬の求人ページが見られていない。多くの病院が登録する必要がある。またページについても写真を掲載するなど、ブラッシュアップが必要かと思う。地方の中小病院の声を拾って行っていただきたい。"
- 地域住民のニーズが反映され、薬剤師の必要性が明確化されることを望んでいます。
- 貴重な調査結果をお示しいただき、ありがとうございました。総合討論で、「中小病院

の採用は新卒者ではなくても…」との発言があり「なるほど」と思いましたが、その場合、薬剤師会や自治体で採用者への働きかけなどの協力体制があるものでしょうか？新卒者であれば大学をターゲットに採用活動ができますが、その辺りは各病院に任せられるところでしょうか？どこかで取り組まれている好事例をご教示いただけましたら幸いです。

- 研究の成果を現場に活かしてほしいです。現場の病院薬剤師は、給与面で退職が多いことに対して、どう対応してくれるのですか？医師と同じ薬学6年生になっても給与面は何も改善されていない。研究するのであれば、現場の若い薬剤師のためにも、しっかりと給与面のことも考えてほしいです。
- "6年制薬剤師にとって夢のある、元気の出るような事例も示しながら、この調査研究を進めていただきたい。他の医療職種の地域偏在との比較も知りたいところです。(概ね同じ傾向ならばいいのですが。)"
- "地方では一度就職したらそのまま終身雇用となりがちで、人員の交代が殆ど無く、進歩も少ない！又、地方では役職本来の業務の他、人員不足(定員を増やしたがない雇用者がある)の為、夜勤等も押しつけられ、業務時間が重なって十分な仕事ができないことがある。そのため、都会志向が未だに多い。"
- 医師の研修医制度のようなものを薬剤師にも作って、卒後何年かは、病院勤務を経験してほしいです。
- 薬剤師業務の将来的展望に立って、議論を進めるべきである。給与格差や奨学金の問題は薬剤師に限らずすべての業種に共通した現代的課題ではないか。
- 6年間の教育を受けていながら、薬剤師は医療現場での花形的なイメージに乏しく、病院実習では学生は忙しく厳しいイメージしか抱かない。処遇改善を最優先で考えないとモチベーションを抱けない薬剤師の増加が止まらない。
- 業務が忙しく、調査研究に協力できない施設がある点がバイアスになっているかと思えます。施設に1-3人しか薬剤師がいない施設を一般病院、療養、精神科、ケアミックス、機能別薬局等の各業態で数施設ピックアップし、アンケートを行えば潜在的な問題を抽出できるかと思えます。
- 病院薬剤師を目指す薬剤師(新卒、転職含む)は、何の情報から得て決めているのかを調査してほしい。県の薬剤師会や日本病院薬剤師会などのサイトは上位に上がってこず、転職サイトを見ている方が多いように思う。
- Uターン・Iターン・Jターンで働く人の考えも聞いてみたいと思いました。
- "中堅薬剤師がどんどん病院を離れていきます。その方たちの意見をきく事が出来れば、対策にもつながるかと思えます。個人的にきいた中では、三交代勤務をしながらの子育ては厳しいとか、給与面をあげてきます。ご家族の支援が得られるかも大きいようです。"
- 重要な調査であり、このような結果のフィードバックを次年度も継続してほしい

- 患者が薬剤師に求めることを明確にする研究を行っていただきたい。
- 踏み込んだ解決案の提示により、議論が起こることを願う。今の現状を解決しない限り、薬学部を志望する学生が減り、優秀な人材を薬剤師職で確保できなくなる。
- 薬剤師職場は、他の職場の薬剤師の交流機会に限られるため、勤務開始から如何に他の薬剤師と一緒に何かを行える機会(地域包括ケアシステムなどの勉強や研修等)を増やして、同じ境遇の人との交流を持たせて、仕事のモチベーションを上げる対策が必要と感じている。

問6. 本アンケートは、シンポジウムの事前登録システムから独立した無記名の調査システム (Microsoft Forms) を利用しています。アンケート結果の解析のために、回答者の所属について、当てはまるものをお選びください。

大学	24
病院	42
薬局	3
企業	1
行政	6
学生	2
その他	4

Ⅱ. 研究成果の刊行に関する一覧表

なし

Ⅲ. 研究成果の刊行物・別刷

なし

2022年5月27日

厚生労働大臣 殿

機関名 帝京大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 冲永 佳史

次の職員の令和3年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業

2. 研究課題名 地域における効果的な薬剤師確保の取組に関する調査研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 薬学部・特任教授

(氏名・フリガナ) 安原真人 (ヤスハラマサト)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	帝京大学医学系研究倫理委員会	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

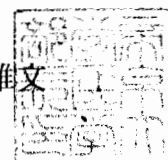
当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2021年11月18日

薬学部
学部長 奥 直人 殿
特任教授 安原真人 殿

医学部長 川村雅文



審査結果通知書

2021年11月18日に帝京大学医学系研究倫理委員会で迅速審査案件として審査され、下記の結論を得ましたので、判定書を添えてお届け致します。

記

議題:薬学生の就職希望/決定先とその決定要因に関する Web アンケート調査 (帝倫21-157号) の実施について

実施可とする。

また、実施にあたっては利益相反管理委員会による勧告に従うことが前提になることに留意すること。

なお、介入を行う研究については以下の事項を厳守すること。

1. 臨床研究データベース「jRCT (Japan Registry of Clinical Trials)」又は国立大学附属病院長会議が設置している公開データベースに、当該研究の概要をその実施に先立って登録すること。
2. 研究計画書の変更及び研究の進捗に応じて、当該データベースへの登録内容を適宜更新すること。
3. 研究を終了したときは、遅滞なく、当該研究の結果を当該データベースに登録すること。

以上